

# 支那鑛業時報

第 8 2 號

昭和 9 年 1 2 月 1 日

## 目 次

### 論 說 及 報 文

奉天省蓋平縣及海城縣下瑩石調查報文.....	門 田 重 行
圖寧線北老松嶺隧道地質調查報告.....	門 田 重 行
瀋陽縣康大人山附近地質石灰岩調查報文.....	山 口 四 郎
吉林省五常縣三道溝子石炭調查報告.....	澤 介 治

### 雜 錄

哈爾濱附近ノ石材ニ就テ.....	澤 介 治
日本ノ製鋼業(抄譯)	

### 時 事 彙 報

滿 洲  
支 那

### 新 刊 紹 介

南滿洲鐵道株式會社地質調查所



# 始



寄贈

10.4.26

帝國圖書館



## 內容目次

### 論說及報文

奉天省蓋平縣及海城縣下盤石調查報文	門田重行	1
圖寧線北老松崗隧道地質調查報告	門田重行	14
瀋陽縣康大人山附近地質並石灰岩調查報文	山口四郎	21
吉林省五常縣三道溝子石炭調查報告	澤介治	35

### 雜錄

哈爾濱附近ノ石材ニ就テ	澤介治	40
日本ノ製鋼業(抄譯)		43

### 時事彙報

#### 滿洲

滿洲主要鑛山出產額統計表(昭和8年)	111
濱北、齊北兩線沿線鑛產地概況	115
滿洲炭鑛株式會社法	119
滿洲採金株式會社法	120
滿洲石油株式會社法	122
滿洲國鑛業監督署ノ名稱、位置及管轄區域	124

#### 支那

山東省主要炭田年產統計表(1902—1933)	126
門道溝炭鑛近況	127
湖南省鑛業消息	128
廣西省ノ鑛產	129
中國ニ於ケル石油賦存量ノ概要	135
新刊紹介	137



# 支那鑛業時報

第82號 昭和9年12月1日

## 論說及報文

奉天省蓋平縣及海城縣下螢石調査報文 (昭和8年7月)

地質調査所員 門田重行

### 1 總括

#### 1 產地及位置

今回踏査セル螢石産地下記ノ如シ。

- イ 破 臺 子
- ロ 蕭 家 墳
- ハ 李 家 溝
- ニ 南 張 家 溝
- ホ 北 張 家 溝 (重晶石)
- ヘ 五 道 溝
- ト 思 拉 堡
- チ 崔 家 溝
- リ 沙 崗 臺
- ス 老 母 溝
- ル 上 隋 家 屯
- ヲ 枕 頭 店 (又ハ吳家屯)

上記12箇所ノ産地中(イ)乃至(ト)ハ滿鐵本線蘆家屯驛東8軒乃至20軒、(チ)ハ西4軒、(リ)ハ南東12軒ニアリ。共ニ奉天省蓋平縣ニ屬ス。(ル)及(ヲ)ハ關東州普蘭店管内長山寺會ニアリ。普蘭店驛ノ南東20軒及25軒ナリ。



各驛山元間ハ道路平坦ニシテ、交通運輸ノ便良好ナリ。

## 2 産地類別

上記螢石産地ハコレヲ5種ニ類別スルヲ得

第1種 螢石ノ纏リ不良ニシテ到底有利ノ鑛業ニ堪ヘサルモノ、換言スレハ鑛床トシテ取り扱ヒ難キモノ。

思拉堡ノ螢石

崔家溝ノ螢石

枕頭店(吳家屯)ノ螢石

第2種 以前移行サレタレトモ、最早ヤ鑛體ノ經濟的主要部盡キ、今後探鑛乃至經營ノ價值ナキモノ。

破臺子ノ螢石

第3種 第2種ニ屬スルカ如キモ、鑛床地質學ノ立場ヨリ或ハ探行價值アル新鑛體ノ地下ニ潜在スルヤモ知レス。從テ螢石ノ需要増シタランニハ一應探査ノ必要ヲ認ムルモノ。

沙崗臺ノ螢石

第4種 纏リ比較的良好ニシテ探鑛乃至探行ニ堪フルモノ。

蕭家墳ノ螢石

李家溝ノ螢石

南張家溝ノ螢石

北張家溝ノ重晶石

五道溝ノ螢石

老母溝ノ螢石

第5種 鑛床評價濟ミノモノ

上隋家屯ノ螢石

本報文ニ於テハ第4種鑛床ニ就キテノミ記載ス

## 3 蓋平縣下ノ螢石鑛床

鑛床ハ何レモ西大山脈ノ西側斜面幅員約1軒延長約5.5軒ノ一種ノ螢石鑛床地帯ニ於テ、黑雲母花崗岩中ニ噴出セル螢石石英脈ナリ。

### 4 蕭家墳ノ螢石

a. 鑛床 石英脈中ニ扁豆狀螢石脈ヲナシ、延長約15米、脈幅中央膨大部ニ於テ1.5米

b. 品質 粗鑛(露頭ノ石英脈中ニ於ケル螢石ノ容積割合、以下コレニ同ジ)

6割5分内外

精鑛(手選ニヨル螢石ノ含有容積見込ミ、以下コレニ同ジ)

9割以上

c. 鑛量 未ダ明カナラズ

### □ 李家溝ノ螢石

a. 鑛床 石英脈中ノ裂罅充填鑛脈

脈幅25圍乃至30圍、探鑛セサレハ走向及傾斜方向ニ於ケル螢石脈ノ引續キ明カナラズ

b. 品質 粗鑛 7割5分内外

精鑛 9割5分以上

c. 鑛量 脈幅薄ケレバ素ヨリ鑛量ノ大ヲ期待シ難シ。然レトモ脈勢比較的整然タレバ、俄カニ鑛脈ノ消失スルカ如キコトナカルベシ。

又附近螢石産地中一等品ノ産地ナレバ尙土法探行ノ價值ヲ失ハズ。

### ハ 南張家溝ノ螢石

a. 鑛床 石英脈中ノ裂罅充填鑛脈

脈幅 良鑛部25圍

貧鑛部60圍

延長25米、傾斜ニ沿フ深サ30米(但シ豫想)

b. 品質 粗鑛 5割5分内外

精鑛 8割5分豪

c. 鑛量 豫想精鑛量170圍内外

### ニ 北張家溝ノ重晶石

a. 鑛床 石英脈中ノ裂罅充填鑛脈、脈幅平均1米、豫想延長70米、深サ傾斜ニ沿フテ50米

b. 品質 粗鑛(重晶石) 6割内外

精鑛 8割5分以上

c. 鑛量 豫想精鑛量 1,084圍

### ホ 五道溝ノ螢石

床 石英脈中ノ裂罅充填扁豆狀鑛脈

脈幅 40圍乃至80圍

b. 品位 粗鑛 5割内外

精鑛 8割5分内外

c. 鑛量 精査セサレバ鑛床ノ引續キ不明ナリ。然レトモ本地螢石鑛床地帯中區域最モ長大ナレバ埋藏量ノ點ニ於テハ恐ラク第一位ナランカ。殊ニ本鑛山ノ頂上部附近露頭ニ於テハ比較的螢石ノ含有量多キ部分アリ。地下新鮮ナル部分ニ於テハ尙幾分品位ハ向上スル見込ミナレバ、精査ノ價值アリ。

### 4 海城縣下ノ螢石鑛床

鑛床ノ産出状態ハ全ク蓋平縣下ノモノニ同ジ。



#### 4 老母溝ノ螢石

- a. 鑛床 石英脈ノ上盤際ニ於ケル充填鑛脈  
脈幅 35厘内外。鑛脈ノ延長及深度探鑛セサレバ不明
- b. 品位 粗鑛 7割5分内外  
精鑛 9割5分以上
- c. 鑛量 探鑛セサレバ不明

#### 5 意見

今回調査セル蓋平縣及海城縣下螢石鑛床ハ、總テ花崗岩ヲ貫キテ迸發セル石英脈ニ隨伴シ、脈幅25厘乃至80厘(稀ニ1.5米)ノ裂隙充填扁豆狀鑛脈ニシテ、脈石トシテ石英、重晶石及方鉛鑛ヲ伴フ。

往々品位高キ粗大ノ塊鑛トナリテ産スルコトアルモ、粗鑛ノ平均含有容積ハ螢石5割乃至7割5分、手選ニヨル見込ハ8割5分乃至9割5分ナリ。

調査ヲ充分ニスルコト能ハサル現狀ニ於テハ、埋藏量ニ就キ明確ナル所見ヲ述ヘ得ズト雖、蓋平縣下螢石產地ハ區域相當長大ナレバ、埋藏量モ相當コレアルベク又現產地附近ニ新鑛體ノ發見サル、見込ミナシトセス。

又重晶石鑛床トシテノ北張家溝鑛床ハ現在南滿洲ニ於テ知ラレタル重晶石產地中最大ノ鑛量ヲ有スルコトハ疑フ容レサルトコロナレバ、コレ亦他日利用開鑛スルノ意圖アルヲ要スヘシ。

要之、上記鑛床ハ其ノ地理的位置ト併セ考ヘテ相當注目ノ價值アリト認ム。唯現在ニ於テハ鑛床ノ組織的調査極メテ不充分ニシテ俄カニ其ノ價值ヲ評シ難ケレハ、今後鑛床附近ノ精密ナル露頭調査ヲ行ヒ、重要ナル部分ニ於テハ剝土、掘割又試掘坑道等ノ探鑛調査ヲ實行シ、地下ニ於ケル鑛況ノ變化ヲ確メ、可採鑛量ヲ算定スルコト緊要ナルガ如シ。

#### 2 蓋平縣下螢石產地一般地形及地質

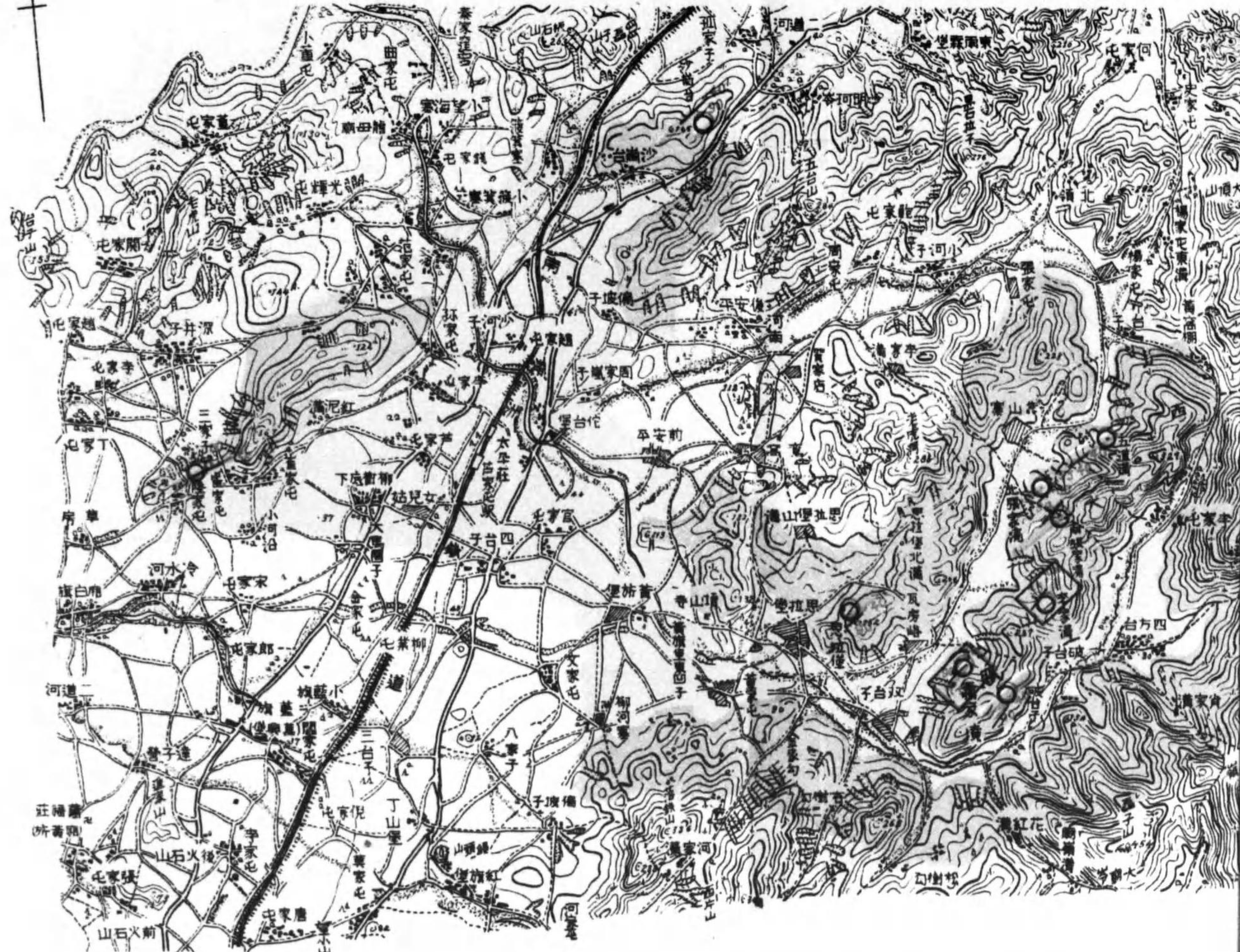
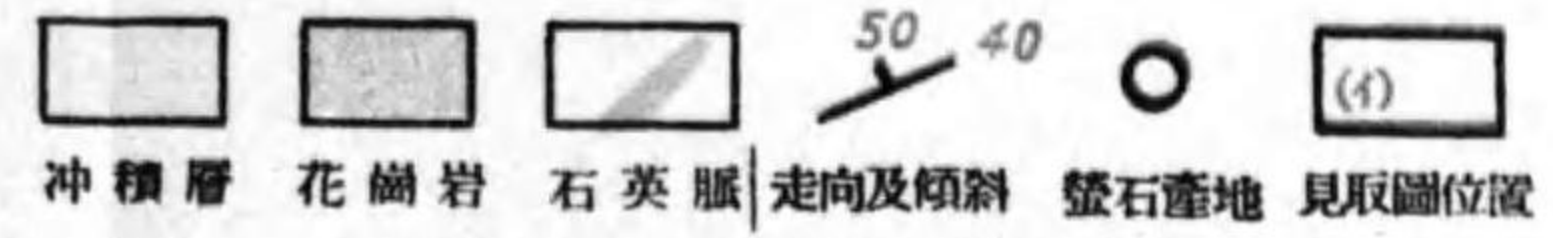
螢石產地ハ滿鐵本線東方圖上距離約10軒、略之ト竝走シテ北々東ヨリ南々西ニ走ル西大山脈ノ西側斜面部又ハソノ山麓ノ丘陵地ニアリ。

西大山脈ハ高距海拔220米乃至320米ニシテ黑雲母花崗岩ヨリ構成セラル。而シテ本花崗岩ハ山背ト竝行スル石英脈數條ニヨリテ貫通セラル。コレラ石英脈ハ幅1.5米乃至5米ニシテ、時ニ平行脈トシテ存スルコトアルモ、多クハ其ノ走向方向(北々東乃至北東方向)ニ幾度カ明滅シテ現出シ其ノ引續キハ5.5軒ニ達シ、西大山脈ニ沿フテ、1ノ石英脈地帯ヲ形成セリ。而シテコレラ石英脈ハ局部的ニ螢石ヲ集中セシメ、往々稼行價值アル螢石鑛床ヲ招來セルトコロ少ナカラズ。コレヲ南ヨリシテ言ヘバ、双臺子部落ノ北東ニ出現セル石英脈ハ、北東走シテコレニ蕭家墳鑛床ヲ胚胎セシム。本石英脈一度消滅スルモ、其ノ走向方向ニ1.5軒ヲ隔テ、別ノ石英脈現ハレ、コレニ李家溝鑛床ヲ附隨セシム。更ニ北東走スレバ南張家溝鑛床及北張家溝重晶石鑛床ヲ隨伴スル他ノ2



熊岳城附近螢石產地位置圖

十萬分之一



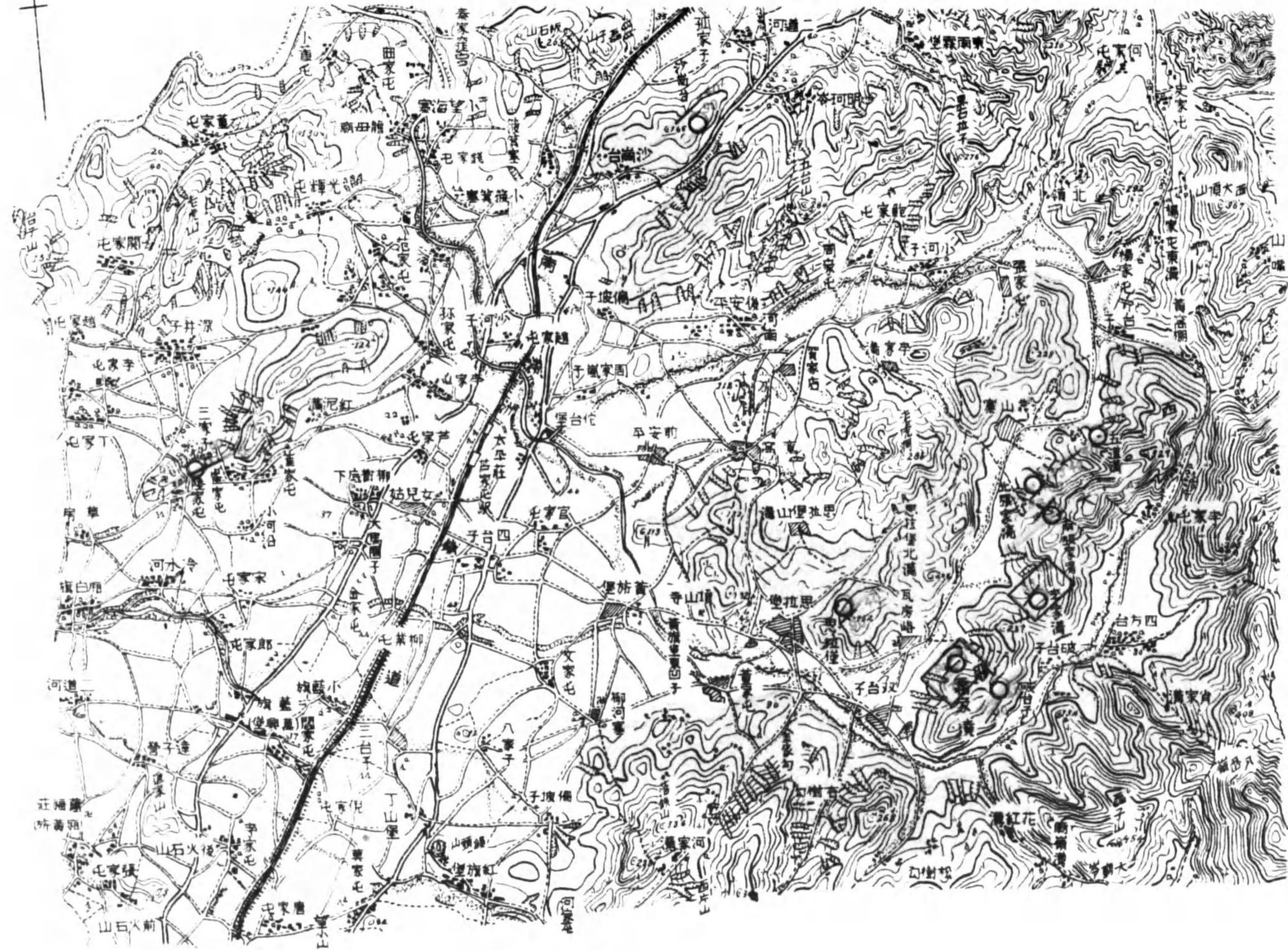
遺件シ、脈  
方鉛礦ヲ伴  
割乃至7割  
ズト雖、蓋  
體ノ發見  
大ノ鑛量ヲ  
シ。  
ニ於テハ鑛  
精密ナル露  
地下ニ於ケ  
西大山脈ノ  
花崗岩ハ山  
時ニ平行  
成シテ現出  
レラ石英脈  
ズ。コレヲ  
鑛床ヲ胚胎  
コレニ李  
スル他ノ2



熊岳城附近螢石產地位置圖

十萬分之一

冲積層 花崗岩 石英脈 走向及傾斜 螢石產地 見取圖位置





石英脈ノ出現アリ。更ニ其ノ北東方向ニ當リテ、五道溝鑛床ヲ寄與セル1大石英脈ノ露頭アリ。斯ノ如ク西大山脈ノ西麓部ハ1種ノ石英脈地帯ニシテ、本地帯中隨所ニ螢石鑛床ヲ分布スルヲ以テ、1ノ經濟的重要ノ鑛床地帯ヲ形成セリ。

(1) 蕭家墳ノ螢石

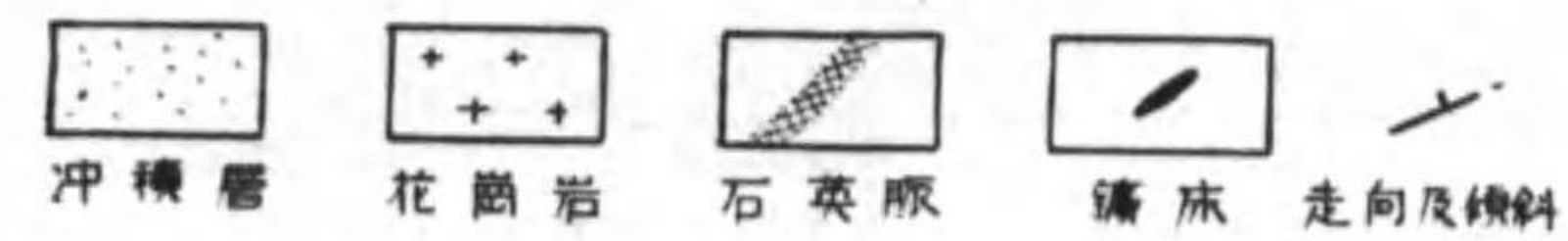
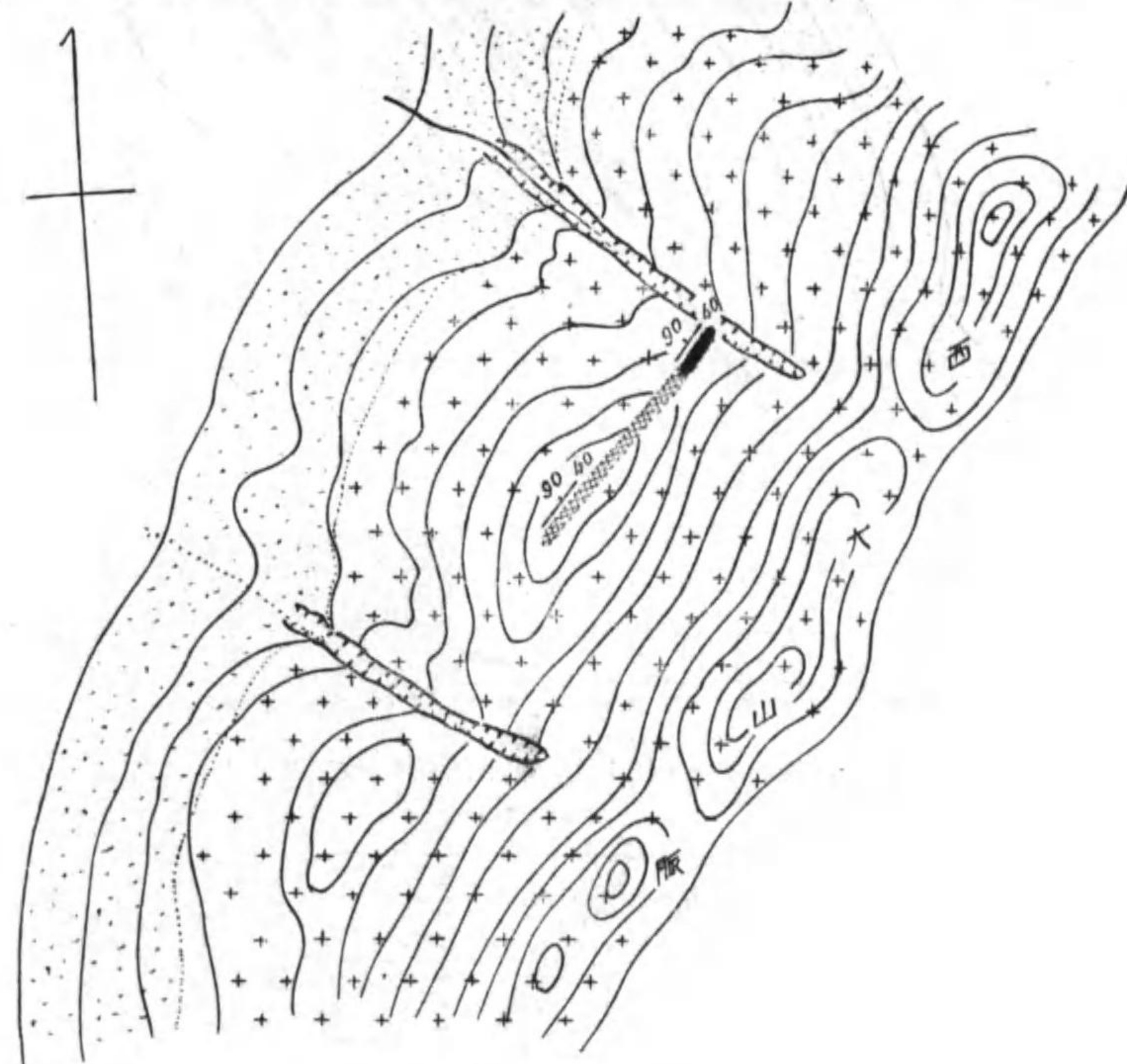
a. 位置及鑛床 本鑛床ハ蘆家屯驛ノ東方、道路ニ沿フテ約10軒、西大山脈ノ西麓部ニアリ。

本地石英脈ノ脈幅1.5米乃至3米、平均2米ニシテ、走向北40度東、傾斜殆ド垂直、地表ニ於ケル延長約150米ナリ。螢石ハ上記石英脈ノ北東端ニ近キ、1雨裂溝ノ南側ニヨク集中ス、調査

第一圖

蕭家墳螢石鑛床地形及地質見取圖 縮尺約八千分之一

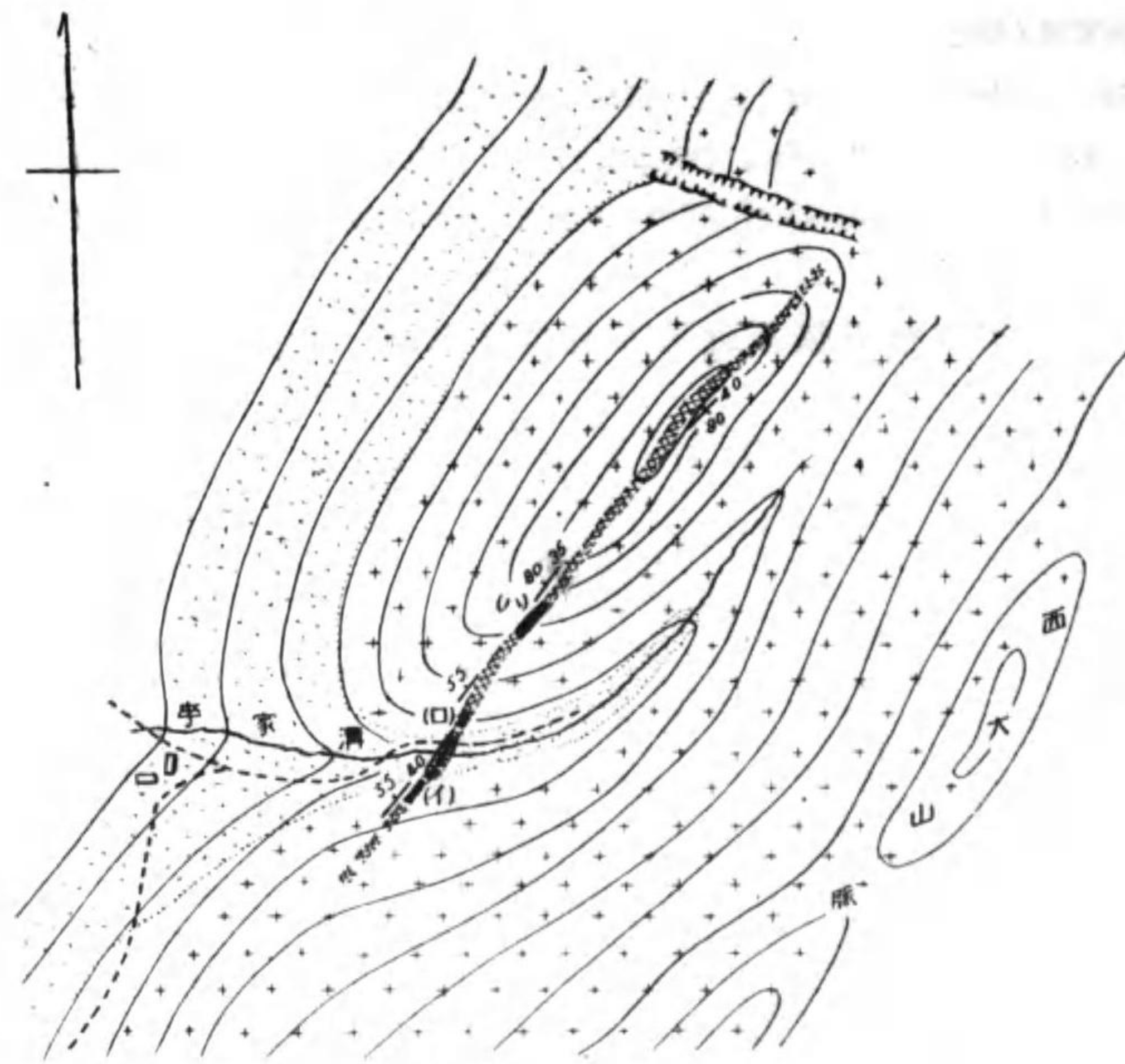
(1)



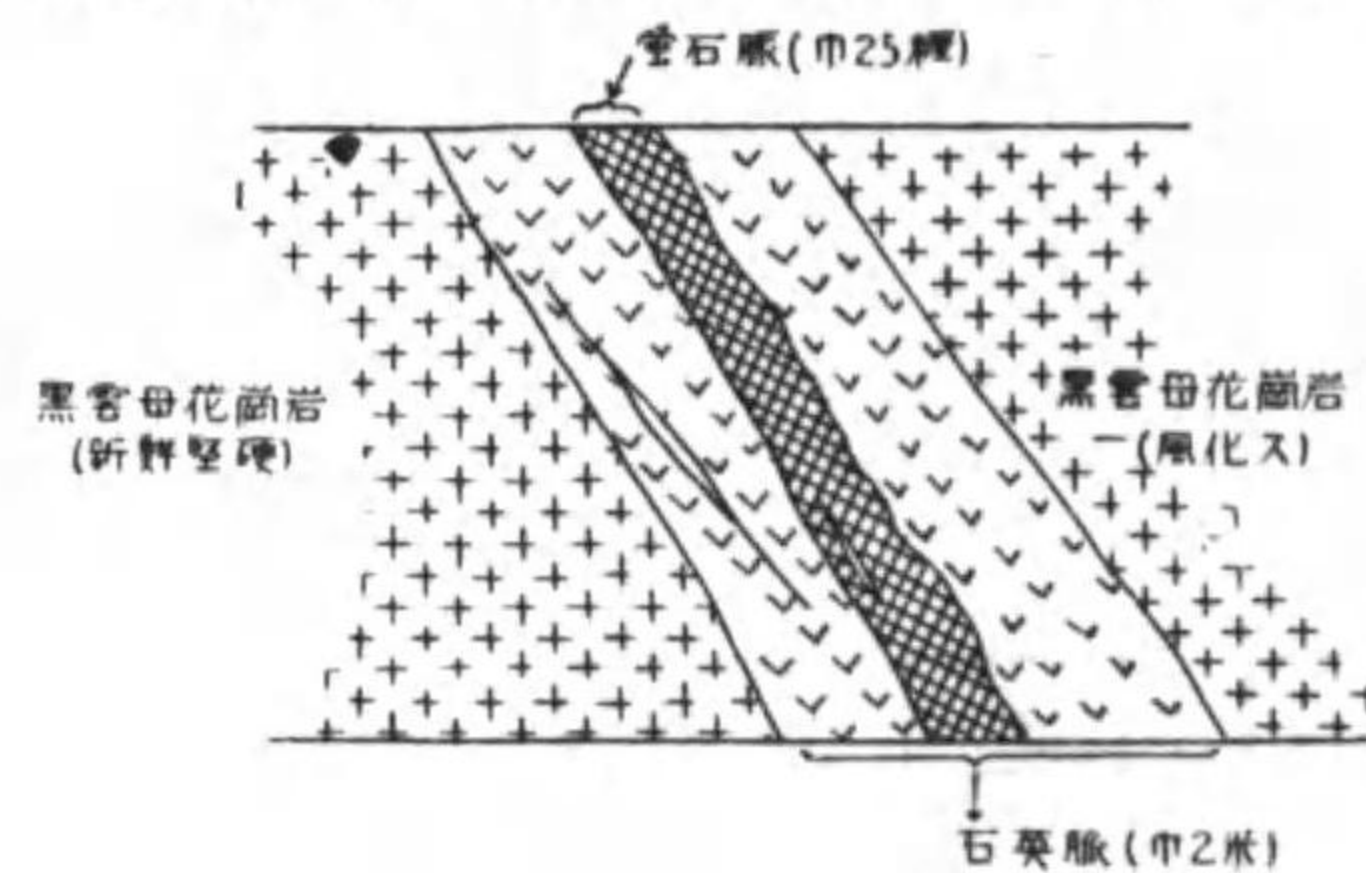


### 李家溝螢石鑛床地形及地質見取圖

(口) 縮尺約四十分之一



第1圖(イ)切端=於ケル鑛床見取圖(谷間ヨリ南方=見タル)



當時ハ露頭部ノ割土中ニテ全貌ヲ觀察スルヲ得サリシモ、脈幅3米ノ石英脈中、螢石ハ其ノ膨大部ニ於テ幅1.5米、長サ15米内外ニ亘リテ賦存ス。其ノ兩端ハ赤色土壤ニ被覆セラレ明確ナラスト雖、漸次螢石ノ含有割合ヲ遞減シ更ニ其ノ先端ヲ追跡スレバ石英ノ單一脈トナル。惟フニ本鑛床ハ石英脈中長リ15米内外、幅膨大部ニ於テ1.5米内外ノ扁豆狀鑛體トシテ賦存シ、其ノ兩端ハ楔形ニ尖滅スルモノノ如シ。

b. 品質 粗鑛ハ青色又ハ綠色ヲ呈スル指頭大又ハ拳大ノ螢石結晶ノ集結ヨリ成ル。露頭ノ螢石含有容積ハ螢石約7割、脈石約3割ナリ。上鑛ノ部ニ屬スルモノハ品質塊狀ノ塊鑛トナリテ産シ肉眼的ニハ殆ンド脈石ノ存在ヲ認メ難キモノアリ。

當所ニ於テ分析セル結果ハ下ノ如シ。

上鑛 (No. 14)	弗化カルシウム	珪酸	磷酸バリウム	比重	
	98.90	1.49	ナシ	3.21	
下鑛 (No. 15)		47.61	12.35	39.84	—

c. 鑛量 今回ノ調査ニ於テハ鑛床ノ地下ニ於ケル變化豫想ヲ推定スルニ難ク從テ埋藏量ヲ算出スルニ難シ

#### (口) 李家溝ノ螢石

a. 位置及鑛床 本鑛床ハ上記蕭家墳鑛床ノ北約1軒、同名部落ノ東方約300米ノ溪谷部ニアリ。

石英脈ハ溝ノ左右兩岸ニ開析セラレテ現ハル。右岸ニ於テハ北40度東ニ走リ、山ノ峻線部ヲ構成シテ約400米露出シ、其ノ先端ハ急崖ニ斷絶セラル。脈幅ハ溝岸ニ於テハ2米、傾斜北西ニ

55度、山胸部ニ於テハ北西ニ80度ナリ。頂上部ニ於テハ脈幅4米内外ニ膨大シ、傾斜殆ンド直立ナリ。左岸ニ於テハ石英脈ノ幅1.5米ニシテ、同ジク走向北40度東傾斜北西ニ55度ナルモ其ノ脈先ハ表土雜木ニ被覆セラレテ延長明カナラズ。

螢石ハ上記石英脈中3箇處ニ集中ス。便宜上南ヨリ(イ)(ロ)及(ハ)トス。而シテ(イ)及(ロ)ハ現在熊岳城長山子大德石鑛公司ニ於テ開採中ナリ。

(イ) 切端ハ溝床面上高サ約6米、幅1.5米ノ断面ヲ成ス。コノ部ニ於ケル石英脈ハ幅2米ニシテ走向北40度東、傾斜北西ニ55度ナリ。螢石ハ石英脈ノ中央部ニ裂開セル裂罅ヲ充填スル單鑛脈ヲナシ、脈幅25釐ニシテ、脈石トシテ石英、重晶石及方鉛鑛ヲ隨伴シ、其ノ走向傾斜ハ石英脈ニ一致ス。而シテ上

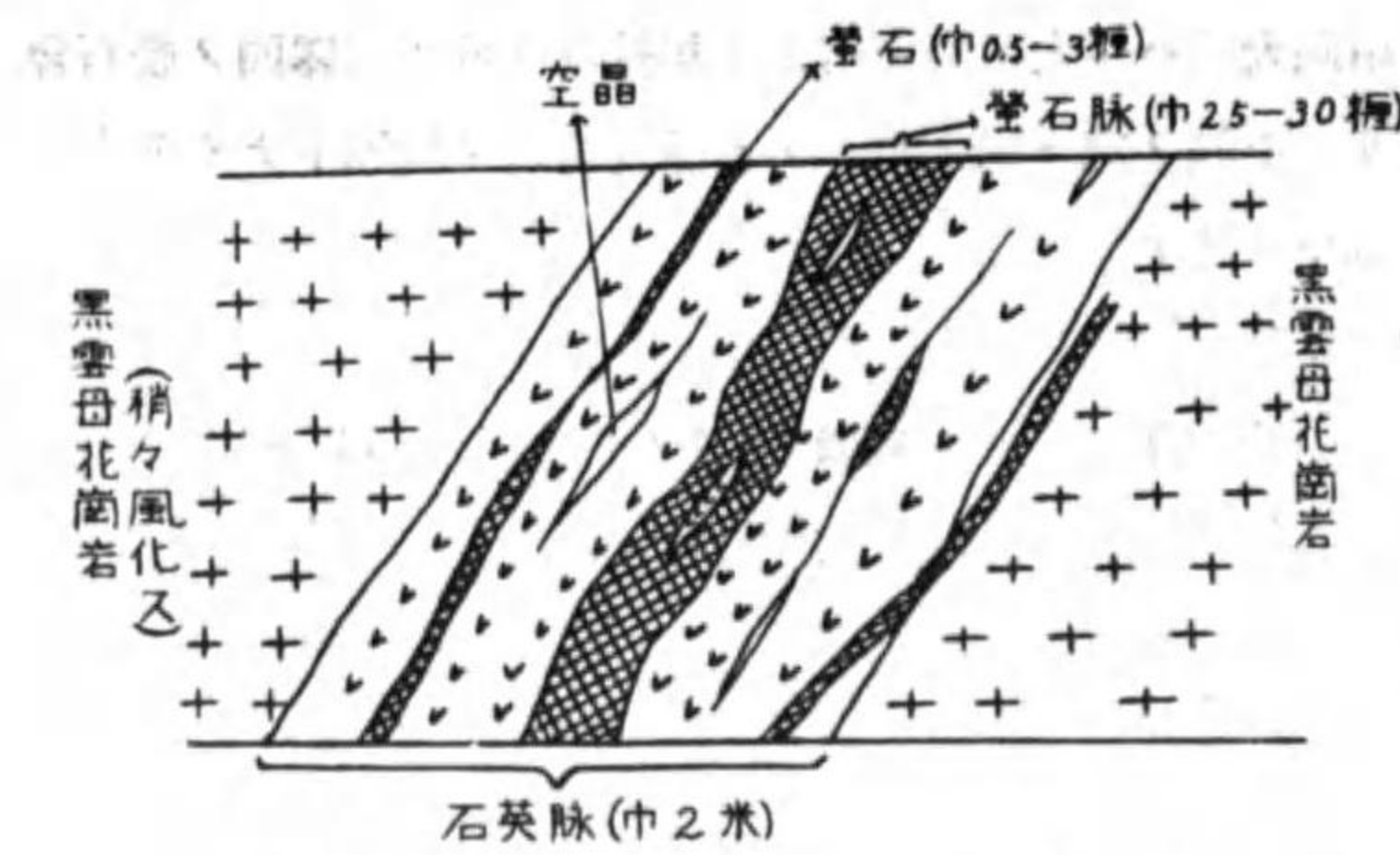


李家溝鑛床(口)切端



盤花崗岩ハ風化軟弱ナルモ、下盤花崗岩ハ甚ダ堅硬ナリ。

(ロ)、切端ハ溝床面上高サ約10米、幅約2米ノ切面ヲナス。石英脈ハ幅2米ニシテ、北40度東ニ走リ、北西=55度傾斜ス。螢石ハ(イ)ノ部ニ同ジク、石英脈ノ略ホ中央部ニ於ケル裂隙充填鑛脈ニシテ、螢石脈ノ幅ハ25厘乃至30厘ニ變化シ、脈中脈石トシテ石英、重晶石及方鉛鑛ヲ伴ヒ、其ノ走向傾斜ハ石英脈ノソレニ同ジ。



第二圖 (ロ)切端ニ於ケル鑛床見取圖 (谷間ヨリ北方ニ見タル)

岩ノ軟質ニシテ、下盤花崗岩ノ硬質ナルコト(イ)ノ部ト同様ナリ。

(イ)及(ロ)間ハ溪流ニ直角ニ長サ約15米、幅2米、深サ3米乃至4米ノ露天掘跡ヲ示ス。潛水セルヲ以テ下底部ニ於ケル鑛脈ヲ檢スル能ハサリシモ、(イ)及(ロ)ノ切端面ニ現出スル25厘乃至30厘脈ヲ採掘セルモノナラン。

(ハ)ハ(ロ)ノ上方高サ約60米ノ山側ニアリ。石英脈ノ幅1.5米ニシテ走向北35度東、傾斜北西=80度ナリ。螢石ハ石英脈ノ略ホ中央部幅30厘ノ間ニ結瘤ヲナシテ粗ニ傾布シ、又石英ト密ニ共生ス。露頭ニ於ケル螢石ノ平均含有容積ハ4割以下ニシテ、螢石鑛トシテ稼行ニ堪フルモノト認メ難シ。

b. 品質 螢石鑛ハ透明質ノ綠色又ハ淡青色ヲ呈スル美麗ナル結晶ノ集合ヨリナリ、1種ノ集結構造ヲナス。脈石トシテ石英、重晶石及少量ノ方鉛鑛ヲ含ミ、(イ)及(ロ)ノ切端面ニ於ケル觀察ニヨレバ、螢石大略7割5分(容積)、脈石2割5分ノ割合ナリ。然レトモ選鑛容易ノ鑛石ナレバ、手選ニヨリ9割5分以上ノ高品位モノニナスハ敢テ困難ナラサルベシ。

當所ニ於テ分析セル結果ハ次ノ如シ。(百分中)

	弗化カルシウム	珪酸	硫酸バリウム	比重
普通鑛 (No. 1)	84.60	13.51	ナシ	3.10
上鑛 (No. 2)	98.25	痕跡	”	3.17

上記主脈ノ外=0.5厘乃至3厘ノ糸脈2、3アリ。1ハ石英脈中ニアリテ主脈ニ竝走シ、1ハ石英脈及黑雲母花崗岩ノ兩者ヲ貫キ略々兩者ノ接觸面ニ沿フテ走ル。石英脈及盤際ノ花崗岩ハ一般ニ空晶又ハ小裂隙ニ富ミ、之等ノ中ニ屢犬齒狀水晶又ハ螢石ノ美晶ヲ發見スルコトアリ、然レトモコノ種細脈及結晶ハ、其ノ發達不定ナルト微量ナルトニヨリテ素ヨリ稼行ノ價值ナシ。而シテ上盤花崗

手選鑛

(No. 3)	95.58	0.66	”	3.20
---------	-------	------	---	------

c. 鑛量 本鑛床ハ脈幅大ナラサレバ鑛量少量ノ見込ナリ。

ハ 南張家溝ノ螢石

a. 位置及鑛床 本鑛床ハ李家溝鑛床ノ北約2軒、同名部落ノ東約500米ノ山地ニアリ。溝ヲ隔テ、北張家溝重晶石鑛床ト相對ス。螢石ハ溝床面ヨリ高サ150米内外ノ急峻ナル丘阜ノ頂上部附近ノ石英脈中ニ産シ、附近ニ採掘跡アリ。本採掘跡ハ石英脈ノ露頭ニ沿ヒ、長サ20米深サ約



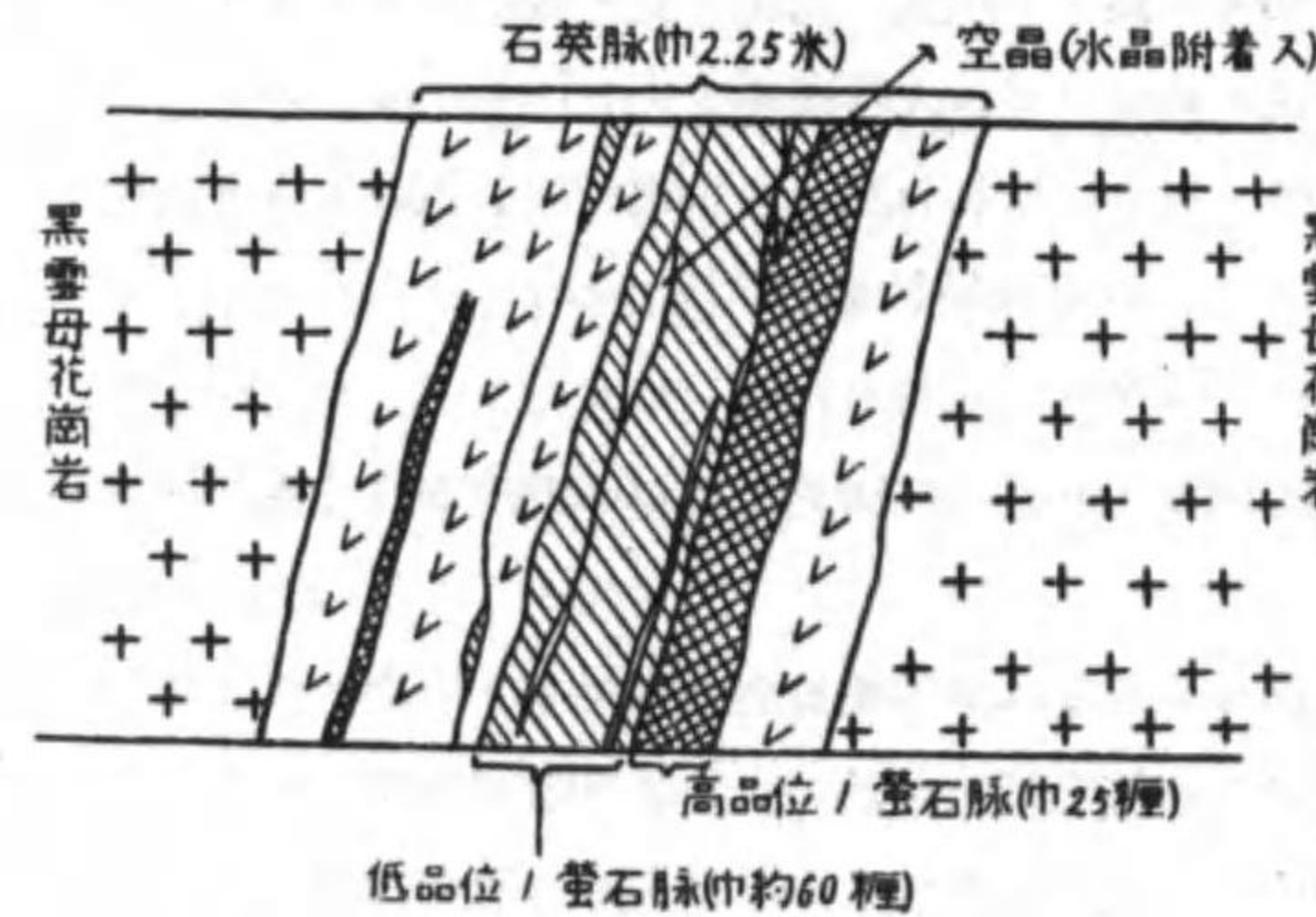
南張家溝鑛床(白線内鑛脈)

8米、幅1.45米アリ。其ノ下底部ハ廢石ニ埋没シ鑛況不明ナルモ、其ノ南西端切端ニ於テハ、石英脈ハ幅2.25米ニシテ、走向北40度東、傾斜北西=80度ニシテ、螢石ハ石英脈中其ノ中央部ニ脈幅85厘ノ裂隙充填鑛脈トナリテ胚胎ス。露頭ニ於ケル鑛石ノ含有容積ハ大略螢石5割5分、重晶石3割、石英及方鉛鑛1割5分ナリ。

螢石ト重晶石トハ概シテ共生的關係ニ産出スルモ、又比較的螢石ノミ良ク纏リ、品位高キ螢石脈ヲ形作ル部分アリ。其ノ幅25厘ナリ。

螢石脈中屢々晶洞發達シ、内部ニ石英及螢石ノ小晶簇生シ、又花崗岩ノ盤肌ニ沿フテ薄キ螢石膜ヲ附着シ、其他花崗岩及石英脈ノ割目ニ沿フテ微細ナル螢石脈ノ亂走スルコトアルモ、コノ種螢石ハ何レモ

僅量ニシテ、素ヨリ採鑛價值アルモノニ非ズ。



第三圖 南張家溝螢石鑛床見取断面圖

ルカ如キハ其ノ價值乏シキカ如シ。然レトモ採掘跡ノ模様、鑛床ノ地形的位置、切端面ニ於ケ

b. 品質 露頭ニ於ケル粗鑛品位ハ螢石含有容積5割5分内外ナルモ、手選ニヨリ8割5分ニ向上セシムルコトヲ得ベシ。

c. 鑛量 今回ノ調査ニ於テハ採掘跡ノ下底部ニ於ケル鑛況、走向方向ニ於ケル螢石脈ノ引續キ等地下ニ於ケル鑛床埋存形態ヲ査定スルノ手段ヲ講スルノ暇ナカリシニヨリ、茲ニ鑛量ヲ想定ス



脈状等ヲ考慮シテ、高サ30米(傾斜=沿フ深サ)、底邊25米トスル三角形内ニ賦存スルモノト假定シ、且鑛脈ノ平均幅員50榎、螢石ノ含有容積5割、比重3、採掘率8割、選鑛實收率8割トスレバ、豫想可採精鑛量ハ170噸トナル。

$$\frac{1}{2} \times 25 \times 30 \times 0.5 \times 0.8 \times 0.5 \times 3 \times 0.8 = 170.4 \text{ 噸}$$

## (二) 北張家溝ノ重晶石

a. 位置及鑛床 本鑛床ハ張家溝部落ノ東方約300米、溝ノ北側丘陵(三角山)=位置ス。三角山ノ頂上部ハ溝床面ヨリ約70米高ク、石英脈ハ其ノ稜線部ニ露出シテ北東走ス(寫眞参照)

頂上部(寫眞(イ)ノ部)=30米(延長)×15米(深サ)×1.5米(幅)ノ露天掘跡アリ。附近ニ尙相當ノ重晶石ヲ貯鑛アリ。採掘跡ノ下底部ハ崩落シ坑内ニ於テ検査スルヲ得ズ。南側斜面部2箇處(寫眞(ロ)及(ハ)ノ部)ニ於テハ、鑛石ハ重晶石ヲ主體トシ、幅2米ノ石英脈中ニ幅約1米ノ



北張家溝重晶石鑛床

鑛脈ヲナシテ胚胎シ、其ノ走向ハ石英脈ニ一致シテ北35度東ニ走り、南東ニ60度傾斜ス。

b. 品質 鑛石ハ白色晶質塊狀ノ重晶石ヲ主體トシ脈石トシテ石英、螢石、方鉛鑛ヲ伴フ。附近ニ散亂スル捨鑛中ニハ屢々直徑30榎内外ノ品位高キ塊鑛アリ。露頭ニ於ケル平均含有容積ハ重晶石約6割、脈石約4割ナリ。手撰ニヨル見込ハ8割5分以上ナリ。

c. 鑛量 今回ノ如キ單ナル露頭調査ノミニテハ重晶石脈ノ地下ニ於ケル賦存状態ヲ察スルコト難ク、從テ玆ニハ單ニ後日精査ノ場合ノ參考ニ供スル程度ノ意味ニ於テ鑛量ヲ求メタリ。

鑛床ハ三角山ノ頂上部以南ニ於テ有望ノ如ケレバ、大體底邊ノ長サ70米、高サ50米(傾斜=沿フ深サ)ノ直角三角形内ニ埋存スルモノトシ、重晶石脈ノ平均幅60榎、粗鑛ノ含有容積6割比重3.5、採掘率7割、選鑛實收率8割トスレバ可採精鑛量1,234噸トナル。

$$\frac{1}{2} \times 70 \times 50 \times 0.6 \times 0.7 \times 0.6 \times 3.5 \times 0.8 = 1,234.8$$

上記數字ヨリ採掘跡ニ於ケル既採掘量概算150噸ヲ控除シタル1,084噸ヲ以テ、豫想精鑛量トス。

附記 現在南滿洲ニ於ケル重晶石産地ハ僅カニ普蘭店管内數箇處ニ點々トシテ産スルヲ知ラル、ノミ。而モコレラハ鑛量僅少ニシテ甚ダ鑛業價值ニ乏シ。幸ヒ北張家溝鑛床ハ上記ノ如ク精鑛量千餘噸ヲ豫想シ得ルヲ以テ大量ノ重晶石産地トシテ南滿洲ニ於テ唯一ノモノト信ズコノ點特ニ注意スルノ價值アルガ如シ。

## ホ 五道溝ノ螢石

a. 位置及鑛床 本鑛床ハ北張家溝鑛床ノ北更ニ2軒、鞍山家部落ノ東約2軒ノ地點ニ位置シ、本地螢石産地中最北部ニアリ。

附近ハ高距海拔250米内外ノ丘陵地ヨリ成リ石英脈ハ丘陵ノ稜線部ニ沿ヒ、北40度東ニ走り南東ニ35度乃至40度ニ傾斜シ、其ノ延長ハ1,000米ニモ及ビ、脈幅ハ南西部ニ於テハ約2米、北東部ニ於テハ5米内外ナリ。



五道溝鑛床頂上部附近石英脈露頭比較的多量ニ螢石ヲ含有ス



五道溝鑛床B部ノ採掘跡 白斜線内ハ螢石脈

2箇處ノ採掘跡(便宜上(イ)及(ロ)トス)及1箇處ノ露頭[(ハ)トス]ニ於テ觀察セントコロニヨレバ下記ノ如シ。

(イ) 石英脈ノ幅2米アリ。北40度東ニ走り、南東ニ36度傾斜ス。螢石ハ上盤花崗岩ニ近ク石英脈中ニ幅60榎ノ間、3榎内外ノ細脈ヨリ成ル網狀鑛脈帯ヲ作り、又細脈間ニ螢石ヲ鑛染セシム。其ノ平均含有率ハ大略螢石3割(容積ニテ)、重晶石2割、石英5割ナリ。

(ロ) 石英脈ハ幅2.5米、走向北20度東、傾斜南東ニ40度ナリ。螢石ハ上盤花崗岩ニ近キ石英脈中ニ、脈幅1.1米(但シ本脈中ニ幅30榎ノ角閃石脈ヲ挾ムヲ以テ實際ニ螢石脈ノ幅ハ80榎)ノ鑛脈ヲ形成シ、露出面ニ於ケル平均含有率ハ大略螢



五道溝鑛床全景



石2割5分(容積)、重晶石2割5分、石英5割ナリ。

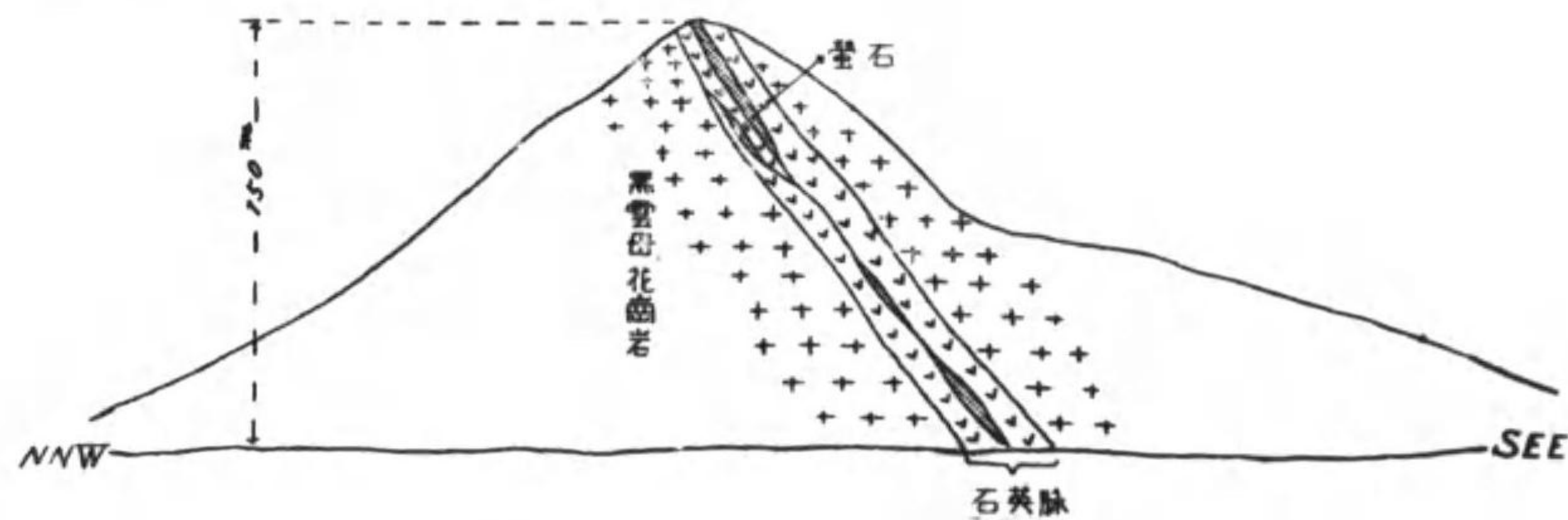
(ハ) 頂上部=於テ、幅4米内外ノ石英脈中、幅1.5米ノ範圍=於テ、露頭=沿ヒ約20米ノ間、比較的多量=螢石ヲ含有スル部分アリ。地表=於テハ大略螢石4割、重晶石1割5分、石英4割5分ノ容積ヲ占ムルモ、地下=於テハ螢石ノ含有量幾分向上スル見込ナリ。蓋シ今後探鑛ノ場合注意スベキ所ナリ。

b. 品質 螢石ハ紫色又ハ淡綠色ノ結晶トナリテ石英及重晶石ト共生シ、粗鑛ノ品位ハ一般ニ低キカ如ク、且脈石ト密生スルヲ以テ選別實收量少ナキモノト推セラル。

當所=於テ分析セル結果ハ下ノ如シ。(百分中)

	弗化カルシウム	珪酸	磷酸バリウム
中 鑛(No. 10)	79.60	18.27	ナシ
” (No. 11)	82.00	18.75	”
上 鑛(No. 12)	91.02	4.60	”
山上露頭部鑛石(No. 13)	76.75	19.08	”

c. 探掘跡ノ切端及露出ノ明カナル部分ヨリ檢シ得タル範圍ヨリスレバ、螢石ハ石英脈中ニ幅40厘乃至80厘ノ扁豆狀螢石脈トナリ、又ハ微細ナル網狀糸脈トナリテ賦存スルモノ、如シ。(第4圖鑛床ノ想像斷面圖參照) 要スルニ今後探鑛シテ鑛床ノ賦存形態ヲ明カニスルニ非サレバ鑛量ヲ算定スルニ難シ。



第四圖 五道溝鑛床想像斷面圖

### 3 海城縣下ノ螢石

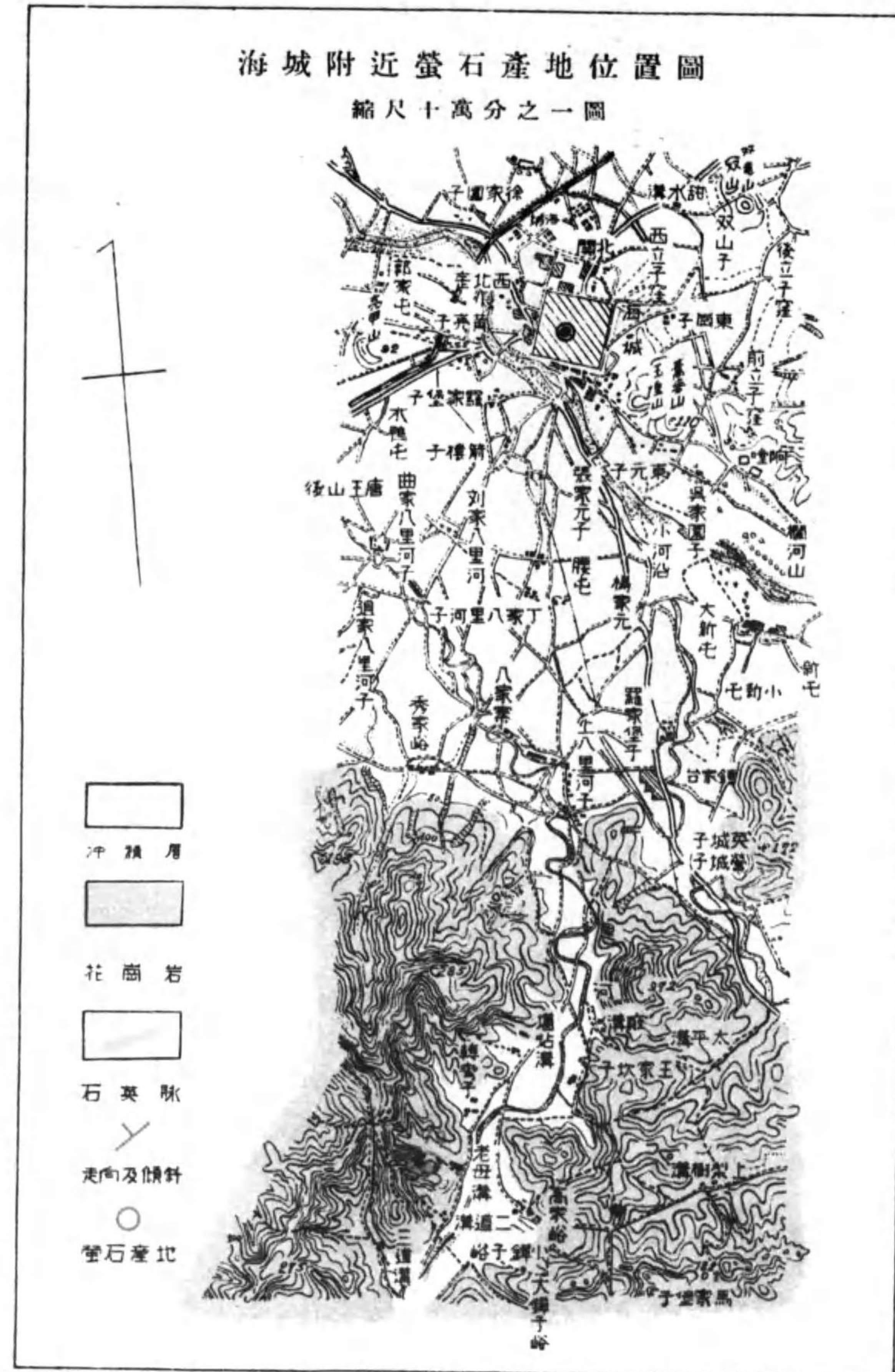
本縣下螢石ノ產出狀態ハ全ク蓋平縣下ノモノニ同ジク、片麻岩質花崗岩ヲ貫ヌク石英脈ニ伴ヒテ產出ス。

#### イ 老母溝ノ螢石

a. 位置及鑛床 海城驛ノ南20軒、老母溝部落ヨリ更ニ北西ニ山間ノ溪谷ヲ溯ルコト約400米ノ地

### 海城附近螢石產地位置圖

縮尺十萬分之一圖



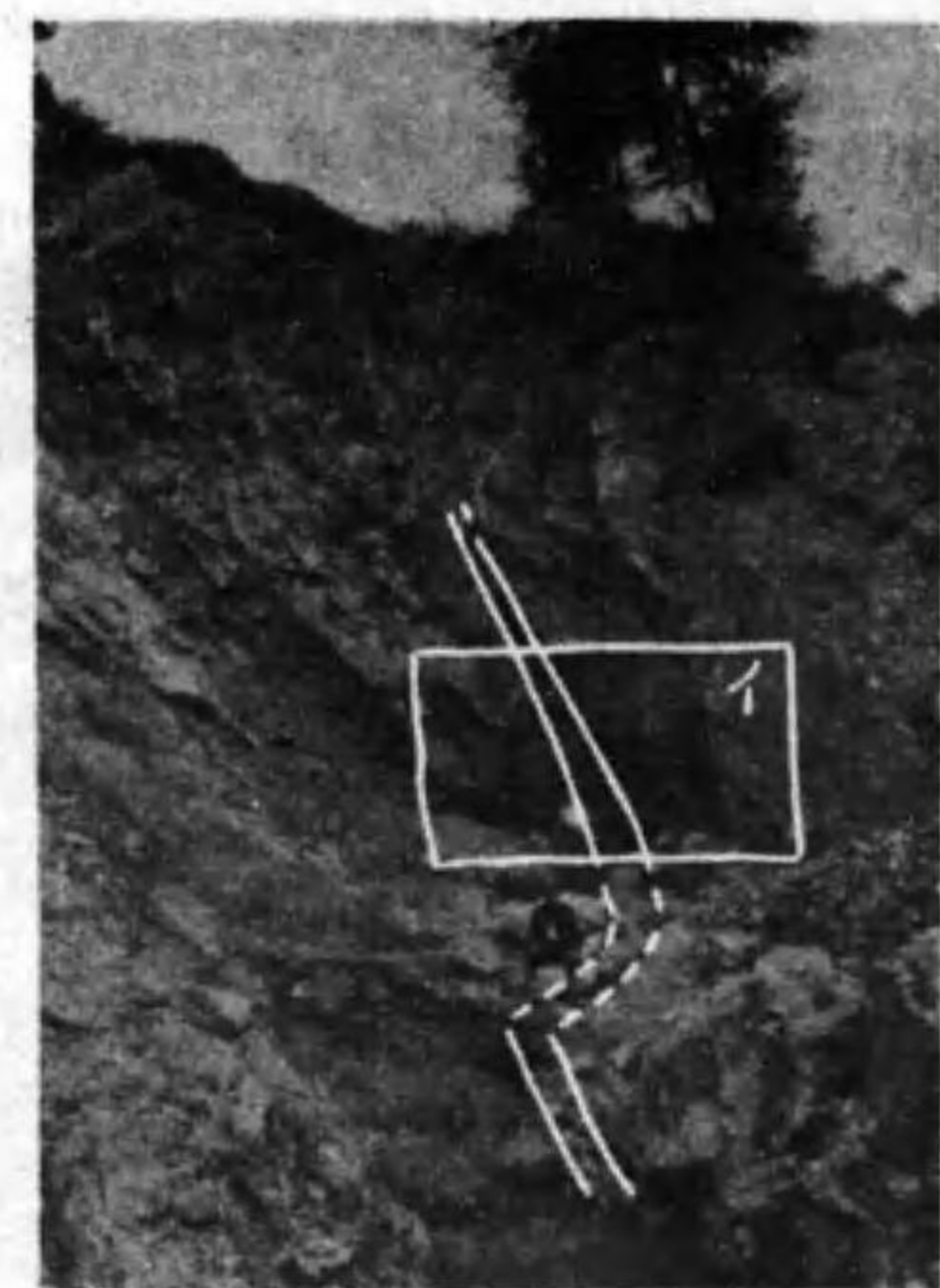


點=位置ス。

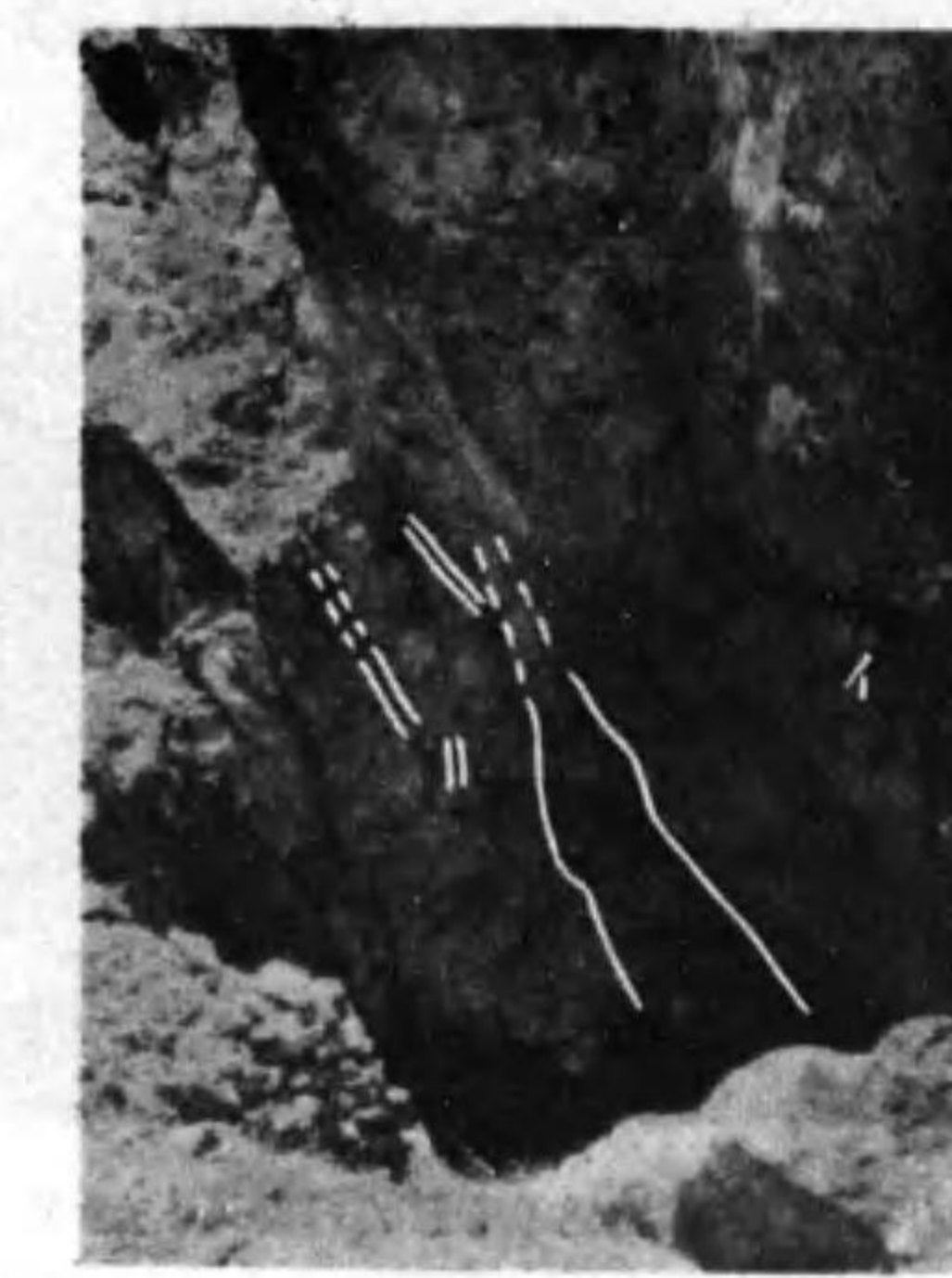
鑛床ハ北西ヨリ南東ニ走ル高距海拔 200 米内外ノ丘陵ノ東側ニアリ。

本地石英脈ハ幅 3 米内外ニシテ、走向北 60 度東、傾斜北西 = 70 度、地上ニ於テハ約 70 米ヲ追跡シ得ルモ、其ノ北東端ハ老母溝ノ溪谷ニ斷タレ、其ノ南西端ハ表土ニ被覆サル。

上記石英脈ノ北東端ニ近キ溝側ノ斜面部ニ採掘跡アリ。本採掘跡ハ大體石英脈ノ走向ニ一致シテ、北 50 度東ニ 2 段ニ掘開シ、上段 (南西半部) ハ長サ 10 米、幅 6 米、深サ 8 米ニシテ下段



老母溝鑛床(白線内鑛脈)



(イ)ノ部大窩シ

(北東半部)ハ長サ 8 米、幅 6 米、深サ 8 米スルヲ以テ不明ナリ。

採掘跡ノ南西端切詰及南西半部ノ下底部ニ於テ、露出ノ明カナル部分ニ觀ルニ、螢石ハ石英脈ト上盤片麻岩質花崗岩トノ接觸面ニ沿ヒ、幅 30 厘乃至 40 厘ノ品位高キ充填鑛脈ヲナシテ賦存ス。上記主脈ノ外ニ上下兩盤ノ不規則ナル割目ヲ充シテ網狀ノ細脈亂走スルモ、コノ種不規則脈ハ素ヨリ稼行價値アルモノニ非ズ。

b. 品質 鑛石ハ品位高キ粗大ナル塊鑛又ハ指頭大ノ結晶ノ集結ヨリ成ル。脈石トシテ石英、重晶石及方鉛鑛ヲ伴ヒ、螢石ノ脈石ニ對スル容積割合ハ大略 8 對 2 ナリ。

當所ニ於テ分析セル結果ハ下ノ如シ。(百分中)

		弗化カルシウム	珪酸	硫酸バリウム
中	鑛 (No. 5)	73.08	24.80	ナシ
	” (No. 6)	79.76	16.81	”
上	鑛 (No. 7)	98.10	2.36	”
	” (No. 9)	88.10	1.36	”



平均 84.76 12.58 ”

c. 鑛量 探鑛セサレバ地下ニ於ケル鑛況不明ニ付キ鑛量ヲ算出スルニ難シ。

### 圖寧線北老松嶺隧道地質調査報告 (昭和9年1月)

地質調査所員 門 田 重 行



北老松嶺隧道通過部(白點線ニテ示ス)



北老松嶺隧道ヨリノ湧水



北老松嶺隧道ヨリノ湧水



北老松嶺隧道東坑門

## 1 總 括

### イ 位 置

本隧道ハ圖門起點125軒700米ヨリ始マリ、127軒600米ニ至ル1,900米ノ間ニシテ北70度西ノ方向ニ一直線ニ掘鑿ス。

### ロ 地 形

隧道附近ハ高距海拔700米以上ノ山岳地域ニシテ、壯年の開析セラレタル地形ヲ呈シ、隧道ハ高サ714米ノ鞍狀ヲナセル峠ノ中心部ヲ南西谷ヨリ入り、北西谷ニ向ツテ出ヅ。

### ハ 地 質

北老松嶺ヲ構成スル地質ハ粗粒質黒雲母花崗岩及コレヲ貫ク玢岩脈並ニ石英粗面岩及玄武岩ヨリ成リ、山間ノ溪谷部ニ僅カニ砂礫層ヲ堆積ス。

花崗岩ハ附近地域ノ基盤岩石ニシテ、其ノ發達極メテ廣區域ニ亘ル。北老松嶺ノ地下ハ總テ本岩石ノ占ムルトコロニシテ隧道ハ終始本岩石中ヲ掘進スベク工事ト最モ緊密ナル關係ヲ有セリ。

石英粗面岩ハ花崗岩ノ古浸蝕面上ニ溢流シテ、水平ニ近キ層狀ヲナシテ堆積ス。著シク變質流化作用ヲ受ケ一見溫泉白土層ノ如キ觀ヲ與フ。其ノ發達ハ玄武岩ニ比シ局部的ニシテ、幅10米内外ト推定セラル。

玄武岩ハ石英粗面岩及花崗岩ヲ被覆シ熔岩流トナリテ層狀ニ現出シ峠附近ノ地表部ヲ構成ス。其ノ厚サ堅坑附近ニ於テ35米内外ナリ。

### ニ 地 下 水

北老松嶺ノ地下水賦存ノ状態ヲ觀ルニ、上記石英粗面岩ノ變質ニヨリテ生ジタル白土層ヲ挟ミテ水層ハ上下二枚アルガ如シ。即チ一ハ該層ノ上部ナル玄武岩中ニ飽和水帶ヲ形成シ、一ハ其ノ下部花崗岩トノ接觸面附近ノ風化裂隙帶中ニ地下水ヲナシテ環流スルガ如シ。

### ホ 斷層及湧水量

上記二水體ハ走向北40度西、北東落ノ斷層ニヨリ互ニ交通ス。而シテ本斷層ハ東坑門口ヨリ345米附近ニ於テ、導坑ニ切開セラレタルヲ以テ、今回ノ如キ突發的出水ヲ惹起セルモノ、如シ。其ノ湧水量ハ諸種ノ材料ヨリ推量シテ現在ニ於テハ平均1日25噸程度ナリ(但シ解氷期ニ於テハ地下水ノ循環活發トナルヲ以テ一時多少増加スルヤモ知レズ。

### ヘ 卑 見

本隧道ハ終始花崗岩中ヲ掘進スベク、花崗岩ノ節理ハ一般ニ大目ナレバ、今後奥部掘進ニ於テ工事ニ支障ヲ來スガ如キ大湧水ニ遭遇スルコトナルベシ。今回問題トナレル 345米附近ノ斷層帶中ノ水ハ、126軒48米(本線)ヨリ右迂回坑道ヲ掘鑿シ其ノ14.40米ノ地點ニ於テ4吋鐵管ヲ上方ニ打チ込ミ、(24尺)上部斷層帶中ノ水體ヲコレヨリ導キ落シ、水壓ノ低減策ヲ講ジタレバ、今後ハ從來ノ如キ突發的大出水ハ恐ラクナルベシ。

然レドモ本隧道ニアリテハ(1)上記斷層ハ最モ不利トスル變質石英粗面岩(白土層)ト連絡スル



ヲ以テ、該層ノ膨脹又ハ崩壊性等ノタメニ、隧道ノ偏壓等ヲ惹起スル惧レアルコト及(2)隧道掘進ノ位置ガ花崗岩ト白土層トノ境界面ニ稍接近シスギテオリ、從テ元來軟化セル部分ノ掘進ヲ餘儀ナクサセラルル點ガ工地上(寧ロ出水以上ニ)不利益ノ點ナルガ如シ。將來ノ保線上現在湧水箇所附近(斷層碎裂帶)ハ特ニ壘築及其他ノ諸工事ニ對シ、萬全ノ策ヲ講ゼラレタシ。

## 2 位置

本隧道ハ圖門起點125杆700米ヨリ始マリ、127杆600米ニ至リテ終リ延長1,900米、一直線ニ北70度西ノ方向ニ掘鑿ス。

## 3 地形

附近ハ高距海拔700米以上ノ起伏重疊タル山岳地域ニシテ、山側ハ屢々鋭ク水蝕サレV字型ノ溪谷ヲ形作り所謂深山幽谷ノ山貌ヲ呈ス。

隧道通過部ノ本嶺ハ其ノ頂上ニ於テ海拔714米ヲ示シ、峠ノ稜線ハ略南北ニ走り、溪谷ハ其ノ兩側ニ於テ開析シ一種鞍狀の地形ヲ呈ス。而シテ隧道ハコノ鞍狀部ノ中心軸ニ沿フテ南東谷ヨリ入り北西谷ニ向ツテ出テ、線路ノ施工基面高ハ東坑門口ニ於テ625米、西坑門口ニ於テ644.45米ナリ。

## 4 地質

附近ノ地質ハ花崗岩及コレヲ貫ク玢岩脈並ニ石英粗面岩及玄武岩等ノ火成岩ヨリ成リ、山間ノ溪谷部又ハ山麓部ニ於テ僅カニ現世ノ砂礫層及岩屑物ヲ堆積セリ。

### イ 花崗岩

花崗岩ハ附近地域ノ基盤岩石ニシテ廣區域ニ露出ス。北老松嶺ノ地下ハ花崗岩ヨリ成リ、隧道ハ總テ本岩石中ヲ掘進スルヲ以テ、隧道掘進ト最モ密接ノ關係アリ。岩種ハ黑雲母花崗岩ニシテ粗粒構造ヲ示シ、新鮮ナルモノハ岩質甚ダ堅硬ナリ。然レドモ地表附近及龜裂ニ富メル部分ハ風化シ、破碎容易ニシテ所謂眞砂(マサ)トナレリ。又地下深部ノ導坑内ニ於テ觀察スルニ、節理面ニ沿フ部分ハ地下水ノ浸潤腐蝕ノタメ、處々薄キ粘土膜ヲ生出セリ。其ノ節理ハ概シテ大目ニシテ一般ニ北30度東乃至北東—南西ニ優勢ニシテ傾斜南東ニ60度乃至85度ナリ。

東坑門口ヨリ345米附近ノ斷層帶ニ於テハ幅約8米ノ間、所謂斷層碎裂帶ヲ呈シ、岩石著シク破碎斷裂シ半バ粘土化セリ。

### ロ 玢岩脈

玢岩脈ハ黑雲母花崗岩ヲ貫キテ迸發シ、其ノ時代ハ石英粗面岩ノ熔流前ナリ。現在2箇所ニ於テ觀察セラレ、1ハ東坑門口ヨリ330米附近、他ハ西坑門口ヨリ100米附近ニ於テ、導坑ヲ横切り其ノ幅夫々4米及1米ナリ。

岩質ハ安山岩質ナレドモ全ク腐朽脱色シ明確ナラス。

### ハ 石英粗面岩

石英粗面岩ハ花崗岩ノ古浸蝕面上ニ直接熔岩流トナリテ敷衍シ、其ノ幅10米内外ノ如ク7度乃至10度ノ緩傾斜ヲ以テ北東ニ傾斜シ、區域ノ北方ニ於テハ其ノ上部ノ玄武岩ト共ニ斷層ニヨリ花崗岩ト境セラル。本岩石ハ著シク漂白化作用ヲ被リ、既ニ珪質白土層ニ變化セリ。從テ原岩石中ノ有色礦物ハ最早全部分解流失シ白土中ニ米粒大又ハソレ以下ノ石英粒ヲ比較的多量ニ混在スルニ至ル。上述ノ如ク白土層ト化シタレバ質緻密ニシテ透水性ニ缺クモ、一度空氣又ハ水ニ曝露サル、トキハ著シク膨脹シ容易ニ崩壊スル性質アリ。

### ニ 玄武岩

本岩石ハ花崗岩及石英粗面岩ヲ被覆シ峠附近ニ於テ稍厚キ(35米内外)熔岩層トナリテ露出ス。黝黑色緻密ノ石基中ニ往々肉眼の輝石(古銅輝石)ノ斑晶ヲ有ス。水平節理ニ富ミ、其ノ發達特ニ顯著ナル部分ハ一見黑色千枚岩ニ類似ス。水平節理ニ加フルニ上下ノ龜裂ニモ富ムヲ以テ含水量比較的大ナルベシ。

### ホ 沖積層

沖積層ハ主トシテ花崗岩及玄武岩礫、分解生成砂土等ヨリ成リ、附近山地ノ谷底部及崖錐部ニ堆積ス。

## 5 地下水

石英粗面岩ハ既ニ白土化シ、且水平ニ近キ層狀ニ發達スルヲ以テ、恰モ不透水層ノ如ク主要ナル地下水ハ本層ヲ挾ミテ上下2枚存在スルガ如シ。

### イ 玄武岩中ノ地下水

本地玄武岩ハ著シク節理並ニ龜裂ニ富ミ、最モ透水性ニシテ、降雨ハコレヲ節理及龜裂ヲ辿リテ容易ニ下降シ白土層ノ上部ニ滲溜シテ飽和水帶ヲ形成シ1ノ水層ヲ形成セリ。現在鑿坑中ニ湧水スル水ハコノ種ノ地下水ニシテ主トシテ兩岩層ノ境界附近ノ裂罅中ヨリ湧出シ其ノ水量ハ1日6噸乃至8噸程度ナリ。

### ロ 花崗岩中ノ地下水

元來風化セザル花崗岩ハ一般ニ岩石ノ有孔率小ニシテ大湧水ノアルコト稀ナリ。(但シ大裂罅線又ハ斷層線等ニ當レバ岩質ノ含水量如何ニ拘ハラズ湧水量大ナリ)本地花崗岩ヲ觀ルニ其ノ節理概シテ大目ナレバ地下深部(風化セザル部分)ニ於テハ、假ヘ導坑掘進中本岩石ノ節理ヲ切斷スルコトアルモ、コレヨリ大ナル湧水ハナカルベシ。

然レドモ白土層トノ接觸面附近ノ風化帶ニ於テハ、天水ハ岩石ノ優勢ナル裂罅空隙等ヲ傳ハリテ環流シ來リ、コノ部ニ一種ノ地下水ノ地下道ヲ形成スルガ如シ。

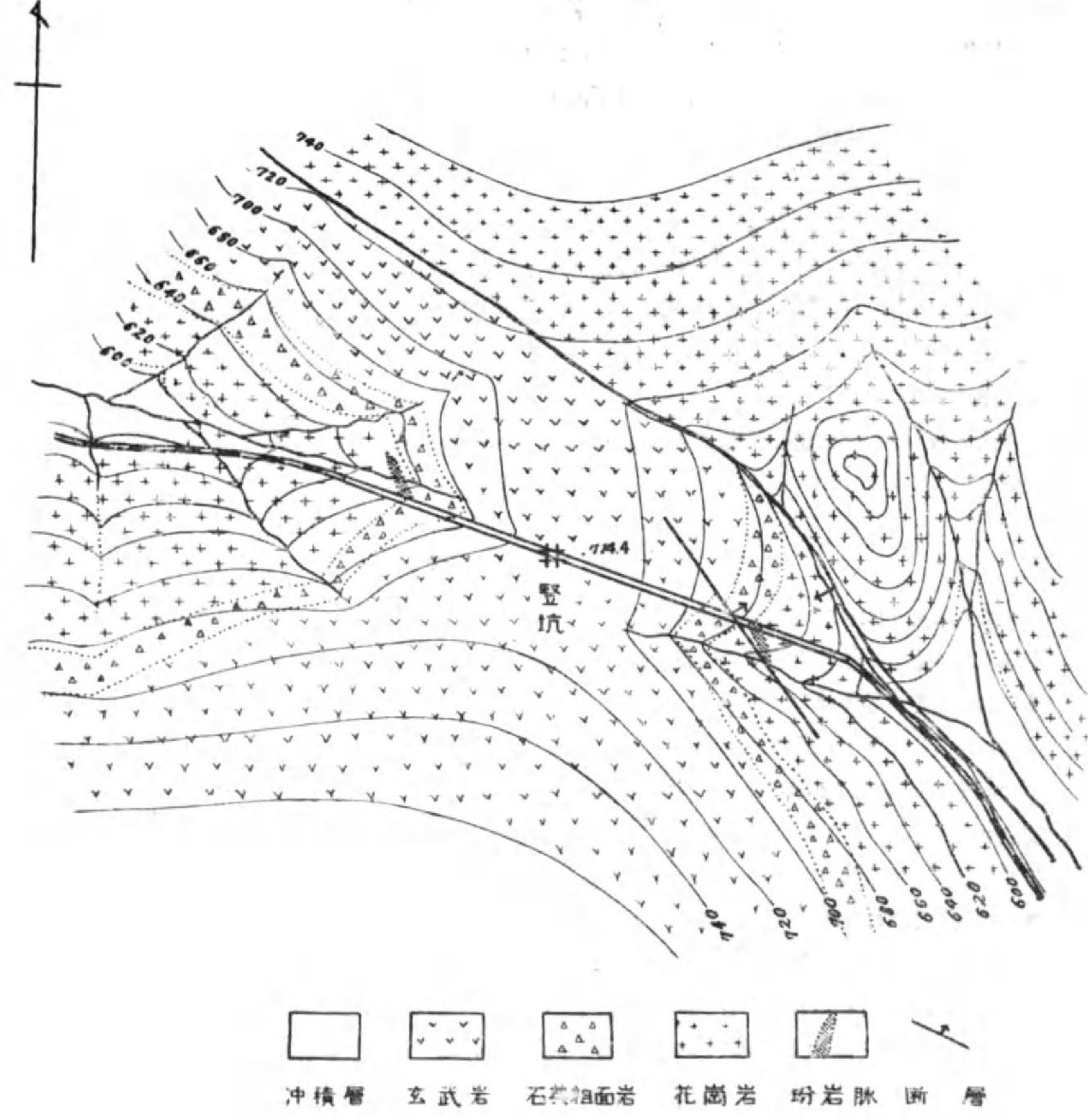
### ハ 玢岩脈ト地下水

玢岩脈ハ地下水ト直接至大ノ關係ハナキガ如シ。但シ仔細ニ觀スレバ本岩石進入當時大ナル壓

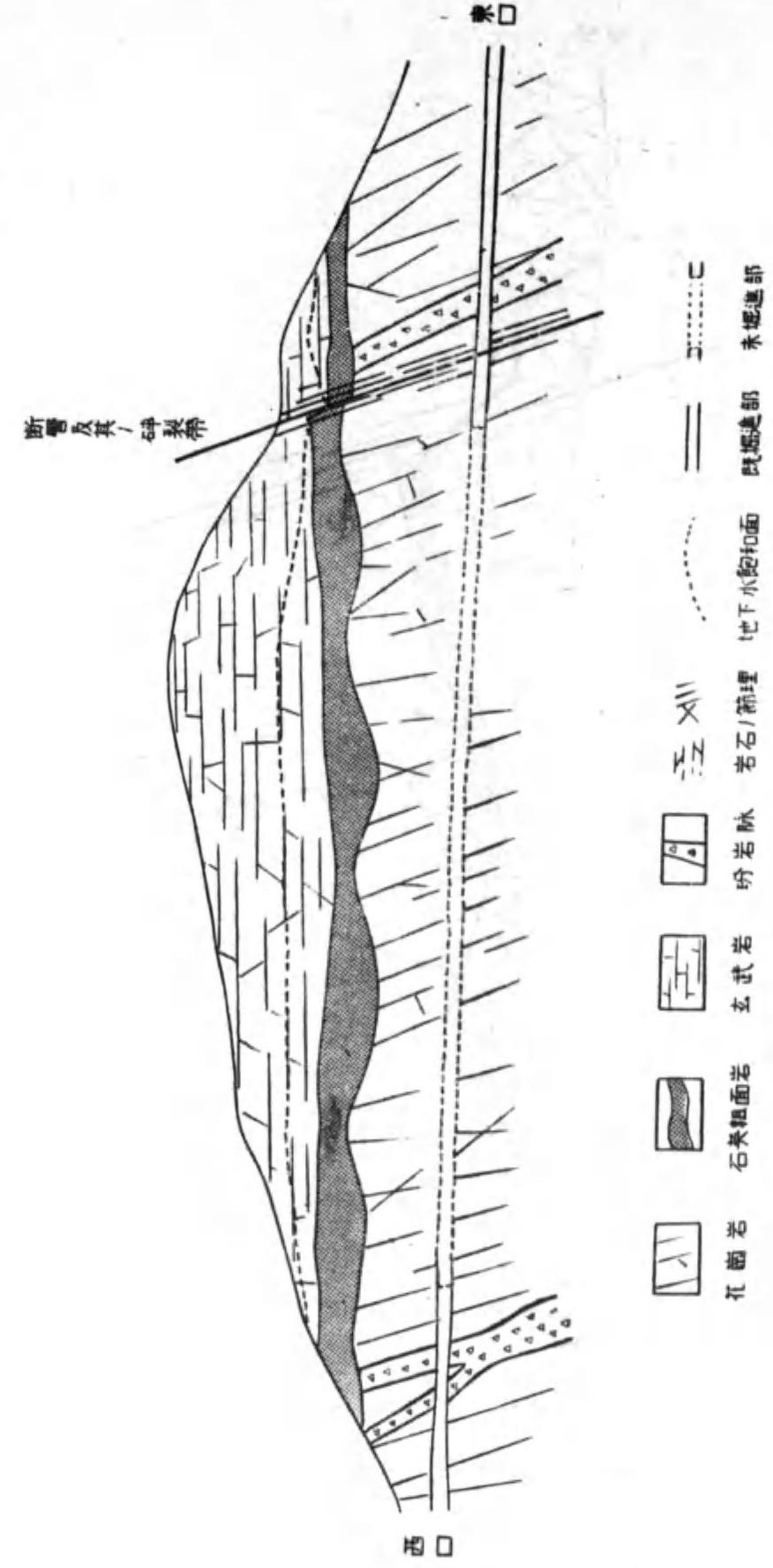


北老松嶺隧道附近地形及地質略圖

縮尺約二萬五千分之一

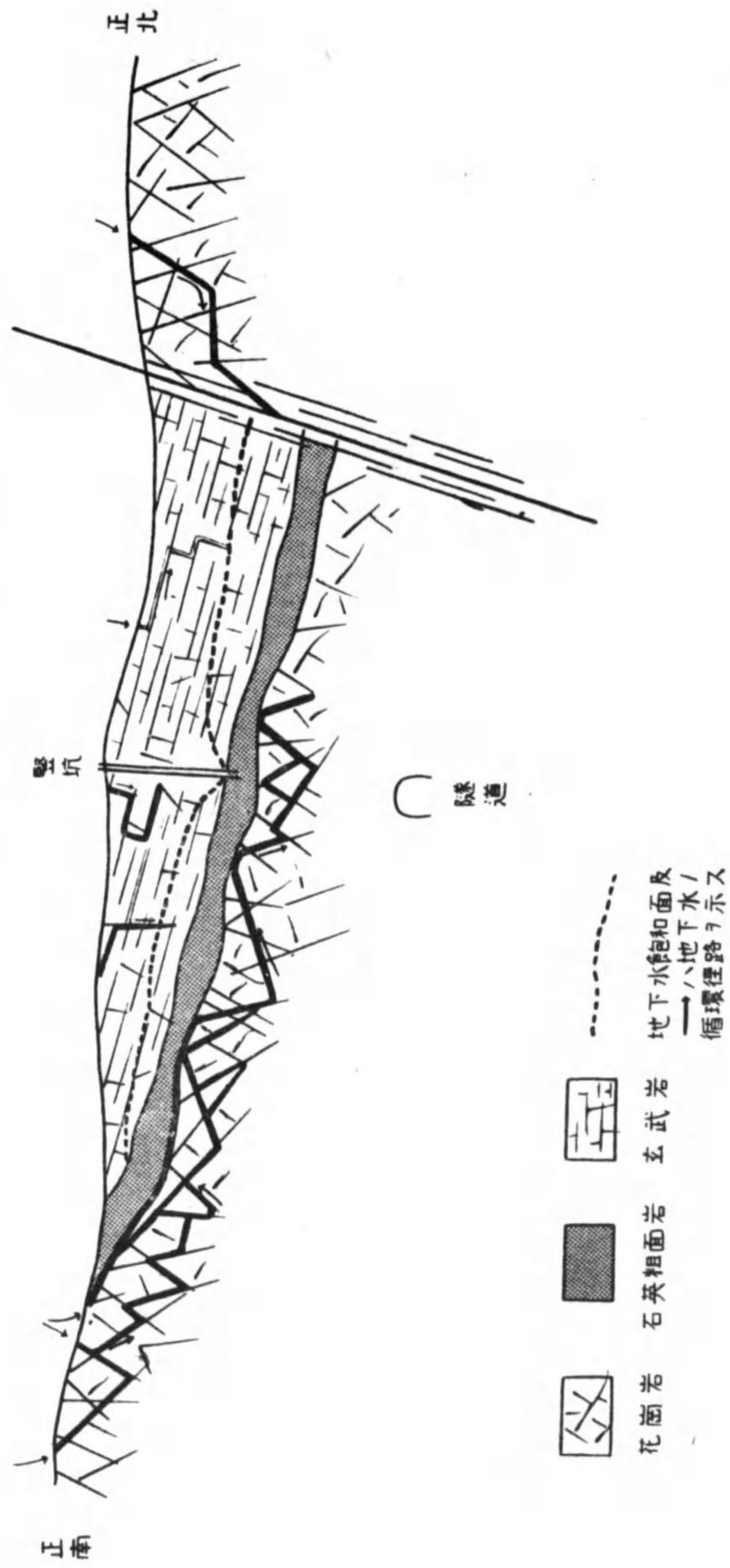


北老松嶺隧道地質縱斷略圖










北老松嶺隧道地下水ノ説明圖





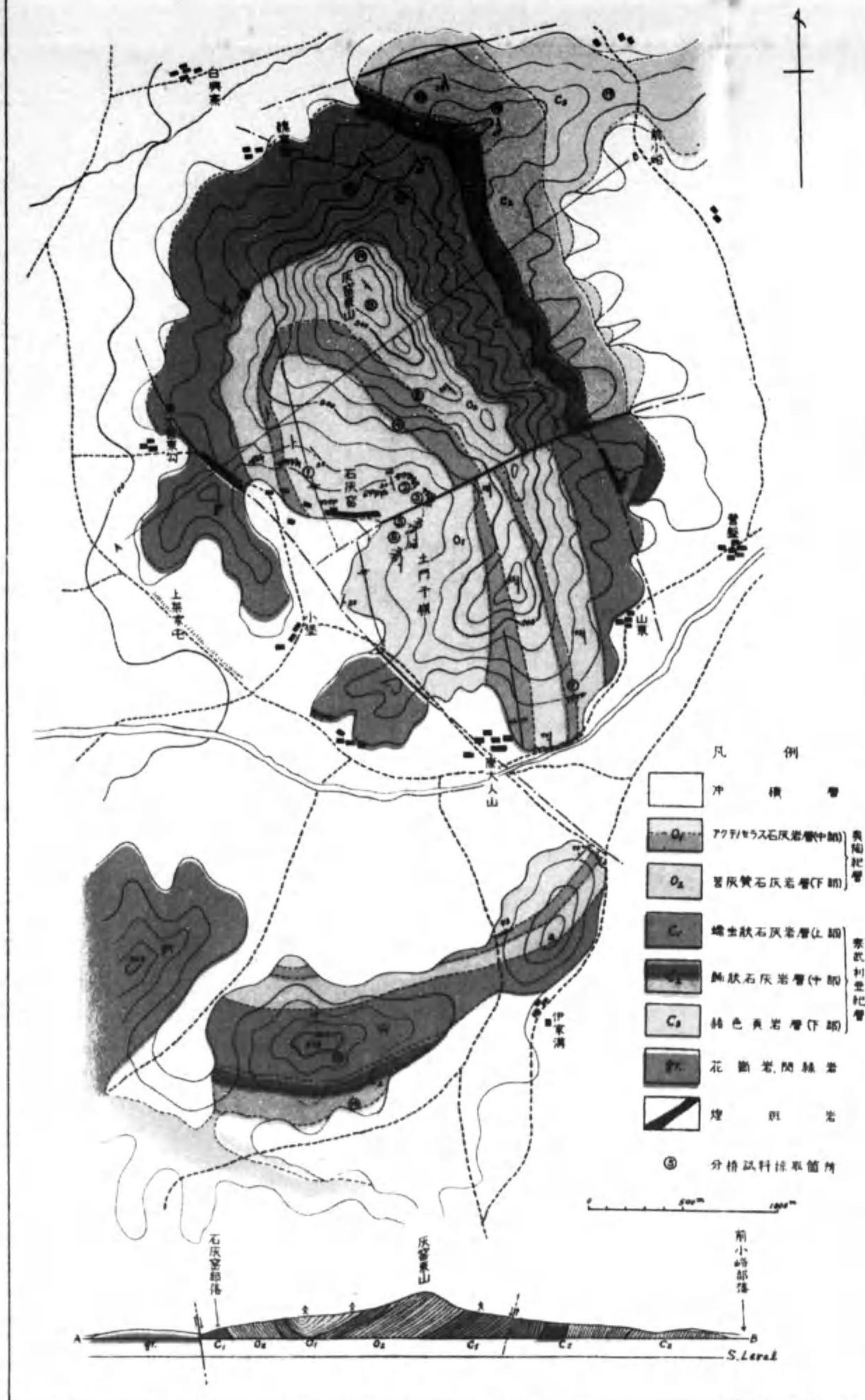


隧道

-  隧道
-  花岗岩
-  石英粗面岩
-  玄武岩
-  地下水飽和面及地下水流循環線ヲ示ス

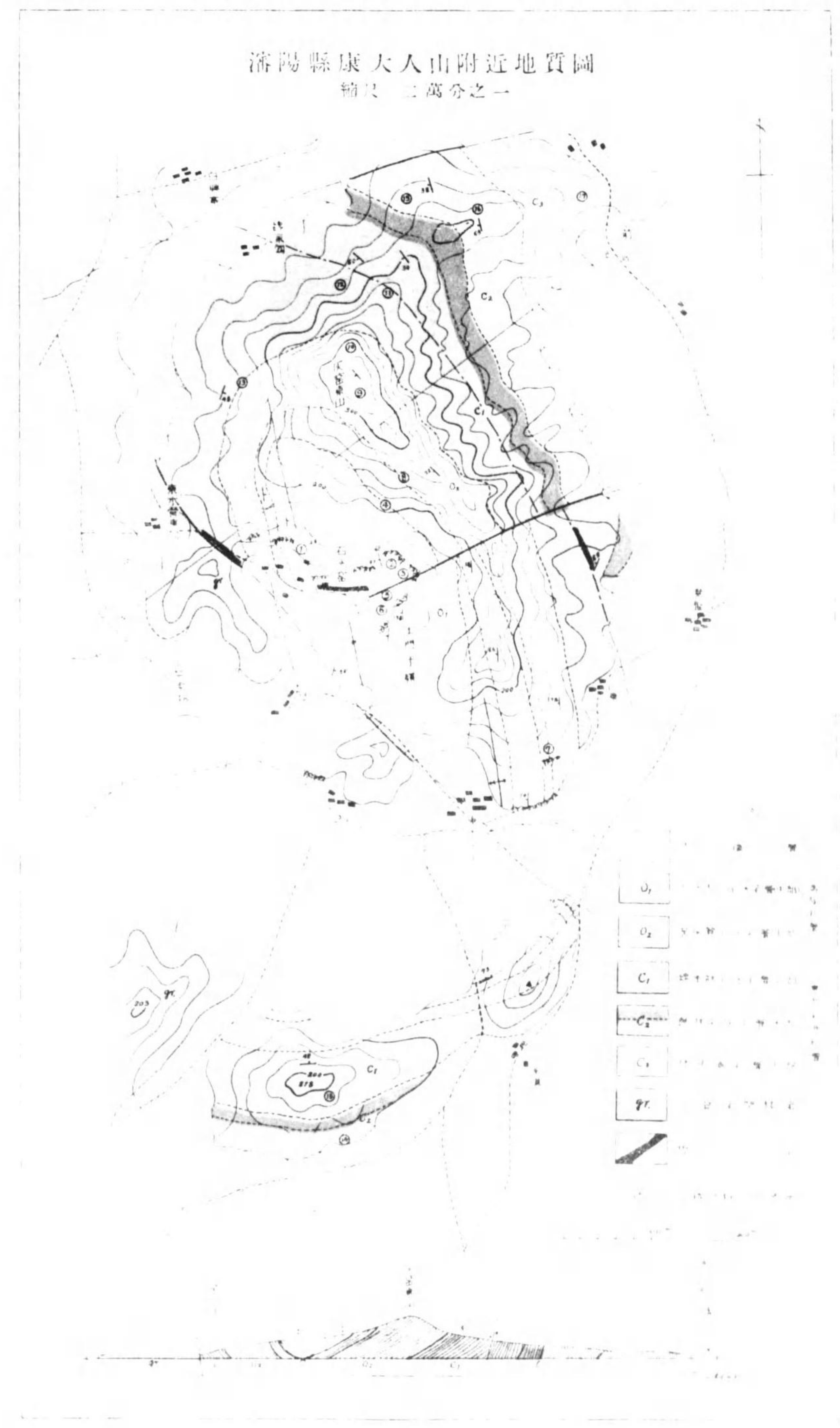
瀋陽縣康大人山附近地質圖

縮尺 三萬分之一





瀋陽縣康大人山附近地質圖  
縮尺 二萬分之一



Handwritten notes and a small sketch on the left margin, possibly related to the geological survey or the map's preparation.



カヲ以テ周圍ノ花崗岩ヲ排壓シ從テ其ノ附近ニ大小無數ノ割目ヲ生出セシメ、地下水ノ下降循環ニ便宜セシコトアルベシ。又一種ノ止水堰ノ作用ヲナシ、地下水ヲ内部ニ抑留セシムルノ效果モアリシガ如シ。

## ニ 斷層ト地下水

昨年12月上旬、東坑門口ヨリ 345米附近ノ軟弱ナル花崗岩ヲ掘鑿中突然大湧水アリ、一時掘進ヲ中止セリ。該部ハ恰モ走向北40度西北東落ノ斷層破碎帶ニ相當シ所謂地下水ノ自由通路、俗ニ云フ水脈ヲ成セル部分ニシテ、コレヲ打破リタルタメ上記2層ノ地下水ガ、コレニ非常ノ壓力ヲ以テ噴出シ、コレニ伴ヒテ多量ノ軟泥（ヒドロ）ヲ排出セリ。コレラノ軟泥中ニハ花崗岩礫ノ外ニ玄武岩及石英粗面岩礫ヲ多量ニ混在シ、明カニ斷層ナルコトヲ證セリ。

本斷層ヨリ湧水スル水量ハ現場員ノ言、小員山元滯在中ニ湧出セル水量ノ計算、該斷層ニ關係スル山ノ集水面積及其他ノ材料ニ徴シテ、現在ニ於テハ1日平均25噸内外ト推定ス。

## 瀋陽縣康大人山附近地質竝石灰岩調査報文

地質調査所 瀋陽 山 口 四 郎  
經濟調査會

### 1 緒 言

昭和8年10月27日ヨリ同11月1日ニ至ル6日間セメント原料石灰岩調査ノ目的ヲ以テ安奉線歪頭山驛北方瀋陽縣康大人山部落附近ノ地質竝石灰岩調査ニ從事セリ、本報文ハ該結果及其後ノ室内研究ニ基ク。

地形ハ滿洲5萬分ノ1地形圖遼陽18號下海浪案(略圖)ニ據リ小職野外ニ於テ補正ヲ加ヘタルモノナレドモ尙不満足ノ點アリ、今後ノ精査ヲ要スベシ。

報文中ニ記載セル分析ノ結果ハ滿鐵中央試験所分析係(試験主任石田德衛)ニ於テ施行セルモノニシテ重量百分率ヲ以テ之ヲ示セリ。

### 2 總 括

康大人山附近東西約3軒、南北約6軒ニ亘ル地域ヲ占ムル構成岩類ハ地質時代上寒武利亞紀上中、下、奧陶紀中、下ノ各部ニ屬スル種々ノ石灰岩、泥灰岩、頁岩竝花崗岩、閃綠岩、煌斑岩等ノ火成岩及新期河成層ニ屬スルモノナリ。

全般ノ地質構造ヲ概觀スレバ奧陶紀、寒武利亞紀各累層ハ最上部「アクテノセラス」石灰岩層ヲ



中心トシ數帯ヲ成シテ外廓ニ環狀ニ露出シ非對稱性ノ向斜盆地狀構造ヲ呈ス、而シテ北西—南東ノ斷層及ビ之ト略直角方向ナル小斷層ヲ伴ヒ局部的ニ變位セラル。

各種石灰岩一覽表

岩石名	分析試料	地層名	化學成分(平均)				埋藏量概算(噸)	
			CaO	MgO	SiO <sub>2</sub>	R <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		
斑紋狀石灰岩	No. 1	「アクテノセラス」石灰岩層	47.31	5.40	4.32	0.52	(1) 16,182,500	
	No. 2						(2) 36,178,200	
	No. 3						(3) 6,240,000	
	No. 6							
黑色石灰岩	No. 4	「アクテノセラス」石灰岩層	53.27	1.45	2.22	0.45	(1) 5,670,000	
	No. 5						(2) 6,770,000	
							(3) —	
苦土質石灰岩	No. 7	苦土質石灰岩層	31.75	18.56	4.35	0.78	(1) 35,360,000	
	No. 8						(2) 10,200,000	
	No. 9						(3) 2,840,000	
	No. 10							
板狀石灰岩	No. 11	蠅虫狀石灰岩層	51.58	1.29	3.23	1.18	(1) 21,840,000	
	No. 12						(2) 1,660,000	
蠅虫狀石灰岩	No. 13	蠅虫狀石灰岩層	49.46	0.98	5.35	2.43	(1) 21,840,000	
	No. 18						(2) 1,660,000	
							(3) 6,084,000	
鱗狀石灰岩	No. 14	鱗狀石灰岩層	51.70	1.33	3.00	1.55	(1) 6,000,000	
	No. 15						(2) —	
							(3) 823,000	
結晶質石灰岩	No. 16	鱗狀石灰岩層	50.86	1.34	1.95	0.76	(1) 1,500,000	
								(2) —
								(3) 215,000
塊狀石灰岩	No. 17	赭色頁岩層	42.45	2.11	13.75	4.06	—	

(註) 埋藏量(1)灰窑東山區域(2)土門子嶺區域(3)南部丘陵區域

「ボートランドセメント」原料トシテ採用シ得ラル、石灰岩ハ主ニ蠅虫狀石灰岩層(寒武利亞紀中部)蠅虫狀石灰岩層(寒武利亞紀上部)及「アクテノセラス」石灰岩層(奧陶紀中部)ノ3層中ニ發達シ今回ノ調査ニ據レバ尠クトモ中5種ノ石灰岩ハ本目的ニ添ヒ得ラル、コトヲ知ル。

然レドモ其等ノ石灰岩ハ一般ニ單獨ノ厚層ヲ成シテ賦存スルコト少ナク互層スルカ或ハ他種石灰岩、頁岩等ヲ挾ムニヨリ採掘セントスルニ當リテハ其ノ品位ノミナラズ、充分產狀鑛量及產地ノ運搬上如何等ヲ考慮シ「セメント」原料石灰岩トシテ許容範圍内品位ノモノヲ採石スルヲ最モ經濟的トス。

今品位ノ點ヨリ思考スレバ(イ)各個石灰岩ニテハ黑色石灰岩(アクテノセラス石灰岩層下部)最モ純度高ク平均石灰53.27%ヲ含ミ之ニ次ギ蠅虫狀石灰岩、板狀石灰岩、結晶質石灰岩、蠅虫狀石灰岩ノ順位ナリ。又(ロ)地層總體ヨリ見テ垂直的ニ均質良好ナルハ蠅虫狀石灰岩層ニシテ「アクテノセラス」石灰岩層及蠅虫狀石灰岩層其レニ次グ。

要スルニ本地域ノ石灰岩ハ曹達灰工業原用トスルガ如キ優秀ナルモノハ比較的少額ナレドモ概ネ純度90%以上ニシテ「セメント」原料トシテ支障ナク且埋藏量モ亦豊富ナレバ今後採掘費、運賃等ノ低下ヲ計リ開發計畫ヲ樹ツレバ充分考慮サルベキ價値アルモノト信ズ(前表參照)

### 3 位置及交通

今回ノ調査地域ハ奉天省瀋陽縣東南部安奉線歪頭山驛ノ大體正北ニ位シ東西約3軒、南北約6.2軒ニ亘ル矩形狀地域ニシテ總面積略18平方軒アリ。

康大人山ハ區域ノ代表的部落ニシテ山麓ニハ戸數10戸内外ノ小堡、菜家屯、小峪、石灰窑、山東、伊家溝等ノ部落散在シ之等土民ハ互ニ洪瀆地或ハ丘陵地ヲ横切ル小徑或ハ無定路ニ據リ往來ス。

康大人山ヨリ安奉鐵道沿線ニ至ル主順路ハ次ノ3アリ、其1ハ沙河ヲ渡涉シ腰嶺ト稱スル勾配小ナル小嶺(比高約10米)ヲ越シ南下シ歪頭山驛ニ至ルモノ(其ノ間約5軒)及西南胡家溝附近ヲ通過シ勾配稍急ナル丘陵(比高約50米)ヲ過ギ康家臺ヲ經テ姚千戸屯驛ニ達スルモノ(行程約7軒)並ニ沙河ノ氾濫原ニ沿ヒ迂廻シ後驛ニ至ルモノ(距離約12軒)之ナリ。今石灰岩ヲ馬車ヲ用ヒ搬出スルトセバ第1ノ道路ニ多少ノ改修ヲ施シ使用スルヲ最モ經濟的トス。

### 4 地形概観

本地域四近ノ山嶽ハ略分水嶺山脈ノ渾河洪瀆地ニ没セントスル西北餘脈ニ當リテ大體山岳ハ北ノ起伏緩漫ナリ。而シテ最近ノ著シキ地殼變動ヲ被ラザル爲ナルベク地形起伏ハ概ネ岩相ノ差違ニ基キ異ナルヲ認ム。

區域内最高ノ海拔344米ノ灰窑東山及土門子嶺(標高245米)並ニ東方ニ其等ト弧狀排列ヲ成シテ聳立スル山峰(標高180米—240米)ハ苦灰岩、石灰岩、硅岩ヨリ構成セラレ其等山岳ハ概ネ變多ク岩骨ヲ裸出スルニ反シ花崗岩ヨリ成ル地ハ一般ニ緩ナル低夷ノ山阜又ハ丘陵ヲ形成シ兩山地ノ地貌ノ差稍顯著ナルヲ見ル。

水系ハ沙河及其ノ支流ニ屬シ其等河川小谷ノ兩側ニハ稍廣キ氾濫原ヲ成形シ康大人山附近ニテハ該沖積平地ノ幅約1軒ニ達ス。而シテ之等河川ハ平時極メテ河水ニ乏シク土砂ヲ堆積シ少許ノ水流ヲ見ルノミニシテ又僅ニ伏流トシテ存スルニ過ギザルモノアリ。

### 5 地質(概括)

本地域ヲ構成セル岩類ヲ地質系統及岩相ニ據リ分類シ次ニ一括シテ列舉ス

寒武利亞紀系

- 1 赭色頁岩層(下部)
  - 赭色頁岩、砂質頁岩、石灰岩
- 2 蠅虫狀石灰岩層(中部)
  - 鱗狀石灰岩、板狀石灰岩、結晶質石灰岩、頁岩、泥灰岩
- 3 蠅虫狀石灰岩層(上部)



蠕虫状石灰岩、板状石灰岩、泥灰質石灰岩、頁岩

#### 奥陶紀系

##### 4 苦土質石灰岩層(下部)

苦土質石灰岩、板状石灰岩、蠕虫状石灰岩、

##### 5 アクテノセラス石灰岩層(中部)

斑紋状石灰岩、黑色石灰岩、黧灰色石灰岩、泥灰岩

#### 第四系

##### 6 沖積層

#### 火成岩類

##### 7 淡紅色花崗岩

##### 8 角閃花崗岩

##### 9 花崗斑岩

##### 10 閃綠岩

##### 11 煌斑岩

### 各 論

#### 1 赭色頁岩層

本層ハ區域ノ北東部及南西部小區域ニ發達シ主トシテ赭色頁岩、砂質頁岩、石灰岩ヨリ成ル累層ニシテ北部前小嶺附近ニテハ層向北30°西内外、南西方ニ30°—50°ノ傾斜ヲナシ南部ニテハ東西乃至北80°東ニ轉ズ。

今回ノ調査ニ於テハ本累層中ヨリ「レドリキヤ」三葉虫化石ヲ發見シ得ザリシモ此特徴アル赭色頁岩ハ世界的ニ寒武利亞紀下部層ノ一特色岩相ニシテ且層序上ヨリ想フニ本層ハ南滿洲遼陽統層或ハ山東ノ饒頭頁岩層ニ同定セラルベキモノナリ。

本頁岩層中ニ「レンズ」狀ニ賦存セル石灰岩ハ一般ニ泥灰質ニシテ品質良好ナラズ且埋藏量モ亦大ナラズ。

#### 2 鱗状石灰岩層

本層ハ厚サ約150米ニシテ上部ハ鱗状石灰岩ノ薄層ヲ介セル板状石灰岩、頁岩、泥灰質石灰岩及結晶質石灰岩等ノ互層ヨリ成リ下部ハ鱗状石灰岩ヲ主トシ之ニ灰綠色或ハ灰黃色頁岩及泥灰岩ノ薄層ヲ挟ム。

其ノ層向北部石材採石跡ニ於テハ北25°西、傾斜南西38°ヲ示スモ南部ニ追跡スレバ漸次層向ヲ北北西ニ轉化スルト共ニ増傾スル傾向ヲ有ス。

該層中ニ包藏セラル、化石ハ次ノ如シ。

*Obolus* sp.

*Anomocarella* cf. *chinensis* Walcott

#### 3 蠕虫状石灰岩層

本層ハ灰綠色、灰白色又ハ黃褐色等ノ種々ノ色彩ヲ帯ビタル所謂蠕虫状石灰岩 (*Wurmkalk*, *intraformational limestone-conglomerate*) ト板状石灰岩ノ互層ヨリ成リ之ニ灰綠色或ハ灰黃色頁岩、泥灰質石灰岩、泥灰岩ノ薄層ヲ挟有ス。之ヲ垂直的ニ見テ岩相上著シキ變化ナクシテ上部、下部ニ分ツコト困難ナリ。

而シテ奥陶紀層ト共ニ非對稱性ノ向斜層ヲ成シ北部東翼ニテハ層向北西々乃至北々西ニシテ南西々ニ30°—50°ノ傾斜ヲナシ西翼ニ於テハ60°—90°ノ急傾ニテ南北乃至北々東ニ走ル。而モ斷層ヲ伴ヒ山東部落附近及伊家溝西方ニテハ各々層向南北乃至北10°東、北70°東乃至東西ニ變ズ。

板状石灰岩或ハ泥灰質石灰岩中ニハ屢々腕足類ノ小化石ヲ包藏ス。

*Lingulella marcia* Walcott

*Obolus* cf. *sankiensis* Kobayashi

*Obolus* sp.

灰窩東山北部露頭及東部山麓並南部丘陵地ヨリ採集セシ板状石灰岩及蠕虫状石灰岩ハ何レモ苦土含有量比較的僅少ナレドモ蠕虫状石灰岩ハ珪發5%以上ヲ含有ス。

#### 4 苦土質石灰岩

石灰窩内斜面上部ヨリ山陵ニ、又南部丘陵地ニテ「アクテノセラス」石灰岩層ノ外廓ヲ成シテ露出シ上部寒武利亞紀層ヲ整合的ニ被覆シ下部蠕虫状石灰岩ヲ以テ其ノ基底トナス。

層向ハ北部東翼ニテハ北西ヲ、南部丘陵地ニテハ北70°東乃至東西ヲ示シ北部ニテハ稍緩傾斜ヲ、南部ニテハ急傾斜ヲ成セリ。

該層ハ灰色乃至灰褐色板状石灰岩 (他ノ薄キ石灰岩ヲ夾ム) 苦土質石灰岩 (結晶質或ハ緻密) 蠕虫状石灰岩等ノ厚サ大約140米ノ累層ニシテ概ネ苦土質ナル石灰岩ヲ介スレバ「セメント」原料トシ採掘シ得ルトコロ僅少ナリ。

#### 5 「アクテノセラス」石灰岩層

調査區域内ニテ最上位ヲ占ムル石灰岩層ニシテ屢々腕足類「アクテノセラス」(*Actinoceras*) ノ化石ヲ含ムヲ以テ斯ク命名ス。

本層ハ斑紋状石灰岩、黑色石灰岩、黧灰色石灰岩 (又ハチョコレート色ヲ帶ブ) ノ3種ノ石灰岩ヲ主トセル地層ニシテ、上部ハ概ネ斑紋状石灰岩ヨリ成リ黧灰色石灰岩及黑色石灰岩ヲ混ジ下部ニ至ルニ從ヒ漸次黧灰色石灰岩及黑色石灰岩ヲ増ス。土門子嶺區域ニ於テハ最上部一部ハ灰白色軟質泥灰岩ヲ以テ被覆セラレ又下部ニハ薄キ板状石灰岩ヲ夾ムコトアリ。

灰窩東山南斜面ニ於テ測定セル層向、傾斜ハ一般ニ北20°—40°西、北西25°—35°、土門子嶺區域ニ於テハ北10°東乃至南北、北西40°—70°ニシテ傾斜角ト内斜面勾配トノ角度差大ナラズ且表土ハ極メテ薄ク採掘上好條件ヲ具備セリ。



次ニ康大人山竝石灰岩附近ヨリ採集セシ化石ノ鑑定シ得ラレシモノヲ列擧シ地質時代決定上ノ證左トス。

Actinoceras richthofeni Frech

Actinoceras cf. tani Grabau

Orthoceras sp. nov.

Actinoceras sp. ind.

## 6 冲積層

前述セシ現河川ニ沿ヒテ擴ガレル洪瀆地ヲ構成セル砂礫、岩屑或ハ泥土、腐蝕土等總テ之ニ屬ス。砂礫ハ概ネ花崗岩ノ風化崩壊産物ニシテ其等ノ分解ヨリ成レル土壤ハ多量ノ石英ヲ挾雜シ比較的粘土分ニ乏シク多ク酸性ノ壤質砂土若クハ砂質壤土ナルガ如シ。

## 7 淡紅色花崗岩

本花崗岩ハ淡紅色正長石及石英ヲ主成分トシ淡紅色外觀ヲ呈スルヲ特徴トス、組織ハ粗粒斑狀構造、之ヲ薄片トシ顯微鏡下ニテ觀ヘバ黑雲母角閃石等ノ有色礦物ハ極メテ少量ニシテ且概ネ綠泥石ニ變成スルヲ認メラル。而シテ高陵土化セル正長石、灰曹長石及石英ヨリ構成セララル、無色基地ニ磁鐵礦、磷灰石、「ザルコン」、「チタナイト」ノ微小結晶散點ス。

該淡紅色花崗岩ハ鞍山附近ニ於ケル村上博士ノ所謂千山花崗岩 (Chienshan granite proper) ト岩質酷似シ、閃綠岩、花崗斑岩或ハ鹽基性岩脈ニテ貫通セラレ明ニ其等ヨリ前期ノ侵入ニ成ル。

本岩ハ質脆弱、結晶粒粗ニシテ石材トシ良品ナラズ、表面風化セルモノハ石英粒其他ノ構成礦物ヲ分解シ細粒狀ニ崩壊シ易キ性アリ。

## 8 角閃花崗岩

石灰岩西方附近ニ分布シ灰白色或ハ灰綠色粗細ノ斑狀構造ヲ呈スルモノナリ、本岩ハ正長石、斜長石 (Oligoclase-andesine) 石英及綠色角閃石ヲ主成分トシ淡紅色花崗岩ニ比シ緻密堅硬ニシテ新鮮ナリ、鏡査スレバ正長石、斜長石ハ周縁或ハ裂罅ヨリ絹雲母或ハ高陵土ニ變化シ碎屑或ハ撓曲セルモノアリ。

本岩ノ異相トシ片理ヲ有スル角閃片麻花崗岩或ハ黑雲母ヲ含有スル黑雲母角閃花崗岩ト稱スベキモノアレドモ産出稀ニシテ且相互ニ漸移スルモノ、如ク境界判然セザルヲ以テ地質圖ニハ之ガ分別ヲ避ケ一様ニ塗色セリ。

花崗岩ト奥陶紀或ハ寒武利亞紀累層ト接觸スル附近ニテハ石灰岩ノ「ネフライト」化或ハ硅化ヲ被レル明ナル證跡ヲ認メ得ラレズ (但シ煌斑岩脈ノ周圍ハ稍硅化ス) シテ兩者ハ略北西—南東ニ走ル斷層ニテ相接ス。

## 9 花崗斑岩

本岩ハ産出極稀ナレドモ區域西南部淡紅色花崗岩ニ伴ヒテ岩脈狀ヲ成シ産出ス、極メテ粗粒質ニシテ正長石、斜長石ノ斑晶ハ徑0.5mm以上ニ達シ稀ニ有色礦物ヲ含メドモ概ネ他形乃至半自形ノ石英、長石ヨリ構成セララル。

## 10 閃綠岩

野外ニ於テ前述セシ花崗岩ヲ貫通シ大小ノ岩脈ヲナセドモ小岩脈ハ迸發後ノ地殼變動ヲ被リ時ニ捕獲岩狀ニ花崗岩中ニ挾在スルヲ認ム。

外觀ハ綠色乃至灰綠色細粒狀構造ヲ呈シ合成礦物ハ斜長石 (andesine-labradorite) 綠色角閃石及微量ノ副屬礦物ヲ以テス。

## 11 煌斑岩

本岩ハ石灰岩附近、該部落西方岫山東北郡山麓ニ岩脈又ハ岩床狀ヲ成シテ露出シ中部奥陶紀層ヲ貫通シ明ニ該層堆積後ノ噴起ニ成ル、恐ラク滿洲一般ニ行ハレシ奥陶紀末期ノ地殼變動ニ伴ヒ褶曲ノ爲ニ生ゼシ地裂線ノ軟弱ナル部分ニ沿ヒ迸發セシモノナルベシ。

本岩ハ外觀分解變朽シ一様ニ暗綠色或ハ灰綠色ヲ帯ビ肉眼ニテ識別困難ナレドモ之ヲ薄片トシ鏡査スレバ自形ヲ成シ略定向性ヲ示ス多量ノ細柱狀褐色角閃石、斜長石及少量ノ普通輝石、黑雲母ヲ主成分トシ斜長石ハ分解セルタメ光學性測定困難ナレドモ「カナダバルサム」トノ屈折率ノ比較ニ依レバ「アンデシン」ニ近キ組成ヲ有ス。本岩ハ角閃煌斑岩ト稱セララルベキモノナルモ尙新鮮ナル試料ニ依ル鑑定ヲ要ス。

## 6 石灰岩

本章ニ於テハ曩ニ記述セシ奥陶紀、寒武利亞紀ニ屬スル種々ノ石灰岩中代表的ナルモノ8種ヲ選擇シ以下肉眼、顯微鏡的、化學的諸性質ヲ記セントス。

### 1 斑紋狀石灰岩

本岩ハ外觀黝灰色或ハ褐色味ヲ帯ビタル藍色ノ基地ニ灰黃色乃至黃褐色不定形泥灰質斑紋ノ點在スルヲ特徴トシ該斑紋ハ比較的鮮明ナル輪廓ヲ示スモノト境界不鮮明ニシテ雲狀ニ暈サル、モノトアリテ其等ハ概ネ層面ニ並行シ其ノ方向ニ延長セル形態ヲ示ス。其ノ性狀所謂雲形石灰岩或ハ「ブラツク・ウエルダー」氏ノ斑狀石灰岩トハ稍趣ヲ異ニス。

### 顯微鏡的觀察

試料 No. 1 ヲ薄片トシ鏡下ニテ觀ヘバ徑 0.01mm—0.03mm、或ハ0.05mm—0.1mm、程度ノ形態均一ナラサル方解石粒聚合ヨリナル基地ニ0.5%以上ノ自形方解石斑晶狀ニ散點ス。肉眼ニテ灰黃色ヲ呈スル部分ハ微細ナル半不透明物質ヨリナリ、方解石細脈縱横ニ走ル。

### 化學成分 (百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No. 1	40.74	8.75	0.74	0.04	6.63	43.17
No. 2	43.09	3.16	0.46	0.04	6.26	47.10
No. 3	43.05	2.87	0.35	0.07	4.20	49.90
No. 6	42.85	3.51	0.38	0.02	4.49	49.06



平均 42.43 4.32 0.48 0.04 5.40 47.31

分析結果=微スル=苦土及石灰ノ含有量範圍ハソレソレ4.20%—6.63%及43.13%—49.90%ニシテ純度低ク苦土少シク過量ノ憾アリ。

然レドモ石灰製造原料トシテハ軟質ニシテ採石上有利ナル産狀ヲナスヲ以テ現在土民ハ石灰燒竈ニ大半之ヲ使用セリ。

## 2 黑色石灰岩

外觀黑色均質ニシテ軟質ナル黑色石灰岩ハ「アクテノセラス」石灰岩層下部ヲ占メ、黝灰色石灰岩、斑紋狀石灰岩ヲ伴フ。

### 顯微鏡的觀察

斑紋狀石灰岩ト異リ鏡下ニテ泥灰質微粒物ヲ認メス、概ネ0.01mm—0.05mmノ不定形ノ方解石粒ノ集合體ニシテ均一ニ不透明有機炭質物ヲ以テ汚濁セラル。

### 化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.4	43.30	0.99	0.32	0.08	0.69	54.95
No.5	40.74	3.45	0.49	0.01	2.21	51.58
平均	42.02	2.22	0.41	0.04	1.45	53.27

上記成績ニ依レバ平均數値ト苦土、珪砂、石灰等ノ成分範圍ト對照シ著シキ變化アルカ如ク思ハル、モ試料No.5ハ地表面ニ近キ風化セシモノヲ分析セシニ因ルベク、本岩ハ調査區域内ニテ其純度最高ヲ占メ且軟質ニシテ種々基礎的工業原料トシテ好適ナルモノナリ。

## 3 苦土質石灰岩

本石灰岩ハ結晶質又ハ非顯晶質緻密ニシテ岩色一定セズ、白色、灰色、灰褐色等種々ノ色彩ヲ帶ブ。又板狀層狀、塊狀等ノ産狀ヲナシ外觀ノミニテハ他種石灰岩ト誤認シ易ケレドモ稀鹽酸ヲ新鮮ナル割口ニ滴下シ碳酸瓦斯氣泡ノ發生程度ノ微弱ナルニヨリ識別セラル。

### 顯微鏡的觀察

白色結晶質試料No.10ヲ鏡下スレバ略等粒狀ノ0.3mm—0.5mmナル白雲石ノ新鮮ナル結晶ノ寄木狀集合ヲナセルヲ見ル。不純物ノ混在ハ極メテ少許ニシテ僅カ散點的ニ塵埃狀微粒物存在スルニ過ギズ。

茲ニ試料ニ供セシモノハ白雲石ヨリ成レドモ「碳酸マグネシウム」ハ他試料ニテモ又白雲石CaMg(CO<sub>3</sub>)<sub>2</sub>ノ形ニテ石灰岩中ニ混スルモノナルヤ或ハ類質同像混合物(isomorphous mixture)トシテ方解石中ニ存在スルモノナルヤ尙研究ヲ要スベシ。

### 化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.7	44.34	3.63	0.88	0.38	14.52	36.73
No.8	42.97	8.41	0.42	0.02	18.87	29.16

No.9	44.94	4.65	0.77	0.23	20.06	30.00
No.10	47.10	0.75	0.42	0.02	20.89	31.12
平均	44.84	4.35	0.62	0.16	18.56	31.75

上表ニ依レバ本岩ハ製鐵用爐材トシ珪砂ノ含有量一般ニ稍過量ノ缺點アリ。

## 4 板狀石灰岩

本岩表面ハ普通灰白色ヲ呈スレドモ時ニ黝灰色或ハ淡灰綠色ヲ帶ブ。層狀ヲナスモノモアレドモ概ネ數種ノ板狀ニ剝離スル性アリ。

### 顯微鏡的觀察

鏡下ノ性質ハ指シテ特徴ナク大イサ均一ナラザル不定形ノ方解石粒ノ集合ヨリ成リ時ニ方解石ノ他ニ縫合線狀ノ黃褐色物質ヨリ成ル細線ノ岩石中ヲ貫通セルヲ認メ得ルニ過ギズ。

### 化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.11	41.06	4.55	0.52	1.03	0.85	50.16
No.12	42.99	1.91	0.74	0.06	1.73	52.99
平均	42.03	3.23	0.63	0.55	1.29	51.58

板狀石灰岩ハ調査區域内ニテ良質ナルモノニ屬ス。

## 5 蠟虫狀石灰岩

外觀ハ蠟虫狀或ハ蠟虫狀ノ構造ヲ呈シ灰色、灰綠色、黃褐色或ハ赭色等々ノ岩色ヲ帶ビタルモノアリ。

扁平ナル長柱狀楕圓狀又ハ不規則ナル角礫狀ヲナス、礫ハ概ネ層面ノ方向ニ並列シ普通徑2種乃至5種ニシテ、充填物ニ比シ緻密ナルヲ以テ風化ニ對スル抵抗強ク、地表面ニ露出セル部ハ特ニ本構造ノ顯著ナルヲ見ル。

### 顯微鏡的觀察

黃褐色ノ試料No.13ヲ採リテ檢鏡スルニ礫ハ概ネ炭質物ニテ汚染セラル、微細ナル方解石ノ密集セルモノナレド充填物ハ比較的組織粗ニシテ半自形ノ方解石ノ他少量ノ石英及海綠石(FeKSi<sub>3</sub>O<sub>10</sub>)ヲ含ミ又分離セルニ酸化鐵ノ黃褐色物質ヲ認ム。

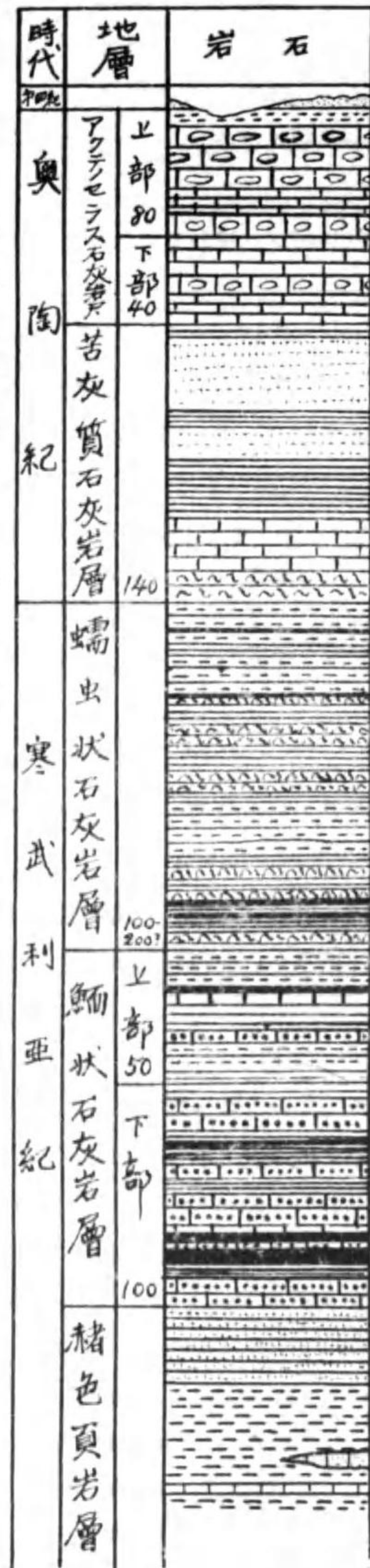
惟フニ海綠石ノ生産地ハ現在概ネ淺海底或ハ大陸棚斜面ナレバ本石灰岩ハ附近地層ノ滑動(Sliding)シ崩壞セシ岩層ノ再ビ不規則ニ集積シ生成セラレタルモノナルベシ。

### 化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.13	40.47	5.47	0.88	1.45	0.96	49.32
No.18	40.33	5.18	1.66	1.37	0.99	49.60
平均	40.40	5.35	1.02	1.41	0.98	49.46

本岩造岩礦物ト上表ト照シ珪砂ハ殆ソド石英トシテ存在セルモノナレバ石灰分平均49.46%ニ





泥灰岩  
斑紋狀石灰岩  
黧灰色石灰岩  
黑色石灰岩  
苦灰質石灰岩  
板狀石灰岩  
結晶質石灰岩  
蠟虫狀石灰岩  
泥灰質石灰岩  
灰綠色頁岩  
蠟虫狀石灰岩  
泥灰質板狀石灰岩  
蠟虫狀石灰岩  
灰黃色頁岩  
泥灰質石灰岩  
板狀石灰岩  
蠟虫狀石灰岩  
蠟虫狀石灰岩  
灰綠色頁岩  
蠟虫狀石灰岩  
含雲母砂質頁岩  
緒色頁岩  
泥灰質石灰岩

シテ品位稍劣レドモ、苦土ノ量少ク油母頁岩乾溜殘渣ヲ他原料トスル「セメント」製造原料トシテハ恐ラク支障ナカルベキモノト思考ス。

尙蠻岩狀構造ヲナシ美麗ニシテ細密ナルモノハ建築石材トシテ應用シ得ラルベシ。

6 鱗狀石灰岩

該石灰岩ハ特徴アル鱗狀構造 (oolitic structure) ヲナシ風化面ハ灰色乃至黑色ヲ呈シ時ニ球體脫離シ球形凹部ヲ生シ表面平滑ナラズ。一般ニ硬度高ク球體ハ密ニ聚合セラレ又沈積面ノ位置ニテ其ノ大イサニ多少ノ相違ヲ認ム。

顯微鏡の觀察  
球體ハ鏡下ニテ普通徑1耗—2耗ノ顯著ナル(1011)ノ劈開ヲ示ス1個ノ完品ヲナスモノ多ク同心圓の構造 (Concentric structure) ヲ認メ得ベキモノ稀ナリ。放射狀ニ方解石ノ聚合セルモノ或ハ壓力ノ影響ヲ被リ楕圓狀ニ變形セルモノ或ハ碎屑シ弱キ渡狀消光ヲ呈スルモノ等ヲ認ム。

充填物ハ不定形ノ方解石及少量ノ炭質物海綠石酸化鐵ヨリ成ル。尙本岩ハ稀ニ黃鐵礦ヲ含ム。

化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.14	42.50	2.62	0.72	0.77	0.45	53.24
No.15	41.93	3.38	0.88	0.72	2.21	50.16
平均	42.23	3.00	0.80	0.75	1.33	51.70

石灰ノ平均含有量51.70%ニシテ其純度黑色石灰岩ニ次ギテ高ク、苦土、酸化鐵、礬土ノ各含有量何レモ許容範圍内ニアルヲ以テ「セメント」原料トシ良品ナリ。

7 結晶質石灰岩

本岩ハ蠟虫狀石灰岩層ノ一員ニシテ概シテ厚サ50種或ハ2米以内ノ薄層ヲ成シテ挾在ス。普通灰白色ニシテ著シク硬質緻密ナルヲ以テ槌ニテ破碎スルコト容易ナラズ。之ニ伴ヒテ綠色點紋ヲ有スルモノ或ハ灰褐色泥土質石灰岩ヲ産ス。

化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.16	42.80	1.95	0.48	0.28	1.34	50.86

上記成績ヨリ製鐵用或ハ「セメント」原料トスルヲ得ルモ堅硬ナル缺點アリ。

8 塊狀石灰岩

肉眼的ニ灰青色乃至灰色、泥質ニシテ時ニ風化面ハ鐵銹色ニ變化ス。

顯微鏡の觀察

試料No. 17ハ微細ナル方解石粒及石英ノ外強度ノ「レンズ」ニテモ分解シ能ハサル如キ多量ノ半透明混質物ヲ含ミ褐色酸化鐵條線及方解石細脈ヲ觀察セラル。

化學成分(百分中)

試料	灼熱減量	珪砂	酸化鐵	礬土	苦土	石灰
No.17	35.32	13.75	1.79	2.27	2.11	42.45

7 埋藏量

各種石灰岩ノ可採量ヲ算出スルニ當リ、調査區域ヲ灰窩東山區域、土門子嶺區域、南部丘陵區域ノ3部ニ分チ各區域ニ就キテ概算シ合セテ賦存狀況運搬上ノ便不便等ヲ吟味セントス。

1 斑紋狀石灰岩

斑紋狀石灰岩ハ「アクテノセラ」石灰岩層上部ノ約8割ヲ占メ黑色石灰岩、黧灰色石灰岩ヲ挾ム。其ノ苦土含有量5%内外ナルヲ以テ適宜ニ良質石灰岩ヲ配合セザレバ使用スル能ハズ。

灰窩東山區域

幅 最大高 傾斜角 延長

$$\frac{1}{2} (300 \times 80 - 80 \times 80 \times \cot 30^\circ) \times 600 = 7,395,456 (m^3)$$

比重

$$2.6 \times 7,395,456 = 20,228,185 (噸)$$

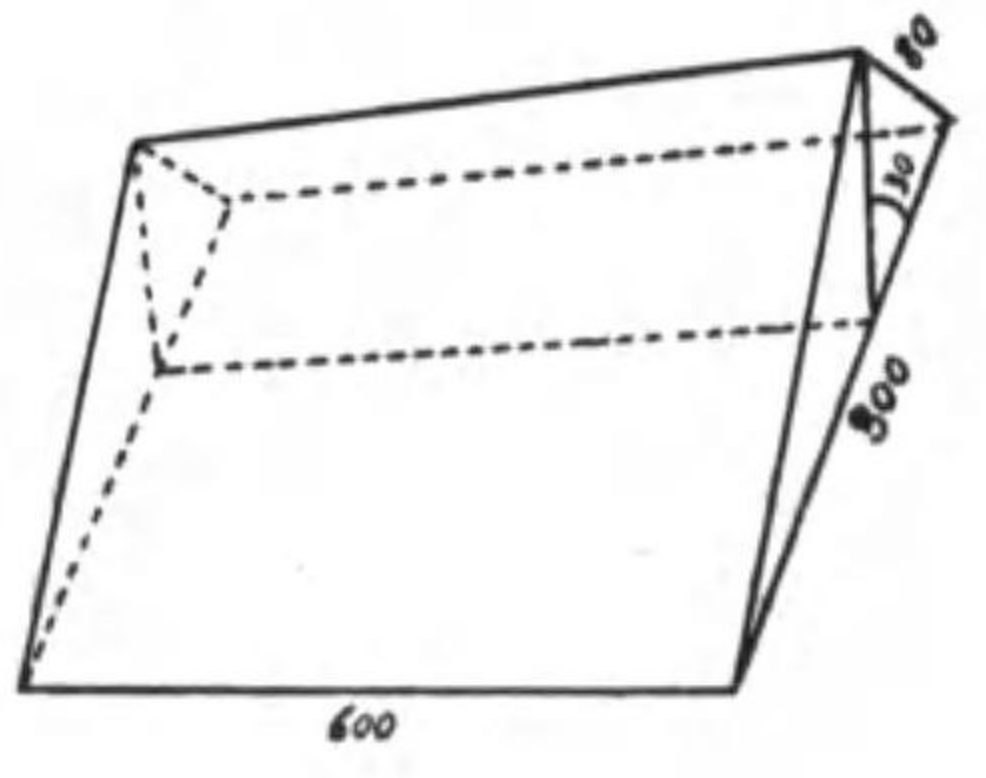
$$20,228,185 \times 0.8 = 16,182,500 (噸)$$

土門子嶺區域

幅 最大高

$$\frac{1}{2} (500 \times 80 - 80 \times 80 \times \cot 30^\circ) \times 900 = 17,393,184 (m^3)$$

$$2.6 \times 17,393,184 = 45,222,784 (噸)$$

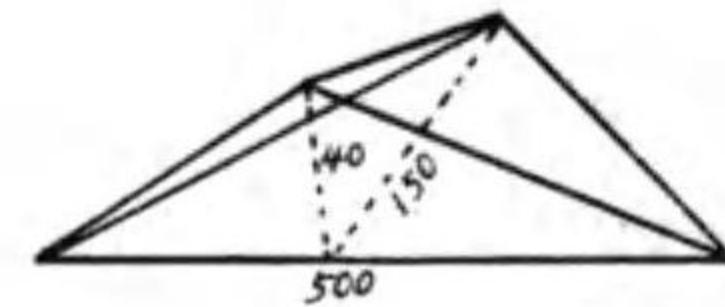




$45,222,784 \times 0.8 = 36,178,200$  吨

南部丘陵区域

幅 最大高 延長  
 $\frac{1}{2} (150 \times 40 \times 500) = 3,000,000 (m^3)$   
 $2.6 \times 3,000,000 \times 0.8 = 6,240,000$  吨  
 總 計 58,600,000 吨



2 黑色石灰岩

「アクトノセラス」石灰岩層下部ノ約7割ハ本岩ヨリナリ他ハ黝灰色石灰岩、斑紋狀石灰岩ヲ構成ス。

今下部層ヲ採掘スルトスレバ分別採石セズトモ恐ラク石灰約51%、苦土約2.2%内外ノ混合成分ヲ有スルモノヲ求め得ラルベシ。

灰窯東山區域

層厚平均 平均高 延長  
 $40 \times 60 \times 1300 = 3,120,000 (m^3)$   
 比重  
 $2.6 \times 3,120,000 = 8,112,000$  (吨)

下部層ハ大約800萬吨ノ中約7割ハ黑色石灰岩ナルヲ以テ其ノ埋藏量ハ約560萬吨ナリ。即チ  
 $(8,000,000 \times 0.7 = 5,600,000)$  吨

土門子嶺區域

本區域ニ於テハ(イ)康大人山附近脊斜軸ニ沿ヒテ露出スル部ト(ロ)苦土質石灰岩層上部ニ發達セルモノトアリ。同様ノ方法ニ依リテ算出スルニ各鑛量ハ

(イ) 下部層	3,120,000 吨	黑色石灰岩	2,184,000 吨
(ロ) 下部層	6,552,000 吨	黑色石灰岩	4,586,400 吨
總 計			

「アクトノセラス」石灰岩層下部

17,640,000 吨

黑色石灰岩

12,348,000 吨

惟フニ本岩採掘計畫第一候補地トセラルベキ處ハ石灰窯部落附近ニシテ康大人山附近ノモノハ上盤ノ厚サ尙大ニシテ之ニ次ギ南部丘陵地ハ表土厚ク可採鑛量極メテ小額ニシテ考慮スベキ價値ナシ。

3 苦土質石灰岩

苦灰質石灰岩層ハ全層厚約140米、其中約5割即チ約70米ハ苦灰質石灰岩ヲ以テ構成セラレ板狀緻密石灰岩或ハ蠕虫狀石灰岩ヲ伴フモ總體ヲ通覽シ採掘ニ堪ヘザルモノト思考ス。

3 區域ニ於ケル埋藏量ノ概算ヲ示セバ次ノ如シ。

(但シ苦土質石灰岩ノ比重ヲ2.7トシ記載ノ簡潔ヲ期スルメ計算方法ヲ省略ス)

灰窯東山區域	35,360,000 吨
土門子嶺區域	10,200,000 吨
南部丘陵區域	2,840,000 吨
總 計	48,400,000 吨

4 板狀石灰岩及蠕虫狀石灰岩

兩石灰岩ハ蠕虫狀石灰岩層ニテ概ネ互層スルヲ以テ本層全埋藏量ヲ計算シ板狀石灰岩及蠕虫狀石灰岩ハ各其ノ4割宛ヲ占メ頁岩及泥灰質石灰岩ハ殘部2割ノ量ヲ有スルモノトシテ算出ス。

灰窯東山區域

層厚 平均高 延長  
 $200 \times 50 \times 2100 = 21,000,000 (m^3)$   
 比重  
 $2.6 \times 21,000,000 = 54,600,000$  (吨)  
 板狀石灰岩及蠕虫狀石灰岩ハ各概略  
 $(54,600,000 \times 0.4 = 21,840,000)$  吨

2,184萬吨ナリ

土門子嶺區域

本地域ニ於テハ比較的低阜ナル山麓部ニ發達スルヲ以テ表土厚ク可採鑛量比較的小量ナリ。

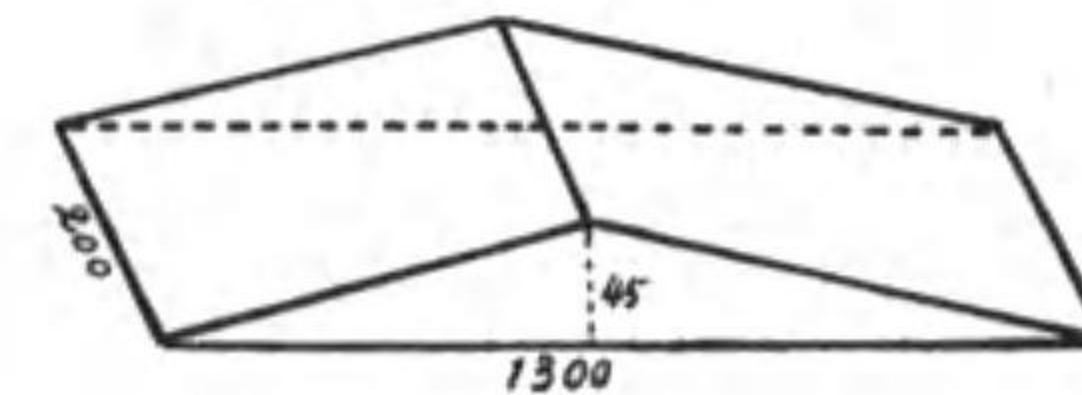
蠕虫狀石灰岩層總埋藏量	4,160,000 吨
板狀石灰岩層	1,664,000 吨
蠕虫狀石灰岩層	1,664,000 吨

南部丘陵區域

蠕虫狀石灰岩層ハ本區域ニ於テハ標高28米ノ山麓部ヲ占メ伊家溝北部丘陵南半ニ及ブ層厚高サ 延長

$\frac{1}{2} (200 \times 45 \times 1300 = 5,850,000 (m^3))$   
 $2.6 \times 5,850,000 = 15,210,000$  (吨)

板狀石灰岩	6,084,000 吨
蠕虫狀石灰岩	6,084,000 吨
總 計	
蠕虫狀石灰岩層	73,970,000 吨
板狀石灰岩	29,588,000 吨
蠕虫狀石灰岩	29,588,000 吨



(註) 蠕虫狀石灰岩層稍品位劣レドモ石灰約50%内外ナルヲ以テ珪酸含有量少シク多キ燻アレド



モ「セメント」原料トシ使用シ得ラルバ本層ヲ採掘セントスレバ南部丘陵地ハ鐵道沿線ニ最モ近キヲ以テ運搬費ノ低廉ヲ計リ得ベシ。

5 鱗狀石灰岩及結晶質石灰岩

上記2種石灰岩及泥灰質頁岩等ヨリ成ル中部寒武利亞紀鱗狀石灰岩層ハ品位上垂直的ニ見テ變化少ナク且概シテ石灰51%以上ヲ含ムヲ以テ總體ヨリ見テ最モ良好ナル地層ナリ。

鱗狀石灰岩層ノ總埋藏量ハ上部及ビ下部ニ分チテ算出スレバ次ノ如シ。

灰岩東山區域

上部層

厚サ 高サ 底邊  
 $\frac{1}{2} (50 \times 60 \times 2000 = 3,000,000 (m^3))$

$2.6 \times 3,000,000 = 7,800,000 (噸)$

下部層

$\frac{1}{2} (100 \times 40 \times 1300 = 2,600,000 (m^3))$

$2.6 \times 2,600,000 = 6,760,000 (噸)$

合計 14,560,000 噸

鱗狀石灰岩ハ上部層ニ於テハ約2割、下部層ニ於テハ約6割ヲ占メ其ノ埋藏量ハ合計大約600萬噸ナリ。

結晶質石灰岩ハ全埋藏量ノ約1割ニ過ギズ、大約150萬噸ト算ス。

本層中ノ鱗狀石灰岩ハ現在灰岩東山東北山腹ニ於テ石材トシテ採掘セラル。

南部丘陵區域

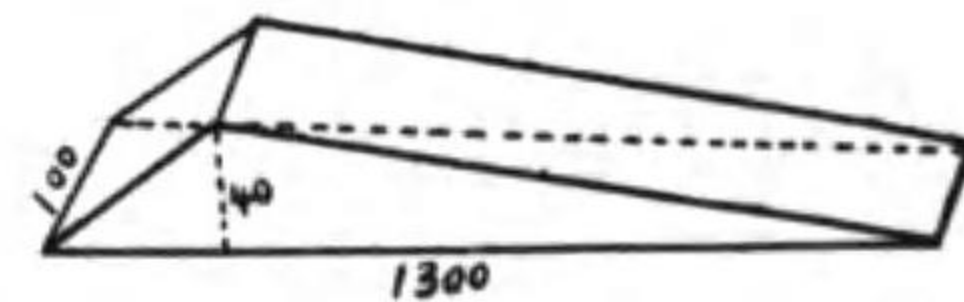
本地域ニ發達スル鱗狀石灰岩層ハ地並上20米程度ノ低地ヲ占メ表土厚ク採掘ニ便ナラズ。次ニ埋藏量ヲ概算スレバ各項次ノ如シ。

鱗狀石灰岩上部	1,170,000 噸
同 下部	982,000 噸
鱗狀石灰岩	823,000 噸
結晶質石灰岩	215,000 噸

以上示セン各埋藏量ハ粗惡ナル地形圖ニ基キタルモノナルヲ以テ今後精密ナル地形測量ヲ爲シ試掘ヲ施シ精査シ地下等高線法等ヲ應用シ算出スレバ略其ノ確定値ヲ與ヘ得ベク本稿ニ於テハ只其ノ概數ヲ與ヘタルニ止ム。

8 沿革及現狀

本石灰岩ノ發見セラレシハ古キ昔ニアリト謂ハレ今ヨリ二百有餘年前ヨリ知ラレテ其後盛衰アリトハ云ヘ斷續的ニ採行セラレシモノト聞ク。其中大正元年頃ヨリ同12年頃ニ至ル迄最モ盛ニ發



掘セラレ多數ノ窑ヲ据付ケ石灰ヲ燒窯シ奉天方面ニ馬車或ハ鐵道ニテ姚千戸屯驛ヨリ搬出セリ。當時ハ其ノ窑ノ數120個ニモ達センガ其後數年來安奉沿線火運塞其他ニ壓倒セラレ漸次縮小スルノ止ムナキニ至リ現在ハ甚ダ衰微シ窑數僅カ30個内外ニ減シ而モ石灰ハ特ニ註文ニ應シ又ハ農閑期ヲ利用シ燒窯スルニ過ギズシテ今度調査ノ折ハ僅カ2、3名宛3ヶ所採石ニ從事セルヲ見タルニ過ギズ。ソノ採掘方法ハ山麓地並上15m—30mノ處ニテ表土ヲ剝キ泥灰岩及表面數米内ノモノヲ除去シ濃黑色又ハ墨灰色ナル新鮮ナル部分ヲ選ビ節理ヲ利用シテ採石セリ。

康大人山附近石灰岩產地ハ現在四近農民鄭逢源以下14名ノ所有ニナレドモ上述ノ如ク衰微シ居ルヲ以テ讓渡ヲ希望シツ、アル状態ナリ。最後ニ姚千戸屯驛ヨリ當地生石灰ノ既往ノ額並ニ鑛區所有者名ヲ列記シ參考ト爲ス。

大正 12 年	2,420 噸	昭和 3 年	1,097 噸	
13 年	878 噸	4 年	33 噸	
14 年	627 噸	5 年	570 噸	
15 年	194 噸	6 年	210 噸	
昭和 2 年	574 噸	7 年	— (姚千戸屯驛調)	
鄭逢源	鄭逢清	袁士榮	邊作山	鄭逢明
鄭逢起	袁盛德	王明	鄭逢儉	鄭逢齡
袁兆倫	赴思魁	鄭逢順	袁士知	

吉林省五常縣三道溝子石炭調査報告 (昭和8年11月)

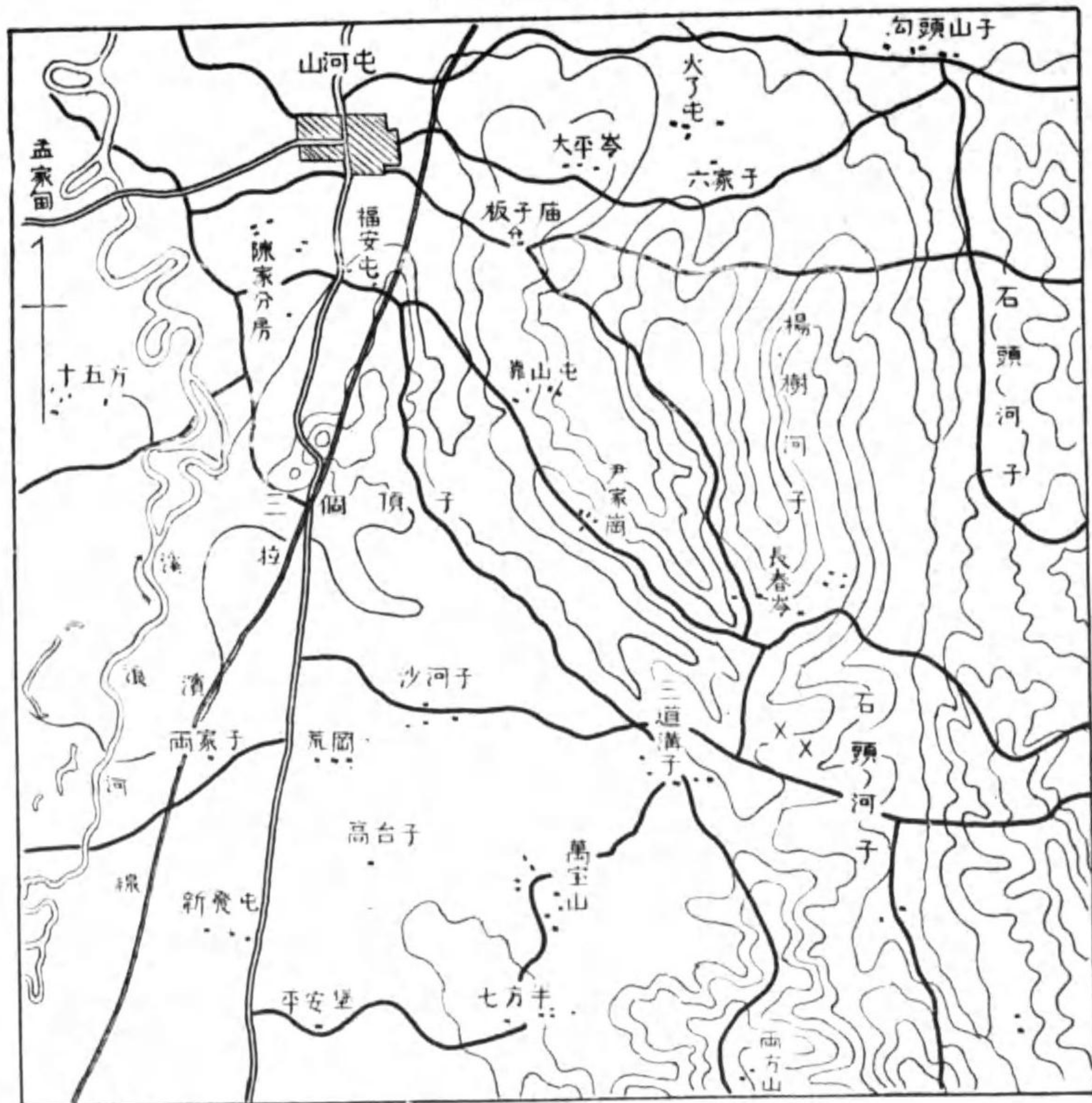
地質調査所員 澤 介 治

1 總 括

調査セル石炭產地ハ吉林省五常縣三道溝ニアリテ目下建設中ノ拉濱線沿線山河屯ノ南東直距約9 軒ノ地ニアリ、石炭ハ吉林北方紅窩炭田ト北鐵東部線沿線烏吉密附近ノ石炭產地トヲ連ヌル一連ノ地層(白堊紀ヨリ第3紀ニ亙ルモノ)中ニアル褐炭ナリ。炭質ハ灰分27—34%「カロリー」2,940—3,490ニシテ不良ナリ、今回ノ調査ニ於テハ單ニ地表ニ近キ一層ヲ見タルノミニシテ炭層ハ夫以上ニ猶存在ヲ豫想セラル、モ良質ノ石炭ハ得難カルベク當地方今日ノ石炭供給狀況ヨリ見ルトキハ多クノ時日ト費用ヲ要スル探鑛ハ差當リ其ノ要ナシト認ムルモノナリ。



吉林省五常縣三道溝子石炭產地 (縮尺十萬分之一)  
(×石炭試料採取地)

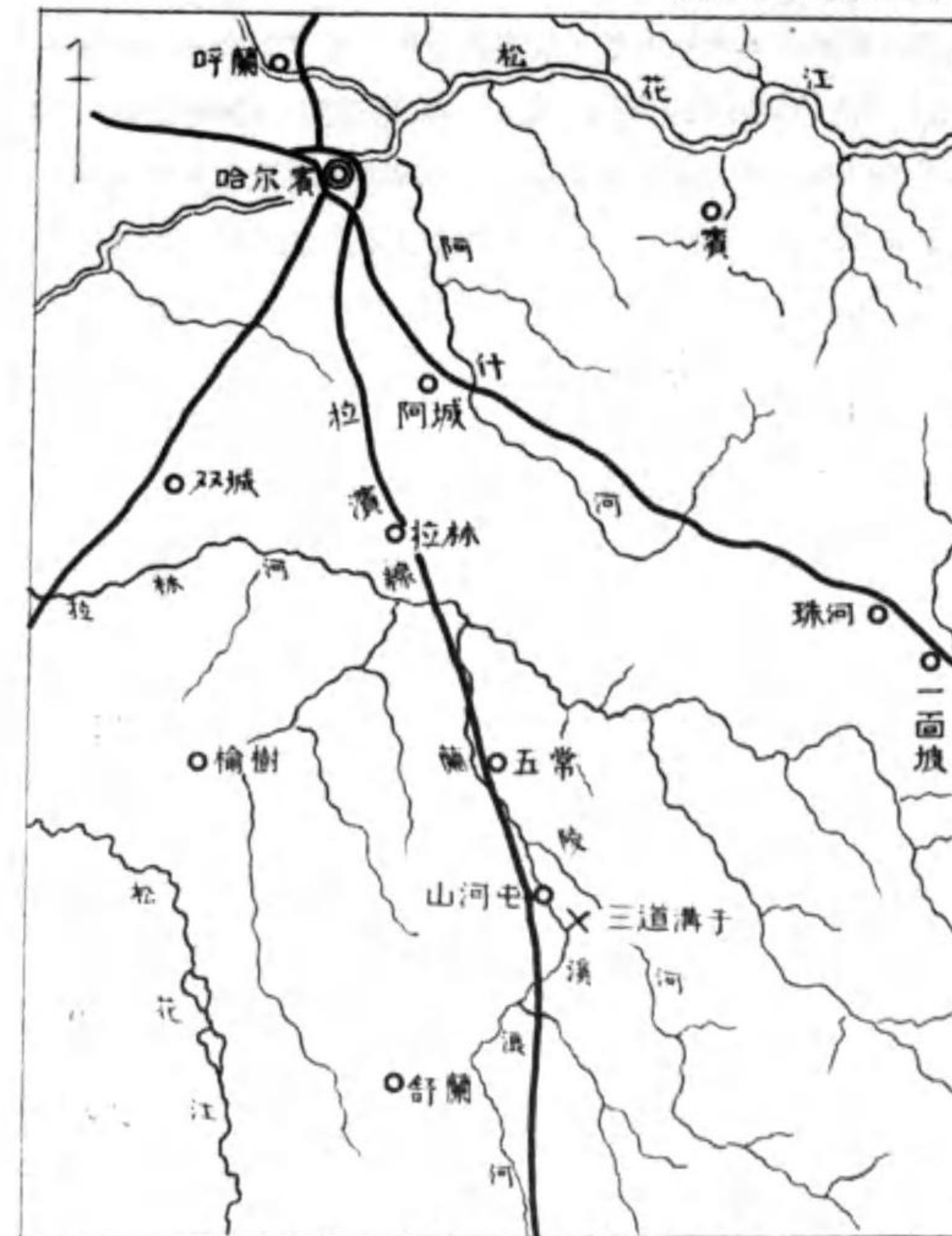


### 2 位置及交通

調査セル石炭産地ハ目下建設中ノ拉濱線沿線山河屯ヲ距ルコト南東ニ直距約9軒、三道溝部落ノ東方約2軒ニアリ、西方約8軒ニハ拉林河ノ支流浪河ノ北方ニ流ル、アリ、本産地附近ハ該河ノ地並ヨリハ高サ約30米内外ノ丘陵地ヲ成ス、山河屯ヨリ三道溝ニ至ル間ノ道路ハ相當良好ナルモ同部落ヨリ石炭産地ニ至ル間ノ道路ハ狹隘ニシテ不良ナリ。

### 3 沿革及權利關係

三道溝子石炭産地位置及交通略圖  
(縮尺二百萬分之一)



炭田ヨリ北ハ北鐵沿線烏吉密附近ノ石炭産地ニ至ル一連ノ地層中ニ屬スルモノ、如ク其ノ地質時代ハ未詳ニテ白堊紀乃至第三紀ニ屬スルモノ、如シ。

### 5 鑛床賦存狀態

調査地域ハ地並上高サ30米内外ノ緩慢ナル丘陵地ニシテ砂岩又ハ頁岩ヨリ生成セル土壤ヲ厚ク蔽リ岩層ノ露出良好ナラス、附近ノ土民ヲシテ案内セシメタルニ一溪谷ノ叢中ニ2箇處ノ小ナル舊採掘跡ヲ見タリ、本採掘跡ハ少量ノ石炭ヲ試掘シタル後既ニ長時日ヲ經過セルモノ、如ク上流ヨリノ土砂ノ爲埋没シ僅ニ凹所トナリテ殘レル狀態ナリ。此ノ2箇ノ凹所ハ殆ンド連續シ一ハ長サ約10尺、他ハ長サ約15尺ノ溝狀ヲ成シ深サハ各2—3尺ナリ。人夫ヲシテ更ニ之ヲ掘鑿セシメタルニ採取セル石炭層ハ殆ンド地表ニ並行シ厚サ5—6寸、傾斜東方ニ5—10度ナリ、而シテ炭層ノ上部ハ5—6寸ノ厚サニ表土ヲ蔽ル、此ノ地點ヨリ更ニ北方ニ約200米ヲ距テタル地點ニ赤黃色頁岩ノ露頭アリ、傾斜東方ニ5度内外ニシテ厚サ1尺内外ノ炭層ヲ夾有セリ、斯ク含炭層ハ極メテ緩

當地附近ノ石炭ハ嘗テ7—8年前ニ露人ノ來リテ調査セルコトアリ、又少量山河屯ニ搬出セシコトモアリトイフ、然レトモ現地ヲ調査セルニ單ニ露頭部ヲ小規模ニ試掘セシニ止リ多量ニ採掘セル跡ナシ、而シテ未ダ何等ノ鑛業關係モ發生シ居ラサル模様ナリ。

### 4 地質

附近ハ30米内外ノ高サヲ有スル緩慢ナル波狀丘陵地ニシテ土壤ノ生成厚ク且樹木密生セル爲岩層ノ露出良好ナラス、今回ノ調査ニ於テハ一般岩層トシテハ調査地附近ニ僅ニ1箇處ノ赤黃色頁岩ノ露頭ヲ見タルニ止ル、然レトモ本地域ノ夾炭層ハ吉林省内各方面ノ地質調査ノ結果ヲ綜合スルニ南ハ吉林北方ノ缸窑



傾斜ヲ成シ箇處ニ依リテハ殆ンド地表ニ並行シテ露出セルモノナリ。

今回ノ調査ニ於テハ僅ニ地表ニ近キ1層ヲ見タルノミニシテ炭層數ハ明ニセサルモ吉林省北方缸窩炭坑ニ於テハ7層、北鐵東部線烏吉密附近ニテハ8層アル事既ニ明ナルヲ以テ本地域ニモ恐ラク數層ハ存在スルモノト思ハル、而シテ上記兩產地ノ炭層ノ厚サハ缸窩炭坑ニ於テハ0.51—3.09米、烏吉密附近ニテハ0.42—2.13米ニシテ1米以下ノモノ最モ多シ、本調査地附近ニ於ケル炭層モ略之ト同様ナル程度ノモノナルベシ、今回ノ調査ハ第一ニ石炭產地ノ所在、次ニ其ノ地質時代、炭質ノ概括ヲ知り之ニ依ツテ探鑛作業必要ノ有無ヲ決定セムトセルモノニシテ未ダ炭層數ヲ明ニセズ。

## 6 炭質及埋藏量

埋没セル探掘跡ヲ再ビ掘鑿シテ採取セル石炭(No.1) 探掘跡ノ周圍ニ少量殘存セル石炭(No.2) 及赤黃色頁岩中ヨリ今回新ニ採取セル石炭(No.3) ヲ分析セル結果ハ次ノ如シ、(中央試驗所分析)

試料番號	水分 %	灰分 %	揮發分 %	固定炭素 %	硫黃 %	發熱量	骸炭性状	灰色相
No.1	17.36	27.54	42.40	12.70	0.35	3,490	不粘結性	褐色
No.2	16.16	34.38	38.10	11.36	0.32	2,940	”	”
No.3	16.24	33.95	32.78	17.03	0.28	3,070	”	”

上記ノ分析ニ見ル如ク本地域ノ石炭ハ褐炭ニシテ札賚諸爾炭坑ノ褐炭ニ比シ水分ニ於テハ同炭ノ20—40%ヨリ小ナルモ灰分ニ於テハ同炭ノ4—8%ヨリ著シク大ニシテ發熱量ハ概ネ1,000「カロリー」以上小ナリ、又缸窩炭ニ比スレバ水分ハ略同様ナルモ灰分ハ概ネ10%以上多シ。

上記分析試料ノ外觀ハ何レモ暗褐色ヲ呈シ光澤ナク葉狀ニ剝離スル性著シ。

埋藏量算出ノ爲ニハ相當廣汎ナル範圍ニ探鑛掘又ハ試錐ヲ行フ要アリ、今回ハ露頭部舊探掘跡附近ノミノ調査ヲ爲セルヲ以テ之ヲ算出セス。

## 7 現 況

嘗テ山河屯部落ニ少量搬出セシ事アリトイフモ其ノ數量明ナラズ、同地方ハ從來燃料トシテ薪ヲ使用シ殆ンド石炭ノ必要ヲ認メサレバ極メテ少量ヲ試驗的ニ燃焼セシモノナルベシ、調査地附近ニハ未ダ何等ノ鑛業ノ關係モ生シ居ラサル模様ナリ。

## 8 結 章

今回調査セル石炭產地ハ吉林省五常縣三道溝部落附近ニアリテ目下建設中ノ拉濱線沿線山河屯ヨリ南東直距約9軒ノ地ニアリ、含炭地層ハ吉林北方缸窩炭坑及北鐵東部線沿線烏吉密附近ノ含

炭層ト同一ナル地層ニシテ下部白堊紀又ハ上部侏羅紀ニ屬スルモノト認メラル、舊探掘跡ヨリノ石炭及今回新ニ發掘セル箇處ヨリノ石炭ヲ分析セルニ石炭ハ灰分30%内外ヲ含ム褐炭ニシテ其ノ質不良ナリ、今回ハ單ニ地表ニ近キ1層ヲ調査セルノミニシテ他ニ猶數層ノ存在ヲ豫想セラル、モ同一地層ニ屬スト考ヘラル。上記缸窩炭烏吉密附近ノ炭層ノ状態ヨリ見レバ良好ナル石炭ヲ得ル事困難ナリト認メラル、依テ今日ノ當地方ニ於ケル石炭需給關係ヨリ見ルトキハ多クノ費用ト時日ヲ要スル探鑛作業ハ差當リ其ノ要ナシト考フルモノナリ。







## 3 吉林省實縣老山頭

位置 松花江岸哈爾濱下流約50軒老山頭突角附近ニアリ、松花江岸ニアリテ哈市ニ最近接セル石材產地ナリ。

種類 主トシテ玢岩ニシテ他ニ凝灰質砂岩、凝灰質粘板岩、綠色變質岩及花崗岩等アリ。然レドモ今日迄ニ採掘サレタルハ殆ト全ク玢岩ノミニシテ江岸約10軒ニ亙リテ處々ニ舊採石場アリ、現在モ猶東亞土木企業株式會社ノ手ニ依リテ哈市ニテ使用サル。採掘並運搬ヲナセルハ當市砲隊街下里眼房ナリ、現在採掘セル徑10—20軒ノ割石ノ處當採掘費、運賃、諸掛ハ次ノ如シ。

採掘費	國幣0.80圓
運搬費及諸掛	
戎克積込費	國幣0.15圓
戎克運賃	” 0.25 ”
曳船料	” 0.60 ”
取卸費	” 0.15 ”
諸税金(海關、木石、水道、埠頭)	” 約0.20 ”
運賃諸掛合計	” 約1.35 ”
價格 哈市ニ於ケル價格ハ處當	” 3.00 ” 見當

埋藏量ハ調査ノ結果ヲ待タザレバ判明セザルモ江岸ニ面スル斜面ハ江面ヨリ60—100米ノ高サヲ有シ猶處々ニ將來小規模ニ採石シ得ル箇處アリ、江岸ヨリ稍離レタル地域ニハ猶相當良好ナル採石場アルベシ。

## 4 黑龍江省呼蘭縣沈家驛附近

位置 呼海線沈家驛ハ哈爾濱對岸馬船口驛ヨリ鐵路41.8軒ニシテ交通至便ナリ。

種類 呼蘭河ニ依リ沈積セラレタル砂礫ニシテ徑平均1軒内外ノモノナリ。目下建設中ノ拉濱線松花江鐵橋工事に「コンクリート」材料トシテ利用サル。

運賃(哈市對岸馬船口驛卸處當)

貨車運賃	國幣1.26圓
積卸驛費	” 0.433 ”

價格 一般ニ販賣セサレバ哈市ニ於ケル價格ハ不明ナルモ處當國幣4圓見當ノモノナルベシ。現在鐵橋工事に使用セルハ社用品扱ナルヲ以テ安價ニシテ哈市對岸渡1立米金 3.70—3.80圓ニ過ギズ。

賦存量ハ調査ノ結果ヲ待タザレバ判明セザルモ附近ハ河流ニ依リ運搬セラレタル地層ナレバ相當廣範圍ニ存在スルモノト豫想サル。

## 5 吉林省阿城縣阿什河

位置 北鐵東部沿線阿城ノ東側ヲ流ル、河ニシテ阿城驛ハ哈爾濱ヲ去ルコト鐵路50軒アリ。

種類 河流ニ依リ沈積サレタル砂礫ニシテ從來東部線及哈市方面ニテ相當ニ使用サレタリ。

運賃諸掛(處當)

貨車運賃	金留0.742留
	國幣1.002圓

積卸費 國幣 0.26 圓見當

價格 冬期ハ山元ニ於ケル運搬ニ便ナルヲ以テ夏期ニ比シ價格ハ稍低廉ナリ、解氷期後ニ於ケル價格ハ哈市中央驛貨車乘處當國幣3.70圓見當ナリ。

賦存量ハ調査ヲ要スルモ猶相當採取ノ餘地アルベシ。

## 6 吉林省濱江縣漢泥河

位置 目下建設中ノ拉濱線豫定驛安家ノ北側ニシテ松花江ニ注ク拉林河ノ一支流ニアリ。

種類 河流ニ依リ沈積セル砂礫層ニシテ拉濱線鐵道工事に使用サル、此ノ北方ニハ高サ地並ヨリ100米以上ニシテ本地域ニアリテ他ニ比シ急峻ナル山地アリテ此處ニ産スル岩屑モ亦同鐵道工事に使用サルトイフ。

## 日本ノ製鋼業

本編ハ Harold Huggins 氏ノ "The Steel Industry of Japan" — "The Far Eastern Review" Oct. 1931 — ヲ當所貴河田學夫 原口九萬ノ抄譯セルモノナリ

日本ハ國內ニ於ケル原料資源ノ不足ナル爲メ工業國トシテハ極メテ不利ナル地位ニ在リ、石炭及鐵礦ノ不足ハ製鐵業ノ發達ニ對スル大ナル障害トシテ多年考慮サレ來リシモノナリ。然レドモ日本ハ植民地ニ於ケル鐵礦ヲ開發シ又支那及海峽植民地ニ於ケル鐵礦ヲ買収シ又ハ借款ヲナシテ之ヲ輸入シ殆ト自給ニ依リテ大製鐵業ヲ興スニ至レリ、而シテ日本ハ今ヤ歐米諸國ニ對抗シテ東洋ノ輸出市場ニ進出セント準備中ナリ。本文ノ目的ハ日本製鐵工業ノ内容並ニ其ノ現在及將來ニ就テ述ベントスルモノナリ。

## 鐵 礦

日本國內ニ於ケル鐵礦埋藏量ハ約40,000,000噸ニシテ之ヲ鑛石別ニ示セバ次ノ如シ。

鐵 礦 總	19,000,000噸
-------	-------------



赤 鐵 鑛	10,000,000噸
褐 鐵 鑛	11,000,000噸
計	40,000,000噸

之等ノ鐵鑛ハ在來ノ方法ニヨリ採掘、製鍊共ニ容易ナレドモ事業者ノ得ル利益ハアマリ大ナラズ、鑛石品位ハ最上ノモノト雖モ55%以下ナリ、現今日本國內ニ於ケル鐵製鍊高ハ年1,500,000噸ニシテ年々激増スルノ傾向アリ。

上述セル埋藏量ノ他ニ更ニ 40,000,000噸或ハソレ以上ノ品位低キ磁鐵鑛存在シ將來有事ノ際ニハ大イニ役立つベキモノナリ。

尙上記ノ他ニ岩手縣及北海道ニハ莫大ナル砂鐵鑛床アリ、然レドモ該砂鐵ハ經濟上ノ價値少ク鐵含有量ハ30%内外ニシテ酸化「チタン」ノ含有量多シ。

東京常盤會社ハ岩手縣久慈地方ノ砂鐵ヲ採行セシモ其ノ結果ハ損失ト失望トノ重複ヲ以テ終レリ。

砂鐵ヨリ製鍊セシ鉄鑛ハ電氣爐ニ使用シ得ル他ニ用途ナシ、サレバ平時ニ於テ之ヲ採取製鍊スルハ利益ヲ擧ゲ得ザルノミナラズ却テ損失ヲ招クニ至ルベシ。

日本内地ニ於テ現今採行中ノ主鑛山ハ岩手縣及北海道ニ在リ、岩手縣ニ於ケル實際的ニ重要ナル鐵山ハ釜石鑛山ニシテ三井傍系ノ釜石鑛山會社ノ所有ニ屬ス、釜石ノ鑛石ハ磁鐵鑛ニシテ鐵含有量平均55%ニシテ最上ノモノハ65%ニ達ス。

釜石鑛山ノ鐵鑛埋藏量ハ14,000,000噸トサル、之以外ニ35%内外ノ低品位ノモノ約40,000,000噸アリテ必要ニ應ジ採行サレ得ルモノナリ。今日採掘サル、ハ高品位ノモノナレドモ一般ノ經濟界不況ニ伴ヒ採掘、製鍊共ニ全能力ヲ出サズ、熔鑛爐モ多數作業ヲ休止セリ。

岩手縣鑛床ニ次グ重要ナル鐵鑛床ハ北海道ノモノナリ。然シ之ハ有事ノ際ニ他ハ大シテ價値ナキモノニシテ1915—1919年ノ戰爭好況期ニハ盛ンニ採掘サレシモ現今ハ殆ンド全部休山中ナリ。其ノ中最モ重要ナルハ室蘭附近ノ倶知安ニシテ日本製鋼所ニ屬ス、鑛石ハ含鐵量45—55%ノ褐鐵鑛ニシテ輪西ノ熔鑛爐ニ供給セラル。好景氣時代ニ重要ナリシ虻田鑛山ハ現今休山セリ。

今日日本ニ於テハ前記以外ニハ製鐵工業上重要ナル鑛山ナシ。

日本ニ於ケル地方別鐵鑛埋藏量次ノ如シ。

	褐 鐵 鑛	赤 鐵 鑛	磁 鐵 鑛
北 海 道	10,745,000	1,407,000	—
岩 手 縣	—	1,991,000	16,258,000
山 形 縣	8,000	—	—
宮 城 縣	—	—	72,000
福 島 縣	—	—	1,359,000
新 潟 縣	—	4,670,000	406,000
群 馬 縣	—	—	570,000

兵 庫 縣	—	—	231,000
岡 山 縣	63,000	—	306,000
山 口 縣	99,000	—	—
高 知 縣	—	2,413,000	—
小 計	10,994,000	10,481,000	18,632,000
計	40,107,000噸		
奈 良 縣	褐鐵鑛、磁鐵鑛	230,000噸	
島 根 縣	赤鐵鑛、磁鐵鑛	53,000噸	

之レヲ合算スレバ40,390,000噸

尙此ノ他ニ次ノ砂鐵アリ。

北 海 道	226,000噸
岩 手 縣 久 慈	143,800,000噸
中 國 地 方	未 詳
計	144,026,000噸

上記ノ數字ハ商工省地質調査所植村癸己男氏ノ報告ニ依レルモノナリ。

次ニ日本鐵鑛量ヲソノ含鐵量ニヨリテ分類スレバ次ノ如シ。

30—40%	3,820,000噸
30—50%	1,103,000
35—50%	2,402,000
40%	173,000
45—50%	1,313,000
50%以上	31,519,000
計	40,390,000

日本ニ於ケル鐵製鍊高ハ年150—200萬噸ニシテ國內ニ於テ必要トスル鐵ハ250萬噸ナリ。故ニ上述セル鐵鑛埋藏量ハ將來ノ自給製鍊ニ必要ナル量ニ充タザルコト遠シ。是日本ガ充分ナル供給ヲ得ンガ爲メニ各地ニ鐵鑛ヲ探求スルニ汲々タル所以ナリ。

先ヅ日本ノ植民地及屬國ニ於ケル鐵鑛ニ就キテ調査ノ歩ヲ進メン。

### 臺 灣

今日迄ノ調査範圍内ニテハ臺灣ニハ鐵鑛ナシ。

### 朝 鮮

朝鮮ハ日本ノ鐵鑛全輸入高ノ3分ノ1ヲ供給セリ、朝鮮ニ於ケル鐵鑛ハ北西部地域ニ分布シ褐鐵鑛ヲ主トシ鐵含有量50—55%アリ、赤鐵鑛モ亦採掘サレ其ノ鐵含有量ハ褐鐵鑛ニ大體等シ。



朝鮮=於テ今日知ラレタル鐵鑛埋藏量ハ 4,838,000 噸ナリ、然レドモ 10,000,000 噸或ハ又 20,000,000 噸等種々ノ報告アレドモ信ズルニ足ラズ。年採掘量ハ 500,000 噸ニシテ前記埋藏量ハ 10 年間ノ採掘ニ堪ヘズ。

兼二浦=於ケル三菱製鐵會社ノ製鐵所ハ兼二浦、元山及南陽ノ褐鐵鑛ヲ使用セリ。北海道室蘭=於ケル日本製鋼所ニテハソノ所有ニカカル平安南道ノ褐鐵鑛ヲ自己所有ノ北海道俱知安鎮山ノ鑛石ト共ニ併用シテ製鍊ヲ行ヘリ。

朝鮮總督府ハ載寧鎮山ヲ所有シソノ鑛石ハ三菱製鐵會社ニテ處理セラレ1部ノ鑛石ハ八幡製鐵所ニ賣却セラル。

朝鮮=於ケル鐵鑛埋藏量次ノ如シ。

价	川	褐鐵鑛	1,000,000噸
殷	栗	”	1,130,000
載	寧	”	1,190,000
安	岳	赤鐵鑛	370,000
黃	州	褐鐵鑛	848,000
海	州	”	600,000
利原及北青		赤鐵鑛	10,000,000

朝鮮ノ鐵鑛ハ今日ノ調査ノ範圍内ニテハ日本ノ製鐵業ニ對シ10—20年間ノ鑛石供給ヲナシ得ルニ過ギズ、從テ日本カ他ニ鐵鑛ヲ發見セザレバ日本帝國ノ製鐵業モ大ナル望ミヲ囑スベカラズ、然ルニ日本ニトリテ幸ニモ茲ニ南滿洲アリ。

### 南 滿 洲

若シモ品位低キ鐵鑛ヲ收益シツ、處理シ得ルモノトスレバ日本ハ南滿洲ニ於テ充分ナル鐵鑛ノ供給ヲ得タルモノト云ヒ得ベシ。南滿洲ニ於ケル鐵鑛床ハソノ規模極メテ大ナルモノナレドモ今日知ラレタル高品位鐵鑛ノ埋藏量ハ 5,000,000 噸以下ナリ。而シテ高品位ノモノハ無水硫酸ヲ多量ニ含ム低品位ノ鑛石(含鐵量34—36%)ニ混シテ產出ス。此ノ中ヨリ高品位ノ鑛石ヲ選擇スルニ要スル費用ハ經濟上許シ難キモノニ屬ス。然シ滿洲ノ鐵鑛ハ特ニ低品位ノモノヲ處理スル爲メニ造ラレタル特別ノ還元爐ニヨリテ製鍊サル。而シテ製鍊ニ必要ナル散炭用石炭ハ製鐵所附近ニ發見サル。

日本ハ鐵鑛ノ不足分ヲ滿洲ヨリ輸入スルコトヲ得シテ滿洲ニテ製鍊サレシ鉄鐵ヲ輸入スルノミナリ。茲ニ於テ多量ノ鉄鐵ヲ製鍊センガ爲メニ南滿洲鐵道株式會社ハ昭和製鋼所ヲ設立セントノ大計畫ヲ樹立セリ。

滿洲ニ於ケル鐵鑛採掘法ハ露天掘ナル爲メソノ作業簡單ニシテ勞働賃銀亦低廉ナリ。然シ滿洲鉄鐵ヲ日本市場ニ輸送スルニハソノ距離大ナルタメ運賃大ニシテ且ツ支那ニ於ケル輸出税、日本

=於ケル輸入税ノ爲メ國內ニテ製鍊セラル、ヨリ低廉ナラズ。

註：一

弓張嶺、廟兒溝及鞍山ニ於ケル鐵鑛量ニ付キ會社ニ於テ調査セルモノハ次ノ如シ。

#### 1. 弓 張 嶺

(1)弓張嶺區域	13,500萬噸
(2)蘇家堡子區域	23,680 ”
(3)黃泥崗區域	1,000 ”
計	38,180 ”

#### 2. 廟 兒 溝

(1)北 部 區 域	581萬噸
(2)南 部 區 域	22,500 ”
計	23,081 ”

#### 3. 鞍 山

	精查(萬噸)	同未了(萬噸)	計(萬噸)
(1)大 孤 山	9,530	—	9,500
(2)東 鞍 山	9,810	5,190	15,000
(3)西 鞍 山	440	7,060	7,500
(4)櫻 桃 園	2,740	—	2,740
(5)王 家 堡 子	—	11,000	11,000
(6)八 家 堡 子	—	10,000	10,000
(7)一 坦 山	9,944	—	9,944
(8)關 門 山	1,959	—	1,959
(9)新 關 門 山	—	2,000	2,000
(10)小 嶺 子	—	50	50
(11)鐵 石 山	—	30	30
計	34,423	35,330	69,753

滿洲ニ於ケル鐵鑛埋藏量次ノ如シ。

弓 張 嶺	268,000,000噸
木 溪 湖	70,000,000
鞍 山	400,000,000
計	738,000,000

又別ノ概算ニ依レハ 290,000,000 噸ナリトサル。

### 輸 入

朝鮮及滿洲ヨリノ鐵鑛量ニ鉄鐵輸入以外ニ向他ヨリ鐵鑛ヲ輸入スルコトハ日本ノ製鐵業ニ對シ



テ必要ナルコトハ上述ノ事實ヨリ推知スルコトヲ得ベシ、日本ハ支那及「マレー」半島ヨリ年々1,000,000噸以上ノ鐵鑛ヲ輸入シツ、アリ。

支 那

支那ノ鐵鑛ハ高品位赤鐵鑛ニシテ湖北、安徽兩省ヨリ之ヲ日本ニ輸送セリ。  
 大冶鐵山ハ湖北省ニアリテ漢冶萍公司之ヲ經營シ埋藏量10,000,000噸 アリ、鑛石ハ赤鐵鑛ニシテ含鐵量60%アリ。  
 安徽省ニハ桃沖及太平ノ兩鑛山アリ。  
 桃沖鑛山ハ埋藏量3,750,000噸アリテ鑛石ハ含鐵量60%ノ赤鐵鑛ナリ、同鑛山ハ裕繁公司ニ依リテ經營セラレ同公司ハ日華工業會社ヲ通ジテ東洋製鐵會社ト2,500,000圓ノ借款ヲナセリ。ソノ代價トシテ東洋製鐵會社ハ原價ヨリモ低廉ナル價格ヲ以テ年500,000噸迄ノ鑛石ヲ買鑛シ得ル契約ヲナセリ。此ノ契約ハ現今ニテハ東洋製鐵ノ製鐵工場ト共ニ八幡製鐵所ニ委任サレタリ。  
 南京附近ニハ東京大倉組ノ資金ニヨリテ經營セル Moling-kuan 鑛山アリ。  
 日本ハ大冶鐵山ニ對シ年600,000噸ノ鐵鑛ヲ要求シ得ル契約ヲナセリ。大冶鐵山ノ在ル湖北省ニハ合計35,000,000噸ノ鐵鑛ヲ埋藏セリ。  
 山東省ニハ日本ノ手ニ依リテ探鑛サルル金嶺鎮鑛山アリ、鑛量 14,000,000噸アリテ鑛石ハ赤鐵鑛ニシテ含鐵量55%アリ。

日本ニ關係アル支那ノ鐵山ハ上述ノ如ク之等ノ鑛山ハ凡テ日本ノ投資又ハ借款ニヨリテ經營セルモノナリ。上述鑛山ノ埋藏量ヲ次表ニ示ス。

大 冶	10,000,000噸
桃 沖 及 太 平	6,000,000
Moling-kuan	5,000,000
金 嶺 鎮	14,000,000
計	35,000,000

此ノ合計ハ大體日本國內ノ鐵鑛埋藏量ニ等シ。  
 然シ日本國內、植民地及支那ノ全鐵鑛ヲ合算スルモ急激ニ發達シツツアル日本ノ製鐵業ニ對シテハ尙鐵鑛ノ不足ヲ見ル。  
 戰爭好況時代ヨリ日本ハ海峽植民地及馬來聯邦ノ鐵鑛ニ對シテ深キ注意ヲ拂ヒ來レリ、此ノ事ハ日本ニトリテ實ニ重要ナル所ナリ。

海 峽 植 民 地

日本ノ會社ナル南洋公司ハ「ジヨホール」ニ於テ利權ヲ獲得シ年 400,000 噸ノ品位高キ赤鐵鑛ヲ探掘シ之ヲ日本ニ輸送セリ。而シテソノ埋藏量豊富ナリ。

1927年ニ久原鑛業會社(現在日本產業會社)ハ Trengganau ニ於テ鐵山ノ借受ヲナシ探掘セル鑛石ハ凡テ之ヲ八幡製鐵所ニ輸送セリ。該鐵山ハ埋藏量40,000,000噸アリテ含鐵量53—63%ノ赤鐵鑛ヨリ成ル。

馬來半島ニ於テ日本ノ關係セル鐵山ノ總埋藏量ハ75,000,000噸ト見積ラル。  
 馬來半島ノ鐵鑛ハ日本ニテ今日噸當9圓ニテ取引サル。鑛石ノ品位良好ナルニ拘ハラズソノ價格ノ低廉ナルハ鑛石運搬ニ南洋公司及八幡製鐵所ノ特別船ヲ使用シソノ運賃ヲ輕減セル爲メナリ。

日本ノ總鐵鑛量

日 本 本 土	40,000,000噸
朝 鮮	20,000,000
南 滿 洲	738,000,000
支 那	35,000,000
海 峽 植 民 地	75,000,000
計	908,000,000噸

然シ南滿洲ノ鐵鑛ヲ最小ト見積リ290,000,000噸トスレバ總計ハ460,000,000噸トナル。  
 確實ナル筋ヨリノ報告ニ依レバ日本製鐵業ノ中心タル八幡製鐵所ニ鑛石ノ供給ヲ繼續スルタメニハ前記ノ鐵鑛總量ニテハ2年間ノ繼續ヲ保テ得ルニ過ギズト云フ。

鐵 鑛 ノ 輸 入

1912年ヨリ1929年迄ニ日本ガ國外ヨリ輸入セシ鐵鑛量次ノ如シ(噸)

年	支 那	海峽植民地	其 他	朝 鮮	合 計
1912	195,625	—	2,586	123,405	321,616
1913	277,583	—	2,013	142,420	422,316
1914	297,183	—	1,685	162,044	460,912
1915	308,074	—	714	201,978	510,766
1916	279,216	—	575	198,225	470,016
1917	295,688	—	1,193	120,907	417,788
1918	359,698	—	1,232	236,611	597,541
1919	595,140	—	25,946	333,521	954,007
1920	650,527	—	11,841	332,533	994,901
1921	439,769	—	138,287	190,541	768,597
1922	644,730	—	173,780	89,827	908,337
1923	661,796	163,441	68,023	95,390	988,650
1924	810,157	264,933	42	136,727	1,201,859
1925	813,490	290,213	6	107,868	1,211,577
1926	502,747	290,053	30	98,992	891,822



1927	502,597	434,837	54	168,764	1,106,252
1928	877,841	738,502	631	225,389	1,842,363
1929	956,303	958,619	35,864	314,134	2,258,920

此ノ表ニ依レバ朝鮮ノ鐵石産額ハ戰爭好景氣時代ノ終末ナル1920年以後何等發展セザルヲ見ルベシ、支那ノ鐵鑛ハ日本植民地ノモノヨリモ安價ニ之ヲ求ムルコトヲ得而モ其ノ品質良好ナリ。此ノ爲メ輸入ニヨリテ鐵石ヲ得ルヲ得策ナリトシ輸入量ヲ増加スルノ方針ヲ執ルニ至レリ。又海峽植民地ニ於テ鐵山ヲ借受ケ1923年以來同地ヨリノ輸入額ハ年ヲ追テ激増セリ、日本製鐵業ノ將來ノ發達ハ完全ニ支那及海峽植民地ノ鐵鑛開發如何ニ依ルモノナリ。日本本土ニ於ケル鐵鑛産額ハ次表ニ示スガ如ク極メテ些少ナルモノナリ。

日本本土ニ於ケル鐵鑛産出量 (噸)

1912年	152,983
1913	153,101
1914	12,1636
1915	118,955
1916	139,953
1917	267,594
1918	378,114
1919	362,949
1920	314,858
1921	86,677
1922	39,744
1923	55,174
1924	57,922
1925	75,765
1926	130,420
1927	159,706
1928	157,706
1929	177,556

次ニ日本領地及植民地ニ於ケル鐵鑛産額次ノ如シ(單位噸)

年	朝鮮	滿洲	計
1912	122,503	報告ナシ	122,503
1913	149,049	”	149,049
1914	182,034	”	182,034
1915	209,937	”	209,937
1916	245,418	”	245,418

1917	152,933	103,146	256,079
1918	430,787	186,357	617,144
1919	417,000	263,865	680,865
1920	447,249	175,966	623,215
1921	232,692	206,243	438,935
1922	185,584	140,128	325,712
1923	306,255	213,731	519,986
1924	323,636	220,384	544,020
1925	376,207	220,999	597,206
1926	387,717	566,543	954,260
1927	422,560	530,604	1,053,164
1928	559,331	673,624	1,232,955
1929	559,218	781,253	1,340,476

朝鮮ニ於テ採掘サレシ鐵石ノ量ハ日本内地ニ搬出サレシ量ノ約2倍ナリ。之ハ兼二浦ニ於ケル三菱製鐵所ニ於テ使用サレシ爲メナリ。滿洲ニテ採掘サレシ鐵鑛ハ總テ滿洲ニ於テ消費サレ。造ラレタル鉄鐵ハ大部分日本ニ運搬サレタリ。

上ニ掲ゲシ三表ヲ總括スレバ日本ニ於ケル1912—1929年間ノ鐵石供給ノ全額ヲ知ル事ヲ得即チ

年	輸入額	國內産額	鮮 滿	計
1912	198,211	152,983	122,503	473,697
1913	279,896	153,101	142,049	575,046
1914	298,868	121,636	182,034	602,538
1915	308,788	118,955	209,937	637,680
1916	279,791	139,953	245,418	665,162
1917	296,881	267,594	256,079	820,554
1918	360,930	378,114	617,144	1,356,188
1919	621,086	362,949	580,865	1,664,900
1920	662,368	314,858	623,215	1,600,441
1921	578,056	86,977	438,935	1,103,968
1922	818,510	39,744	325,712	1,183,966
1923	893,260	55,174	519,986	1,468,420
1924	1,065,132	57,922	544,020	1,667,074
1925	1,103,709	75,765	597,206	1,776,680
1926	792,830	130,420	954,260	1,877,510
1927	937,488	159,005	1,053,164	2,149,657
1928	1,616,974	157,706	1,232,955	3,007,635
1929	1,944,786	177,556	1,340,476	3,462,818



此鑛石全供給額ヲ考察スルニ日本帝國ハ自己ノ製鐵業ニ必要ナル鑛石ノ量ノ半分ヲ供給スルニ過ギズ、而モ此ノ總額ハ其ノ中ニ滿洲ノ鑛石ヲ多分ニ含メリ、滿洲ニ於ケル鐵鑛ハ之ヲ日本内地ニ輸送サレザルガ故ニ内地ニ於ケル鑛石ノ不足ヲ充タスコトヲ得ザルモノナリ。滿洲ニ於テ製鍊サレシ鐵ハ輸出輸入兩税金ノ爲メニソノ價格高マリ日本ノ製鐵業者ニ依リテ特ニ歡迎サルルニ至ラズ

次表ハ鑛石供給額中ノ輸入額、國內産額及鮮滿ノ産額ノ割合ヲ示スモノナリ(%)

年	輸入額	國內産額	鮮滿産額
1912	41.8	32.3	31.3
1917	36.1	32.6	31.3
1919	37.3	21.8	41.9
1920	41.3	19.6	39.1
1924	63.8	3.4	32.8
1927	43.6	7.4	49.0
1929	56.1	5.1	38.8

1912年ハ日本ニ於ケル製鐵業ガ稍大規模ニ行ハレ始メシ年ナリ。1917年ヨリ戰爭好況時代ニ入り1918及1919年ハ日本製鐵業ノ最モ活氣ヲ呈セシ年ニシテ歐米ヨリノ鐵材ノ輸入杜絶セシ爲メ日本ハアラユル努力ニ依リテ製鐵ニ全力ヲ注ゲリ。1919年ガソノ絶頂ニシテ1920年ハ好況終末ノ年ナリ。1923年ニ至リ日本ハ大震災ニ見舞ハレソノ影響ヲ受ケテ鐵材ノ需要増加シ1924年ニハ製鐵業ニ稍活氣ヲ見セタリ。

1926年ニ至リ日本政府ハ自給ニヨル國家的ノ製鐵ヲ計畫シ其ノ實行ニ入り關稅ヲ増額シ又國內製鐵業者ニ補助金ヲ支給セントメソノ翌年ノ1927年ニハ各種鋼鐵ノ製造ニ一大進歩ヲナセリ。1929年ニ製鐵高ハ最高ニ達シ1930年ニハ稍低下セリ。

### 鐵鑛ノ價格

鐵鑛ノ價格ニ關シテソノ詳細ハ不明ナルモ1930年ニ於ケル大體ノ價格次ノ如シ。

日本産鐵鑛	1噸ニ付キ	8.00圓
支那産鐵鑛	”	9.00圓
海峽殖民地産鐵鑛	”	9.00圓
朝鮮産鐵鑛	”	7.50圓

八幡製鐵所ニ於テ使用サルル鑛石ハ總テ船舶ニ依リテ運搬サレ全ク他人ノ手ヲ經ズシテ直接工場ニ送ラルル爲メソノ運賃ハ最小ナリ。特ニ海峽殖民地カラノ鑛石運賃ハ該地ノ勞賃銀安キ爲メニ低廉ナリ。若シモ該地カラノ運賃ヲ構成セル一要素ニ増加アレバ日本ノ製鐵業ハ致命的ノ打撃ヲ蒙ルベシ。

### 石 炭

日本製鐵業發達上ノ一大不利ハソレニ必要ナル石炭ヲ安價ニ得ラレサル點ナリ。日本ノ石炭ノ價格ハ世界各製鐵國ノソレノ約2倍ナリ。日本ノ工業ガ外國ノ工業ニ對抗シ能ハザルハ石炭ノ價格ノ高キコトニヨル事明ラカナリ。

日本ノ石炭ハ高價ナルノミナラズ又良好ナル燄炭用炭少ナシ。日本ノ石炭埋藏量ハ大ニシテ50億噸乃至100億噸ト概算サル。地方別ノ石炭埋藏量次ノ如シ。(單位100萬噸)

		確 定			豫 想			計
		無煙炭	瀝青炭	褐 炭	無煙炭	瀝青炭	褐 炭	
樺	太	—	17	—	—	1,345	—	1,362
北	海 道	—	336	—	—	2,106	233	2,675
九	州	—	542	—	—	2,374	—	2,916
其	他	5	—	67	57	409	478	1,007
	計	5	896	67	57	6,234	711	7,790
朝	鮮	7	1	5	33	13	22	81
滿	洲	—	409	—	68	731	—	1,208
合	計	12	1,306	72	158	6,978	733	9,259

(商工省地質調査所ノ調査ニ依ル)

日本ニ於テハ適當ナル燄炭用炭ヲ缺キ特ニ八幡製鐵所ノ附近ニ之無キ爲メ滿洲ヨリ多量ノ撫順炭ヲ輸入シテ燄炭ヲ製造セリ。又支那開瀾炭坑ヨリモ年250,000噸ノ石炭ヲ輸入セリ。

日本ハ石炭輸出國ナルヲ以テ或者ハ日本ニ於テハ石炭ハ安價ナルベシト想像セン、然レドモ日本ヨリ輸出サルル石炭ハ品質不良ノモノニシテ製鐵用ニハ不適當ノモノナリ。

日本ノ製鐵業ノ發達ハ石炭ノ高價ナルコトニヨリテ阻害セラルルノミナラズ又之ニ使用スル電力ノ高價ナルコトニ依リテモ阻害サル。水力ニ依ル電力ハ火力ニ依ル電力ニ比シテ高價ナルハ當然ナリ。日本ノ選信省ハ火力發電所ノ建設又ハ擴張ニ對シテ一定ノ制限ヲナセル爲メ現在ノ日本ニハ高價ナル水力電氣カ餘分ニ存在シ安價ナル火力電氣ニ缺乏セルノ状態ニアリ。

燄炭製造ニ適スル石炭ハ北海道ニアリ。日本製鐵所ハ室蘭工場ニ於テ此ノ石炭ヲ使用セリ。三井鑛山會社ノ所有タル夕張炭坑ハ年1,000,000噸ノ石炭ヲ産出ス。

八幡製鐵所ハ自己ノ所有ニカカル炭坑ノ石炭ヲ使用シソノ主タル炭坑ハ福岡縣二郡及長崎縣鹿町ナリ。而シテ之等ノ炭坑ハ八幡製鐵所ニ必要ナル石炭ノ半分ヲ供給セリ。尙又三井所有ノ三池炭坑ノ石炭ヲ少量買入レ殘リノ必要量ハ撫順及開瀾ヨリ輸入セリ。

日本ニ於ケル炭價ハ諸製鐵國ニ比シテ高價ナルノミナラズ坑夫1人當リノ採掘量モ遙カニ低シ。樺太ニ於ケル炭層ハ時ニ60呎ニ及ブモノアレドモ九州及本州ニ於ケルモノハ一般ニ薄層ナリ。八幡製鐵所ニ於テハ1噸ノ燄炭ヲ造ル爲メニハ1.6—1.8噸ノ石炭ヲ必要トス。八幡ニテ使用セル



石炭ノ價格ハ噸7.50—9.00圓ナルニヨリ1噸ノ炭炭ヲ得ル爲メハ12.00—16.20圓ノ石炭ヲ要ス。最低ノ12.00圓トスレバ樂觀シテ可ナルモ16.20圓トスレバ之ハ恐ラク世界ノ最高費用ナルベシ。日本ノ製鐵工場ハ成ルベク石炭及鑛石ヲ安價ニ手ニ入ルルニ都合ヨキ場所ニ位置セリ。然シ炭ノ價格ハ輸入品ニ對抗シテ經濟上收益シツツ製鐵シ得ル程ノ安價ニハ未ダ到達セズ。只關稅ニヨリテ漸ク輸入品ニ對抗シ得ルノミニシテ結局輸入品ニ對抗シテ競争場裡ニ立ツニ至ラズ。此ノ狀態ハ1926年頃以來繼續セルモノナリ。

關稅ヲ増額シ又製鐵業者ニ補助金ヲ支給スルコトニヨリ漸ク外國品ヲ日本市場ヨリ驅逐スルニ至レリ。日本ガ鐵及鋼ヲ自給セントスルハ國家的野心ニシテ軍事上ノ必要ニ依レルモノナリ。如何ニシテ此ノ鐵ノ自給ガ完成ノ域ニ達シ得ルヤ次ニ之ヲ述ベントス。

斯ル狀態ノ下ニ製鐵業ガ發達シ來リシモ鐵鑛及石炭ノ供給ハ發達シツツアル製鐵業ノ需要ヲ充スニ不充分ナル事實ハ免レ得ザル處ナリ。鐵鑛ニ關スル限リ上記ノ數字ヨリ考察スルニ鑛石供給ノ問題ハモハヤ日本製鐵業ノ満足ナル發達ヲ阻害スルモノニ非ザルモノト言フヲ得ベシ。

日本ニトリテ好都合ナル事ハ馬來半島ノ鐵鑛ガ Johore 又ハ Trengganau ノ國家的製鐵業ニ必要ナラザル事ナリ。此ノ鐵鑛ハ含鐵量ノ高キコトト容易ニ得ラルル事ニ依リテ日本ニトリテ最重要ナルモノナリ。

日本ハ鋼鐵ノ輸入ヲ全然停止セントセシモ今日ニテハ稍加減サレ年需要ノ10分ノ1又ハ8分ノ1ヲ輸入スル事ハ却テ經濟的ナリ。故ニ當事者ハ次ノ如ク語レリ。

「出來ルナラバ輸入業者ハ次ノ品物ヲ輸入セヨ」

- 特種鋼
- 或ル大イサ及ビ厚サノ鐵板
- 小形ノ鐵管

日本ガ製鐵國トシテ完全ニ獨立スル爲メニハ少クとも年250萬—300萬噸ノ鐵ヲ製鍊シ得ベキ新裝置ヲ必要トス。現今ノ狀態ニテカカル擴張又ハ改善ヲナス爲メニハ政府ノ支拂無クシテソノ資金ヲ求ムルハ困難ナルベシ。日本ノ製鐵業ハソノ生産額ヲ増加スルニ先ダチ現在ノ製鐵裝置及方法ヲ改善セザルベカラズ。

日本ノ製鐵所ニテ製造サレシ製品ハ總テ美事ナルモノナレドモソノ裝置ハ舊式ニシテソノ作業亦經濟的ナラズ。而シテ各個ノ製鐵所ノ現今ノ狀態ヲ改善スルニハ次ノ3條件ノ1ニヨリテソノ目的ヲ達スルヲ得ベシ。

- 1 資本金ヲ増加シ又ハ借金ニヨリテヨリ多クノ資金ヲ使用スルコト
  - 2 全製鐵會社及八幡製鐵所ヲ合同スルコト
  - 3 總テノ不經濟的工場ヲ破産セシメテ之ヲ除去スルコト、之ニヨリテ能率良好ナル民間製鐵會社及國立製鐵所ヲ改善スル場合ニ資金ヲ集中スルコトヲ得ベシ
- 日本本土ニ於テ鑛石ヨリ鉄鐵ヲ大規模ニ製鍊セル製鐵所ハ僅カニ5箇所ニ過ギズ。此ノ他ニ木

炭ヲ燃料トシテ鉄鐵ヲ製鍊セル數箇ノ小工場アレドモ1929年ニ於ケル共ノ産額合計 2,000 噸ニシテ日本及日本領土ニ於ケル産額ノ750分ノ1ニ過キス。尙鑛石ヨリ直接鉄鐵ヲ製鍊セスシテ既製品ヲ電氣爐ニヨリテ再熔シ鉄鐵ヲ製造セルモノ2アリ。

鑛石ヨリ直接鉄鐵ヲ製鍊セル5製鐵所ヲソノ重要ナルモノヨリ順次ニ擧グレバ次ノ如シ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 東洋製鐵株式會社
- 3 日本製鋼所株式會社
- 4 釜石鑛山株式會社
- 5 淺野造船所株式會社

上記ノ中八幡製鐵所ハ官立ニシテ他ハ總テ民間ノモノナリ。

電氣爐ニヨリテ鐵屑ヲ再熔シテ鉄鐵ヲ製造セル會社ニ次ノ2アリ。

- 1 戸畑鑛物株式會社
- 2 吾嬭製鋼株式會社

### 八幡製鐵所

八幡製鐵所 (Yahata Steel Works) ハ屢ニ Imperial Steel Works 又ハ Government Steel Works ト呼ハル。八幡製鐵所ハ商工省ノ支配下ニアリシモノナレドモ1926年以來其ノ支配ヨリ分離セリ。

1895年ニ帝國議會ハ年製鐵額 90,000 噸ノ國立製鐵所ノ設立ヲ承認シ其ノ目的ノ爲メニ 4,095,793.40圓ヲ支出セリ、1897年 2月九州福岡縣八幡ニ之ガ設置ヲ決定セリ。而シテ同年ヨリ工事ニ着手シ1901年2月最初ノ熔鑛爐ノ作業ヲ開始シ同年5月最初ノ産出ヲ見タリ。此ノ時迄ニ合計15,841,016.85圓ノ金額ガ支出サレタリ。

1904年ニ日露戰爭勃發シ鐵ノ需要増加セントメ八幡製鐵所ニ於テハ更ニ熔鑛爐1基ヲ増シ製鐵能力ヲ102,000噸トナセリ。戰爭中ノ製鐵作業ハ極メテ重要ナリシモノニシテ武器製造用ノ特殊鋼製造ノタメニ4,696,126圓ノ特別資金ヲ支給サレシ程ナリ。

日露戰爭終リシテ1906年以來日本ノ工業化ハ漸次ニ始マレリ。鋼鐵ノ需要ハ益々増加シ八幡製鐵所ノ生産能力ニテハ不足スルニ至レリ。茲ニ於テ再ヒ工場ノ擴張ヲ行ヒ1909年ニハ生産能力ハ180,000噸トナレリ。此ノ爲メニ政府ハ10,880,000圓ヲ支出セリ。然シ尙之ニテモ需要ヲ充スニ足ラザルヲ以テ1915年ニハ資金12,389,929圓ヲ投ジテ生産能力ヲ300,000噸ニマデ擴張セリ。

歐洲大戰勃發以前ニ日本ノ鐵需用高ハ年1,300,000噸トナレリ。而シテ此ノ需用高ハ製鐵所ノ生産能力ヲ超過セルコト大ナリ。此ノ對策トシテ1920年迄ニ八幡製鐵所ノ生産能力ヲ年 650,000噸ニ増加スル様政府ハ 34,515,450圓ヲ支出セリ。然ルニ歐洲戰爭ノ爲メニ歐米ヨリノ機械類及鑛石ノ輸入意ノ如クナラザリシタメ此ノ計畫ノ完成迄ニ政府ハ更ニ10,805,500圓ヲ支出セリ。

1920年ノ恐慌ハ民間製鐵業者ニ大打撃ヲ加ヘシモ八幡製鐵所ハ着々ト工場ノ擴張ヲ繼續シ今日



ニテハ其ノ鉄鐵生産能力ハ年700,000噸ナリ。  
1930年末ニ於ケル八幡製鐵所ノ設備次ノ如シ。

500噸熔鐵爐	1基
270 ”	2 ”
230 ”	1 ”
200 ”	3 ”

1年ノ作業日數ヲ340日トシ休日、夜業ヲ計算ニ入レサルモノトスレバ年産額ハ635,800噸トナル。

八幡製鐵所ニ於ケル工場ノ配置ハ元製鋼工場ヲ海岸ニ置キ熔鐵爐ヲソノ奥ニ置キシタメ鑛石ノ運搬ニ不便ヲ伴ヒシモ近年ニ至リ改メラレシ爲メ鑛石運搬ノ不便ハ除カルルニ至レリ。

八幡製鐵所ニ於ケル鉄鐵生産費ハ鐵道省官房研究所ノ報告ニ依レバ1噸ニ付キ 34.205圓ト見積ラル。然シ近キ將來ニ於テ作業費ヲ減少シ1噸ノ生産費ヲ 28.196圓迄ニ低下シ得ルモノト豫期セラル(註 鐵道省官房研究所ノ報告ニハ明ラカニ八幡製鐵所トハ記述セザルモ前後ノ關係ヨリ推シテ八幡製鐵所ナル事ヲ肯定セシム)

次ニ全ク別ノ材料ヨリ八幡ニ於ケル鉄鐵生産費ノ見積リヲ試ミン。

八幡ニ於テ使用セル鐵鐵ハ次ノ割合ニテ混合セラル。

海峽植民地産鐵鐵	55%
支那産鐵鐵	35%
朝鮮及國內産鐵鐵	10%
	100%

之等ノ鐵鐵ノ平均含鐵量ハ次ノ如シ。

海峽植民地産鐵鐵	63%
支那産鐵鐵	60%
朝鮮及國內産鐵鐵	50%

故ニ之ヨリ計算ヲ行ヘバ1噸ノ鐵ヲ得ル爲メニハ1,649噸ノ鑛石(混合)ヲ必要トス。此ノ混合鑛石1噸ノ價格ハ1930年ニ9.00圓ナリ、ソレ故ニ1噸ノ鐵ヲ生産スルニ要スル費用ハ

鐵 鑛 (1,649噸)	1噸9圓	14.84圓
石 炭 (1.6噸)	1噸9圓	14.40圓
石灰岩 (1.5噸)	1噸6圓	1.20圓
計		30.44圓
電 力		.30
給 料		3.85
管理費(俸給其他)		1.60
事務所、器具等		.12
合 計		36.31圓

此ノ中ニハ消耗見積(depreciation)ヲ含マズ。之ハ1噸ニツキ約2.41圓ト見ル事ヲ得。故ニ總費

用ハ次ノ如クナル。

	36.31圓
消 耗 見 積	2.41
	38.72
補 助 金	6.00
	32.72圓

八幡製鐵所ニ於テ使用セル鐵鐵ハ支那大冶及桃沖産ノモノ、海峽植民地ノモノ、朝鮮ノモノ及ビ國內新潟縣産ノモノナリ。石炭ハ自己ノ所有セル福岡縣二瀬、長崎縣鹿町ノモノ並ニ開瀨及撫順ノモノナリ。石灰岩ハ福岡、大分兩縣ニテ採掘セラル。日本ニ於ケル石灰岩ノ價格ハ他ノ諸製鐵國ニ於ケルヨリモ安價ナリト云ハル。

1930年7月ニ於テ八幡製鐵所カ1日ニ使用セル人員ハ18,000人ニシテ1日ニ平均3,000噸ノ仕上品(finished material)ヲ生産セリ。1人當リノ給料ハ平均2.50圓ニシテ噸當リ1人15.00圓トナル。此ノ給料ハ民間製鐵所ニ働ク勞働者ノ給料ノ約2倍ニ當ル。

1917—1930年ノ間ニ八幡製鐵所ノ熔鐵爐ニ於テ製鍊サレシ鉄鐵ノ量次ノ如シ(單位噸)

1917年	304,618
1918	271,578
1919	281,135
1920	242,908
1921	307,263
1922	400,826
1923	440,893
1924	424,545
1925	456,289
1926	532,908
1927	540,573
1928	650,573
1929	646,267
1930	650,380

1929年八幡製鐵所研究課ニ於テ發表セシ1918年以後ノ收益次ノ如シ。

年	生産高	利 益	噸當リ利益
1918	315,550	57,727,296	184.10
1919	287,253	5,094,823	17.73
1920	297,369	14,743	0.05
1921	345,890	9,122	0.03
1922	419,439	13,478	0.03



1923	468,315	438,498	0.93
1924	492,683	866,772	1.75
1925	653,134	1,357,803	2.77
1926	739,297	2,009,279	2.71
1927	830,030	4,847,373	5.83
1928	937,153	15,425,967	16.46

八幡ニ於テハ別ニ500噸熔鑪ヲ新設中ニシテ1931年中ニ完成ノ豫定ナリ此ノ熔鑪完成ノ曉ニハ小型ノ舊熔鑪ハ除去サルルナラン。

東洋製鐵株式會社

東洋製鐵株式會社ハ資本金3,000萬圓ヲ以テ1917年11月ニ設立サレ今日ニテハ資本金3,600萬圓ニ増額サレタリ。

當會社ハ日本ノ財政上有力ナル會社ニヨリテ管理セラレ日本産業株式會社ハ154,000株、安田ハ12,225株ヲ所持シ三井合名會社、三菱合資會社モ當會社ノ株主ナリ。

東洋製鐵會社ハ元來鉄鐵ヲ製鍊スルノミナラズ鋼鐵モ製造スルノ目的ニテ設立サレシモノナレドモ主タル事業ハ年17萬噸ノ鉄鐵ヲ製鍊スルニアリ。此ノ生産高ノ半ハ自己ノ工場内ニテ使用サレ残りノ半ハ賣品トシテ市場ニ出サル。

現在ノ設備ハ次ノ如シ。

200噸熔鑪	1基	鉄鐵年生産高	72,000噸
300噸	”	”	108,000
		計	180,000噸

東洋製鐵會社ハ他日實施サルベキ製鐵會社合同ニ合併サルルニ非ザレバ將來ニ望ミヲ囑シ得ザルモノニシテ然ラザレバ當會社ハ破産ノ止ムナキニ至ルモノナルベシ。日本ノ經濟狀態ハカカル會社ヲ支持スル事ヲ繼續シ能ハズ。

當製鐵所ニテ製鍊サレシ鉄鐵ハ市場ニテ賣レサルヲ以テ八幡製鐵所ハ之ヲ鋼鐵製造用ニ使用セリ。

東洋製鐵株式會社(福岡縣戸畑)ニテ製鍊サレシ鉄鐵ノ量次ノ如シ(單位噸)

1919年	20,264
1920	34,219
1921	47,169
1922	52,730
1923	53,409
1924	52,553
1925	99,713

1926	107,331
1927	161,791
1928	186,322
1929	141,099
1930	189,985

日本製鋼所株式會社

當製鋼所ハ1907年資本金3,000萬圓ヲ以テ設立サレ全部拂込済ナリ。北海道炭坑汽船株式會社(三井傍系)ハ29,350株、Vickers-Armstrong 會社ハ14,600株、三井鑛山株式會社ハ7,500株、三井合名會社ハ7,350株ヲ所持セリ。株主ハ23ナリ。

當會社ハ室蘭ノ附近ナル輪西ニ熔鑪ヲ有シ室蘭ニハ鐵工場アリ。室蘭ノ鐵工場ハ元來陸海軍兩省ニ納入スル鐵製品ヲ製造セリ。當會社ハ俱知安ニ自己ノ鐵山ヲ所有シ其ノ鑛石ハ45—55%ノ鐵ヲ含有ス。然シ其ノ鐵鑛量ハ不足ナル爲メ朝鮮及支那ヨリ鐵鑛ヲ輸入セリ。

熔鑪ノ數及容量次ノ如シ

180噸熔鑪	1基
120 ”	2基
100 ”	1基

鉄鐵ノ年産出額176,800噸ナリ。

骸炭製造用ノ石炭ハ三井ノ所有ナル夕張炭坑ヨリ運搬サレ熔鑪所在地ニテ骸炭ヲ製造セリ。

當會社ニテ生産サレシ鉄鐵ノ量次ノ如シ(單位噸)

1917年	44,998
1891	82,866
1919	116,242
1920	101,190
1921	40,444
1922	41,603
1923	40,564
1924	47,183
1925	73,439
1926	94,629
1927	92,204
1928	109,543
1929	117,135



## 釜石鑛山株式會社

釜石鑛山株式會社ハ資本金2,000萬圓ヲ以テ1917年3月ニ設立サレ資本金全部拂込済ナリ。20萬株アリテ株主23アリ、三井鑛山會社ハ178,800株ヲ所持シ當會社ノ大株主ナリ。

熔鑛爐ハ250噸及200噸ノモノ各1基アリ。鉄鐵生産高次ノ如シ

1917年	59,285
1918	64,700
1919	61,180
1920	47,865
1921	36,563
1922	35,578
1923	56,247
1924	54,271
1925	47,443
1926	64,615
1927	67,683
1928	75,737
1929	98,901

1930年ノ初メヨリ250噸熔鑛爐ハ作業ヲ休止セリ。

## 株式會社淺野造船所製鐵部

淺野造船所ハ歐洲大戰中ニ生レシモノニシテ其後同造船所ニ鐵板ヲ供給スル爲メニ淺野製鋼所ノ設立ヲ見タリ。1920年ニ兩者ハ合併セラレ以後淺野造船所製鐵部ト呼ブニ至レリ。

1927年150噸熔鑛爐1基ヲ設ケ鉄鐵年生産量51,000噸ナリ。

鑛石ハ支那ヨリ輸入セラレ含鐵量60%以上ノ赤鐵鑛ナリ。散炭ハ淺野傍系ノ金川散炭會社ヨリ買入レラル。製鍊サレシ鉄鐵ノ大部分ハ淺野造船所ニテ使用サレ殘リハ東部日本ノ市場ニ搬出サル。

1927年以來ノ鉄鐵生産量次ノ如シ(單位噸)

1927年	22,164
1928	54,890
1929	62,506

上記ノ5製鐵所ハ總テ散炭ヲ燃料トシテ熔鑛爐ニ於テ鉄鐵ヲ製鍊セルモノナリ。木炭ヲ燃料トシテ鉄鐵ヲ製鍊スルコトハ日本ニ於テハ實際的ニハ影ヲ没シタレトモ尙少數ノ製鍊者ニ依リテ製鍊サレシ量次ノ如シ。

1924年	270噸
-------	------

1925	153
1926	—
1927	—
1928	381
1929	2,000

1923年以來電氣爐ニ依リテ鑛石ヨリ製鍊サレシ鉄鐵ノ産出ナシ。同年電氣爐9基ヲ有スル日本曹達會社ガ鉄鐵ノ産出ヲ中止セシタメナリ。

## 再熔鉄鐵

歐洲戰爭中ニハ熔鑛爐ニ依リ鉄屑ヨリ多量ノ鉄鐵ヲ製造サレタリ。然シ之ハ1929年迄ニ殆ンド衰亡セリ。現今ニ於テハ電氣爐ニ依リテ鉄屑ヨリ鉄鐵ヲ製造セルモノアリ。此ノ種ニ屬スル製鐵業者ノ主タルモノニ次ノモノアリ。

## 吾孺製鋼株式會社(東京府吾孺町)

## 戸畑鑛物株式會社(福岡縣戸畑市)

吾孺製鋼株式會社ハ新シキモノニシテ1929年以來鉄鐵ヲ生産セリ。同年ニハ2,898噸ノ鉄鐵ヲ産出セリ。

戸畑鑛物株式會社ハ久原ト關係アルモノニシテ古クヨリ存在セシ會社ナリ。同會社ハ凡ユル種類ノ鑛物ヲ製造スルト同時ニ電氣爐ニ依リテ鉄屑ヨリ鉄鐵ヲ製鍊セリ。同會社ハ大阪及戸畑ニ工場ヲ有シ其ノ鉄鐵産出高次ノ如シ(單位噸)

年	大阪工場	戸畑工場	計
1922	—	1,091	1,091
1923	—	2,943	2,943
1924	1,835	2,973	4,808
1925	3,228	3,686	6,914
1926	3,162	6,236	9,398
1927	4,063	2,973	10,637
1928	6,795	6,574	13,963
1929	8,550	7,481	16,031

電氣爐ヲ用ヒ鉄屑ヨリ鉄鐵ヲ製造セル製鐵業者ノ中前記2會社ヲ除キテノ生産高次ノ如シ(單位噸)

1923年	36	1927年	173
1924	52	1928	256
1925	89	1929	209
1926	498		



砂鐵ヨリノ製鍊

今ヨリ2、3年前岩手縣久慈地方ニ存在セル莫大量ノ砂鐵ヨリ鐵ヲ製鍊セントスル野心滿々タル噂巷間ニ傳ハリタルコトアリ。之ハ東京常盤會社ノ計畫ナリシモノナリ。砂鐵ハ磁鐵及礬鐵ノ粒子ヨリ成リ鐵含有量ハ23—60%ナリ。然シコノモノハ多量ノ「酸化チタニウム」ヲ含有シ容易ニ之ヲ除ク事ヲ得ザルモノナリ。

「チタニウム」ヲ除去スルタメニ用ヒラレシ方法ハ Anderson—Thornhill ト呼バレシモノナリ。砂鐵ヨリ製鍊サレシ鐵ハ結局錐力ニ製造サレシモ原鐵中ニ含有サレシ「チタニウム」分ハ最後ノ製品ニ迄入り來リ其ノ製品ヲ使用ニ堪ヘサルモノトス。

日本ハ良好ナル鐵鐵ヲ比較的安價ニ外國ヨリ輸入シ得ル今日カカル砂鐵鐵床ヲ開發スルノ必要ハ全然認メラレズ。恐ラク將來有事ノ際ニハ常盤會社ノ計畫モ大イニ役立ツモノトナルベシ。

日本全體ニ於テ砂鐵ヨリ製鍊サレシ鐵 (Sponge iron) ノ量次ノ如シ。(單位噸)

1927年	925
1928	853
1929	82

各種ノ方法ニ依リ1923—1929年ノ間ニ日本内地ニ於テ製鍊サレシ鐵鐵ノ量ヲ總括スレバ次ノ如シ。(單位噸)

年	鐵石ヨリ		砂鐵ヨリ	鐵屑ヨリ		計
	電氣爐			熔鐵爐	電氣爐	
	骸炭	木炭				
1923	588,113	—	—	5,139	6,446	599,698
1924	573,549	270	—	1,885	5,079	580,904
1925	676,879	153	—	1,143	7,003	685,175
1926	799,483	—	—	245	9,896	809,624
1927	884,341	—	925	95	10,810	896,171
1928	1,077,065	381	853	18	14,219	1,092,536
1929	1,065,908	2,000	82	—	19,138	1,087,128

朝鮮ニ於ケル鉄鐵生産高

三菱製鐵株式會社ハ朝鮮ニ於ケル唯一ノ製鐵會社ナリ。當會社ハ資本金 2,500 萬圓ニシテ全部拂込済ナリ。株主ハ僅カ18ニシテ50萬株ノ中三菱合資會社439,500株ヲ所有セリ。

當會社ハ朝鮮黃海道兼二浦ニ鐵山ヲ所有ス。製鐵所ニハ150噸ノ熔鐵爐2基アリテ鉄鐵ノ年産出高ハ15萬噸ナリ。當會社ノ骸炭製造所ニハ Wilputte 爐75基ヲ有シ各ノ長サ39呎5吋、高サ10呎 $\frac{1}{2}$ 吋、幅17呎 $\frac{3}{4}$ 吋ニシテ年産出高166,000噸ナリ。

當會社ノ鉄鐵産出量次ノ如シ。(單位噸)

1918年	42,698	1924年	99,795
1919	78,384	1925	99,160
1920	84,118	1926	115,036
1921	83,010	1927	129,022
1922	83,179	1928	146,159
1923	99,933	1929	153,627

當製鐵所ニテ製鍊サレシ上記鉄鐵ハ總テ日本ニ輸送サレタリ。

滿洲ニ於ケル鉄鐵産出高

南滿洲ニ於テハ南滿洲鐵道株式會社ノ所有セル鞍山製鐵所アリテ之ハ大連ノ北方200哩ナル鞍山鐵鐵床ノ中心ニ在リ。

當地域ニ於ケル鉄鐵床ハ1億噸ノ低品位鐵石ヲ埋藏ス。鐵石ハ撰選ニヨリテ58%ノ品位トセラレ。鞍山ノ製鐵所ニハ最初250噸ノ熔鐵爐ヲ2基建設サレシモ後 300噸ノモノニ改造セラレソノ年産出高ハ28萬噸ナリ。1930年中ニ500噸熔鐵爐ヲ完成スル豫定ナリキ。

滿洲ノ鉄鐵ヲ使用スル上ニハ技術上ノ困難ヲ伴フ外ニ滿洲ニ於ケル製鐵業ガ大規模ニ發達スル前ニ日本製鐵業者ノ嫉妬ヲ招ク。滿洲ノ製鐵業ノ發達ハ日本ニ於テハ嫉妬ト嫌惡トヲ以テ見ラル。何レニシテモ滿洲鉄鐵ハ支那カラノ輸出税ト日本ヘノ輸入税トノ兩方ヲ支拂ハザルベカラズ。但シ其ノ鉄鐵ヲ極東ノ他ノ諸國ノ市場ニ持出ス場合ハ別ナリ。全世界ト競争シテ極東ノ輸出市場ニ入ル事ヲ熱望セル日本ノ製鐵業者ガカカル競争ヲ認メルモノトハ思ハレス。

鞍山製鐵所ノ鉄鐵生産高次ノ如シ。(單位噸)

1923年	73,416	1927年	192,895
1924	81,594	1928	220,637
1925	85,886	1929	217,859
1926	146,327		

滿洲ニ於ケル他ノ1ツノ鉄鐵製鍊者ハ本溪湖煤鐵公司ニシテ之ハ日支合辦ニシテ大倉組ノ關係セルモノナリ。當製鐵所ニハ130噸熔鐵爐2基アリテ年産88,400噸ナリ。

年別鉄鐵生産高次ノ如シ (單位噸)

1923年	24,388	1927年	51,308
1924	52,782	1928	64,038
1925	50,799	1929	77,521
1926	51,816		

上記ヲ合算シテ滿洲ニ於ケル鉄鐵總産額ヲ求ムレバ次ノ如シ(單位噸)

年	鞍山	本溪湖	計
1923	73,461	24,388	97,849



1924	81,594	52,782	134,376
1925	85,886	50,799	136,685
1926	146,327	51,816	196,148
1927	192,895	51,308	244,203
1928	220,637	64,038	284,675
1929	217,859	77,521	295,380

上記ノ數字ヨリ日本本土及領地ニ於ケル鉄鐵産出總額ハ次ノ如シ。(單位噸)

年	日本本土	朝鮮	滿洲	計
1917	408,901	—	—	408,901
1918	419,144	42,698	—	461,846
1919	479,181	78,384	—	557,565
1920	426,177	84,118	—	510,295
1921	431,439	80,010	—	511,449
1922	530,267	83,179	—	613,446
1923	588,113	99,933	97,849	785,895
1924	578,549	99,795	134,376	812,720
1925	676,879	99,160	136,685	912,624
1926	799,483	115,036	198,143	1,112,662
1927	884,341	129,022	244,203	1,257,566
1928	1,077,065	146,159	284,675	1,507,899
1929	1,065,908	153,627	295,380	1,514,915

鉄鐵ノ輸入

日本ニ於ケル鉄鐵産額ハ斯克大ナルモノナレドモ日本ハ必要上多量ノ鉄鐵ヲ外國ヨリ輸入スルコトヲ餘儀ナクセラル。

鉄鐵ノ輸入ハ主トシテ英領印度ニ之ヲ仰キ同地ヨリノ鉄鐵ハ價格極メテ低廉ナルタメ日本ノ製鐵業者ニ大ナル不安ヲ與フ。高價ナル日本産ノ鉄鐵ハ此ノ安價ナル印度鉄鐵ト競争スルヲ得ズ。然シココ2年間ニ日本製鐵業者ハ自己ノ製品ヲ保持シ得タリ。1930年中ニ於ケル外國製品輸入制限ニ對スル宣傳ハ印度鉄鐵購入ヲ阻止セリ。ココ5—10年間外國鉄鐵ノ輸入ヲ完全ニ中止スル事ハ不可能ナル事ニ非ズ。然シ此ノ事ハ海峽殖民地ニ於ケル鐵山開發ノ如何ト支那鐵山ヨリノ圓滿ナル鐵石輸入ノ續否如何トニ依ル事多シ。

日本ガ諸外國ヨリ輸入セル鉄鐵量次ノ如シ。(單位噸)

1921年	276,284	1926年	508,412
1922	409,606	1927	580,670
1923	429,442	1928	712,734

1924	520,122	1929	794,861
1925	402,568	1930	400,819

日本ノ鉄鐵輸入高ヲ國別ニ示セバ次ノ如シ。(單位噸)

年	支那	英國	獨逸	瑞西
1921	76,160	22,628	3,444	18,065
1922	129,274	9,726	4,506	4,066
1923	97,630	6,365	—	662
1924	165,219	7,809	233	14,075
1925	47,822	8,185	711	2,938
1926	3,796	7,595	—	238
1927	5,849	6,727	2,266	2,197
1928	30,748	8,397	6,586	1,695
1929	56,836	9,134	4,896	814

年	米國	英領印度	其他	計
1921	1,247	34,351	71,197	227,092
1922	1,245	100,656	78,503	327,976
1923	25	136,929	104,422	346,033
1924	31	159,978	94,422	346,033
1925	86	153,332	103,265	316,359
1926	102	227,628	160,281	399,640
1927	102	261,130	194,676	472,947
1928	27,766	310,489	183,533	569,214
1929	30,474	411,477	140,424	654,055

次表ハ日本ニ於ケル鉄鐵ノ全供給高ニシテ之ニハ日本ガソノ領地ニ輸出セル鉄鐵ヲ計算ニ加フ(日本ハ領土以外ニハ未ダ鉄鐵ヲ輸出セズ)

年	國內生産	輸入	計	領土ヘノ輸出	差引	全供給高中ノ國內生産%
1921	480,300	276,284	756,584	5,768	750,816	64
1922	559,310	409,606	968,916	5,282	963,634	58
1923	610,751	429,442	1,040,193	5,321	1,034,872	59
1924	599,029	720,122	1,119,151	7,270	1,111,881	54
1925	696,720	402,568	1,099,288	6,503	1,092,785	64
1926	821,832	508,412	1,330,244	4,686	1,325,558	62
1927	912,183	580,670	1,492,853	4,325	1,488,528	61
1928	1,109,627	712,734	1,822,361	4,904	1,817,457	61
1929	1,113,463	794,861	1,908,324	3,771	1,904,553	58



日本ノ鉄鐵生産高ハ之ヲ世界ノ生産高ニ比較スレバ極メテ微々タルモノニシテ1928、1929兩年ノ  
世界各國ノ鉄鐵生産高ヲ次表ニ示ス(單位千噸)

	1928年	1929年
米 國	38,437	43,078
加 奈 陀	1,100	1,188
英 國	6,716	7,686
佛 國	9,978	10,454
白 耳 義	3,904	4,099
ル ク セ ン ブ ル グ	2,769	2,895
伊 太 利	508	685
西 班 牙	579	731
瑞 典	437	508
獨 逸	11,800	13,512
匈 牙 利	458	477
葡 萄 牙	285	365
チエツコスロヴァキア	1,539	1,625
波 蘭	683	712
露 西 亞	3,375	4,064
ザ ー ル	1,935	2,108
英 領 印 度	1,068	1,371
濠 州	416	457
日 本	1,540	1,542
其 他	548	568
計	88,075	98,145

(1930年6月製鐵業參考資料ニ依ル、84頁)

1929年ニ於ケル日本ノ鉄鐵生産高ハ世界ノ全生産高ノ1.59%ナリ。

日本ノ鉄鐵ハ東京丸ノ内ビルディングニ事務所ヲ置ケル鉄鐵共同販賣組合ノ手ニヨリテ賣捌サ  
ル。此ノ組合ノ組員ハ日本ノ主タル製鐵業者ヨリ成リ釜石鑛山株式會社、日本製鋼所、三菱製  
鐵株式會社、鞍山製鐵所及本溪湖煤鐵公司之ナリ。

八幡製鐵所及東洋製鐵株式會社ニ於テ製鍊サレシ鉄鐵ハ市場ニ出デザル爲メ之等ハ組員ナラ  
ズ、又淺野造船所製鐵部ハソノ製鍊セシ鉄鐵ヲ自己ノ工場ニテ使用スル爲メ之モ亦組合ニ加入セ  
ズ。

此ノ組合ハ鉄鐵ノ價格ヲ決定シ組員ノ販賣高ノ比例ヲ定メ而シテ代理人ヲ通ジテ卸賣ヲナサ  
シメソレニ對シテ代理人ハ規定ノ手数料ヲ受ク。

### 鉄鐵製造者ニ對スル補助金

年産3萬5千噸以上ノ鉄鐵製造者ニハ補助金ヲ支給セラル、製造者カソノ鉄鐵ヲ鋼鐵製造ニ使用  
スル場合ニハ鉄鐵1噸ノ生産ニ對シ金6圓、ソノ鉄鐵ヲ鋼鐵製造ノ爲メニ他ニ賣却スルトキハ金 5  
圓ノ補助金ヲ支給セラル。若シ鉄鐵ヲ鋼鐵製造用ニ使用セザルトキハ補助金ハ金 3 圓ナリ。

鉄鐵ノ輸入税ハ100斤ニツキ10錢或ハ1噸ニツキ1.66圓ナリ、鐵鑛及鐵屑ハ無税ナリ。

八幡製鐵所ニ於ケル鉄鐵1噸ノ生産費ハ前述セルガ如ク 38.72圓ト見積ラル。若シ 6 圓ノ補助金  
カ支給サルルナラバ32.72圓トナル。

次表ハ八幡製鐵所研究部ニ於テ編纂サレタルモノニシテ日本ニ於ケル製鐵全能力及1930年前半期  
ニ於ケル鉄鐵生産高ヲ示ス。

會 社	鉄鐵生産能力(年)	1930年前半期 ノ鉄鐵生産高
三 菱 製 鐵	110,000	74,338
日 本 製 鋼 所	168,000	61,236
釜 石 鑛 山	177,000	48,245
淺 野 造 船 所	55,000	28,928
日 本 鋼 管	25,000	—
神 戶 製 鋼 所	7,300	—
淺 野 小 倉 製 鋼 所	14,600	—
鞍 山 製 鐵 所	219,000	123,326
本 溪 湖 煤 鐵	110,000	50,353
小 計	886,500	386,426
八幡製鐵所及東洋製鐵	814,200	407,541
計	1,700,700	793,967
輸 入		226,385

1930年前半期ノ鉄鐵供給總高 1,030,352

日本政府ハ製鐵業者ニ對シテ補助金ヲ支給スル事ヲ前述セリ。而シテ其ノ補助金ノ額ハ鉄鐵ヲ  
自己ノ工場ニ於テ鋼鐵ニ製造スル者ニハ鉄鐵1噸ノ生産ニ對シテ金6圓、鉄鐵ヲ鋼鐵製造ノ目的ヲ  
以テ他ニ賣却スル者ニ對シテハ金 5 圓ナリ。其ノ結果トシテ鑛石還元ノ設備ヲ裝置シ得サル製鋼  
者ハ國內鉄鐵製造者ヨリ鉄鐵ヲ購入スル事ヲ強制サル。

政府ヲシテ鉄鐵輸入税ヲ増額セシメントセシ計畫ハ之等小規模ノ製鋼者即チ補助金ノ關係上鋼  
鐵仕上品ヲ安價ニ賣却シ得ル所ノ鉄鐵製造者ノ勢力範圍内ニ陥入レラルル事ヲ恐レル所ノ小規模  
製鋼者ノ反對ノ爲メニ失敗セリ。

補助金ノ支給、輸入税ノ増額等ハ日本ヲシテ結局ハ自給製鐵國ノ位置ニ置カンガ爲メノ目的ナ  
リ。日本ガ他國ト競争シテ極東ノ市場ニ進出スル事ニ關シテハ未ダ確實ナル事ヲ云ヒ能ハザルモ



此ノ野心ガ製造者ノ覺悟ト政府ノ支持トニ依リテ次第ニ目的ニ接近シツツアル事ハ最早疑ヒ無キ所ナリ。

ココ4年間日本ハ外國鋼鐵輸入中止實現ノ爲メノ長キ行程ヲ迎レリ。今日ノ日本ニ於テハ如何ナル型、如何ナル大イサノ鋼鐵モ殆ンド製造シ得ザルモノナシ。日本ハ或型ノ鋼鐵ハ製造シ能ハズトハ外國ノ製造者ニ依リテ屢々言ハレシ事ナレドモ丁度其ノ時ニ當ツテ日本ハ其ノ型ノ鋼鐵ヲ實際製造シ而モ充分實用ノモノナリ。日本ハ良好ナル鋼鐵ヲ製造シ得スト云フ一般ニ主張サレタル意見ハ完全ニ覆ヘサレタリ。日本ノ製品ハ他ノ外國品ニ比シテ何等遜色ナシ。

新型ノ鋼鐵ヲ製スルニ要スル費用ハ完全ナル製品ヲ仕上ケル迄ニ作業上ノ失敗ヲ繰返ヘスヲ以テ極メテ高價ナルモノトナルト言ハル。恐ラク之ハ事實ナルベシ。然シ遂ニハ完全ナル製品ヲ市場ニ出タシ漸次輸入量ヲ減スルニ至ル。

日本ニハ困難ニシテ又ハ精巧ナル操作ヲナシ得ル熟練ナル職工ナキ爲メニ製鋼シ能ハスト提唱サル事屢々アリ。日本ハ製鋼業ヲ始メテヨリ約25年ヲ經過セリ、此ノ經過中ニ若シモ日本ノ職工ガ作業ニ熟練シ得ザリシトスレバ其ノ製鋼方法又ハ其ノ材料ニ根本的ノ缺點ガアリシナリ。而シテ日本人ヲ怠惰又ハ不能ノ民ナリト云ヒ得ル者ヲ認メス。日本ノ製鐵職工ハ體格ニ於テハ西洋ノ職工ニ劣ル所アリト雖モ頭腦ニ於テハ決シテ彼等ニ劣ル所ナシ。今日ノ日本ニハ新知識ヲ迅速且ツ満足ニ捉ヘ得サル職工無キ事ハ明カナリ。深キ注意ヲ要スル所ノ鋼板製造モ日本職工ニ依リテ完全ニ成サレ殆ンド失敗ヲナス事ナシ。

職工ノ熟練、經驗ノ増加、鐵鑪ノ開發及市場ノ發展ニ依リテ日本ノ製鋼業者ハ先ヅ輸入ニ對スル對抗ニ其ノ勢力ヲ注ギ次ニ東洋市場ヘノ輸出ニ勢力ヲ集中セントシツツアリ。

1926年ヨリ1929年ニ至ル間日本ハ1,562,000噸ノ鋼鐵ヲ製造シ世界ニ於ケル第9位ノ製鐵國ノ地位ヲ占メタリ。

日本ノ製鋼業者ハ今日總テ basic processニ依ル open-hearth 方式ヲ採用シ Bessemer 法ニ依ル産額ハ減少シ電氣爐法ニ依ル産出ハ増加シツツアリ。

1923年ヨリ1929年ニ至ル「ビレット」製造高ヲ其ノ製造方法別トシテ示セハ次ノ如シ。(單位噸)

年次	open-hearth	Bessemer	電氣爐	坩 埚	其 他	計
1923	847,725	103,474	6,292	1,517	—	959,008
1924	1,018,680	67,821	11,985	797	408	1,099,691
1925	1,208,580	74,923	15,496	1,204	—	1,300,203
1926	1,400,632	84,677	18,159	2,747	—	1,506,215
1927	1,569,552	87,998	26,517	1,175	—	1,685,242
1928	1,833,391	3,340	37,746	1,503	—	1,905,980
1929	2,238,217	1,048	52,797	1,778	—	2,293,840
1930	—	—	—	—	—	2,255,000

三菱製鐵株式會社兼二浦工場ハ大截片及厚鐵板ヲ製造スル裝置アルニモ拘ハラズ1922年以來鋼

鐵ノ産出ナシ、又滿洲ニ於テハ鋼鐵ノ産出ハ全クナシ。

ビ レ ッ ト (Billets)

1930年6月末ニ於テ日本ニハ「ビレット」ヲ製造スルモノニ民間會社13及ビ八幡製鐵所アリ。其ノ14會社ノ爐ノ全能力ハ 2,545,900 噸ニシテ 1930 年前半期ニハ 1,185,892 噸ヲ産出セリ。而シテ其ノ中475,300噸ハ13民間會社ニテ製煉サレ710,592噸ハ八幡製鐵所ニテ製煉サレタリ。

鋼鐵「ビレット」ノ輸入ハ極少量ニシテ 1930 年前半期ニハ 50,360 噸輸入サレ其ノ量ハ日本全産額ノ約 4.5%ニ當ル。此ノ輸入高ヲ加算スレバ 1930 年前半期ニ於ケル日本ノ「ビレット」總供給高ハ1,236,252噸トナル。

八幡製鐵所ニ於ケル1930年ノ全「ビレット」産出高ハ 1,193,582 噸ナリ。民間會社ノ産出高ハ同年後半期ノモノ不明ナリ。然シ前表ニ掲ケシ1930年ニ於ケル日本ノ全産額(商工省鑛山局ニ依ル)ヲ正シキモノトスレバ1930年後半期ニ於ケル全民間會社ノ「ビレット」産額ハ537,018噸ナラザルベカラズ。

日本ノ「ビレット」製造者次ノ如シ。

製造者	爐 容 量											年産能力(噸)	
	200	60	50	40	30	25	18	16	15	12	10		8
八 幡	2	11	6	—	—	12	—	—	2	—	—	—	1,087,500
日本製鐵所	—	—	3	—	—	4	—	—	—	—	3	—	228,750
釜石鑛山	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	56,250
淺野造船	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	75,000
日本鋼管	—	—	—	—	2	7	—	—	—	—	—	—	176,250
富士製鋼	—	—	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	45,000
大島製鋼	—	—	—	—	—	1	—	—	2	—	—	—	41,250
東京鋼材	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	15,000
大阪製鐵	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	56,250
羽室鐵工所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	12,000
住友製鋼	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	1	49,500
住友伸鋼	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	56,250
川崎車輛	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	2	—	33,750
川崎造船	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—	168,750
神戸製鋼	—	—	—	1	1	2	—	1	—	1	1	—	111,000
淺野小倉製鋼	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	56,250
九州製鋼	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	112,500
唐津製鋼	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	7,500







	八幡製鐵所産額		民間製鐵會社産額		日本國內産額		輸入額		日本ニ供給サレタル總額	
	1930	1929	1930	1929	1930	1929	1930	1929	1930	1928
丸	83,676	122,333	251,948	365,903	334,407	440,326	22,524	69,610	358,148	483,864
角	24,540	17,684	5,418	6,787	6,866	24,405	2,556	6,741	32,514	30,877
平	45,762	66,308	14,835	14,835	17,145	81,243	10,714	17,342	71,411	98,485
ア	89,265	95,921	93,221	97,876	93,668	193,497	14,918	25,157	197,402	214,538
チ	27,998	25,225	—	—	—	25,225	5,539	26,056	33,537	41,701
テ	38,913	35,753	—	—	—	35,753	10,021	10,751	48,934	41,466
板	—	—	—	—	—	—	33,232	28,551	33,232	23,767
其他	1,515	4,081	3,358	7,327	8,335	11,608	6,898	5,950	13,771	13,319
計	311,067	367,905	370,880	493,182	469,535	861,087	106,492	190,158	788,949	1,051,245
鋼板(0.7以上)	155,319	165,762	162,275	177,732	156,159	343,514	45,196	57,183	362,700	400,697
同(0.7以下)	28,605	27,934	186,885	145,164	75,161	173,103	27,446	79,873	242,936	252,976
鋼板	5,348	3,287	—	—	—	3,287	7,451	10,248	12,799	13,535
鋼板	3,751	4,358	—	—	—	4,358	2,182	2,690	5,933	7,048
チエ	22,430	17,879	—	—	—	17,879	68,912	81,564	91,342	88,503
チエ	2,916	784	—	—	—	784	—	—	2,916	784
レール	218,369	220,004	349,160	322,921	231,320	542,925	151,187	231,558	718,716	774,463
同	254,355	242,036	—	—	—	242,036	5,421	15,351	259,776	257,387
レール	28,097	22,441	3,174	1,365	4,092	23,806	6,835	18,133	28,706	41,939
用品	16,331	13,540	—	—	—	13,540	887	144	17,218	14,980
計	—	278,017	3,174	1,365	4,092	279,382	13,143	34,924	315,700	314,306
軸	299,380	8,406	9,279	7,959	10,906	16,365	809	2,749	16,468	19,114
鋼	76,603	61,763	45,828	6,026	6,820	67,789	68,084	157,474	191,115	225,263
管	—	—	88,338	76,269	64,460	76,269	28,241	63,049	116,539	139,318
其他	5,598	6,079	2,914	3,540	5,698	8,512	3,280	2,303	11,792	11,922
計	98,000	942,174	869,573	911,262	784,131	1,787,573	371,706	682,215	764,040	2,357,428

シタル所ノ原因ハ前表ニ依リテ明カナルベシ。

別表ニ依リテ明カナルガ如ク日本ノ製鋼業ノ大部分ハ八幡製鐵所ニ依ルモノニシテ日本全産額ノ約55%ヲ供給ス。特別困難ナル作業ハ民間會社ニ於テハ爲リレズ、製鋼技術ノ進歩ハ總テ八幡製鐵所ニ負フ處ナリ。民間製鐵會社ノ技術ハ八幡ノ技術ヲ習ヒ之ニ依リテ指導セララルモノナリ。

鋼鐵輸入停止ノ追々其ノ目的ニ近ツキツツアリテ1930年ノ輸入額ハ全供給額ノ17.2%トナレリ(1928年ニハ輸入額ハ國內産出額ノ32.9%ナリ)勿論1930年ハ普通ノ年ナラザレドモ國內生産品ガ如何ニ輸入品ノ地位ヲ奪ヒツツアルカヲ別表ニ於テ見ル事ヲ得ルヲ以テ此ノ輸入減少ハ繼續スルモノト認メラル。此ノ事ハ特ニ棒、薄板、レール、鐵筋及鐵管ノ項ニ於テ著シ。

イ 棒 類

日本製鋼業者ガ外國製品ヲ市場ヨリ驅逐セシ事ハ棒類ノ製造ニ於テ特ニ著シキモノアリ。1930年ニ於ケル國內鋼鐵棒類ノ産額ハ426,279噸ニシテ輸入額ハ其ノ8%ニ過ギズ、而シテ全供給額(國內生産額ト輸入額トノ合計)ノ7%ニ當ル。

國內生産ノ棒類ノ販賣及生産ヲ調節スル處ノ組合多數アリ。即チ

A 丸 棒

- 1 關東鋼材販賣組合
- 2 鋼材連互會

B 丸棒、角棒、平棒

條鋼分野協定會

八幡製鐵所ト民間製鐵會社トノ間ニハ協定アリテ其ノ製造ニ關シテ制限アリ。

八幡製鐵所ハ次ノ製品ヲ造ル特權ヲ有ス。

- 丸 棒 1  $\frac{7}{8}$  吋以上
- 角 棒 2 吋以上
- 平 棒 2 吋以上

直徑  $\frac{1}{2}$  吋以下ノ丸棒及2吋以下ノ平棒ハ八幡、民間共ニ製造シ得ルモノトス。

民間會社ノ大部分ハ鋼鐵屑ヲ再熔シテ棒類ヲ造ル。棒類ヲ造ル日本ノ會社次ノ如シ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 株式會社日本製鋼所
- 3 釜石鐵山株式會社
- 4 東京鋼材株式會社
- 5 日本鋼管株式會社
- 6 富士製鋼株式會社
- 7 大阪製鐵株式會社
- 8 住友伸鋼株式會社
- 9 神戸製鋼所
- 10 川崎車輛株式會社
- 11 淺野小倉製鋼所
- 12 東京工業株式會社
- 13 三菱製鐵株式會社(朝鮮)

此他ニ特種鋼ヲ製造シ時偶ニ棒類ヲ製造スルモノ多數アレト其ノ産額少シ。即チ



- 1 大同電氣製鋼所
- 2 米子製鋼所
- 3 安來製鋼所
- 4 九州製鋼株式會社

1928年—1930年間ニ於ケル八幡製鐵所及民間製鐵會社ノ各種鋼棒ノ產額次ノ如シ (單位噸)

	八 幡	民 間	計
1930年	152,933	287,019	430,952
1929	207,441	381,679	589,120
1928	179,747	345,755	525,502

合計ノミヲ考フルニ1929年ハ1928年ヨリ63,618噸即チ21.1%増加シ1930年ハ1929年ヨリ158,168噸即チ26.8%減少セリ。又1930年ハ1928年ニ比シ94,550噸即チ17.9%減少セリ。

此ノ各年ニ於ケル八幡製鐵所ノ產額ハ全體ノ約35%ニ當リ產出量ノ比例ニ對スル協定ガ充分ニ保タレ居ル事ヲ示ス。

日本ニ於ケル各製鐵會社ニ於テ使用セル壓延機ハ其ノ總數199臺アリテ其ノ中粗軋機109臺、仕上軋機90臺アリ。但シ此ノ中ニハ日本鋼管株式會社カKruppヨリ買入レタル新機ヲ含マス。

壓延機裝置ヲ有スル製鋼所ハ次ノ13ナリ。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 八幡製鐵所         | 2 三菱製鐵株式會社 (兼二浦) |
| 3 川崎造船所 (併合)    | 4 株式會社日本製鋼所      |
| 5 日本鋼管株式會社 (川崎) | 6 東京鋼材株式會社       |
| 7 東海鋼業株式會社      | 8 住友伸銅鋼管株式會社     |
| 9 富士製鋼株式會社      | 10 大阪製鐵株式會社      |
| 11 株式會社神戸製鋼所    | 12 淺野小倉製鐵所       |
| 13 釜石鑛山株式會社     |                  |

次表ハ八幡製鐵所ニテ發表サレタル各會社ノ壓延機能力ヲ其ノ壓延シ得ル材料ノ重量ニ依リ分類シテ示セルモノナリ。

	重 材 料		中 材 料		輕 材 料	
	壓延能力	壓延量	壓延能力	壓延量	壓延能力	壓延量
三菱製鐵	120,000	—	—	—	—	—
日本製鋼所	—	—	50,000	—	—	—
釜石鑛山	—	—	—	—	84,000	28,939
日本鋼管	—	488	83,000	35,651	92,000	30,955
川崎車輛	—	—	40,000	—	25,000	—
神戸製鋼所	—	—	—	1,038	60,000	26,692
淺野小倉	—	—	—	367	53,000	21,161

大阪製鐵	—	—	—	2,659	72,000	17,759
住友伸銅	—	—	40,000	2,137	—	—
東京鋼材	—	268	50,000	4,099	20,000	3,045
富士製鋼	—	—	—	—	50,000	15,652
東海鋼業	—	—	54,000	10,745	—	1,875
計	120,000	756	317,000	56,696	456,000	152,078

上表ニ於ケル壓延力ハ1930年6月30日現在ノモノニシテ壓延量ハ1930年前半期ノモノナリ。

日本ニ於ケル Bar mill ノ壓延總能力ハ893,000噸ニシテ1930年前半期ニ於ケル Bar mill ノ產出量 (レールヲ含ム)ハ545,874噸ニシテ全能力ノ61.1%ニ當ル。棒類ヲ製造スル民間12會社ノ中三菱製鐵(朝鮮)ハ1922年以來鋼鐵棒類ノ產出ナシ。

### 日本鋼管株式會社

當會社ハ民間製鋼會社中最モ重要ナルモノニシテ1912年6月ニ設立サレタルモノナリ。

資本金21,000,000圓ニシテソノ中15,225,000圓ハ拂込済ナリ。

當會社ハ所謂小川—田中系ニ屬スル會社ナリ。

當會社ハソノ鋼鐵產額ハ大ナレトモ數年間多大ノ負債ノタメニソノ經濟狀態ハ不良ナリ。

會社ノ製鋼裝置ノ上ニ於テハ一等級ニ屬シ製鋼ニ對スル野心大ニシテ最近60萬圓ヲ投シテ

Krupp會社ヨリ新式 Bar mill ヲ購入セリ。

當會社ノ製鋼能力ハ中重量及中型製品83,000噸、輕重量及小型製品92,000噸ナリ。

當會社ハ鋼鐵屑ヨリ大々的ニ「ビレット」ヲ製造シソノ產額年188,000圓ニ達ス。

鐵屑ヨリ製造サレシ鋼鐵棒類ハ鉄鐵ヨリ造ラレタル「ビレット」ヨリ製造サレシモノニ比シテ極メテ廉價ニ造ラレ、ソノタメ市價ニ變動ヲ來タシ製造者及ブローカーニ對シテ大ナル混亂ト苦惱トヲ與ヘタリ。

日本鋼管ノ鋼鐵棒類ハ殆ント總テ鋼鐵屑ヨリ再壓延サレシモノナリ。

日本鋼管會社ノ鋼鐵棒類產出量ハ1923年以來着實ニ増加シツツアリ、產出量次ノ如シ(單位噸)

1917年	11,546	1924年	52,654
1918	8,523	1925	64,482
1919	10,969	1926	67,093
1920	14,678	1927	75,384
1921	15,453	1928	85,667
1922	33,074	1929	89,464
1923	29,195		

### 釜石鑛山株式會社



當會社ハ輕量製品84,000噸製造ノ能力アリ。

鋼鐵棒類ノ產出量次ノ如シ (單位噸)

1917	11,037	1924	27,885
1918	12,670	1925	30,700
1919	8,455	1926	47,192
1920	4,934	1927	49,991
1921	—	1928	61,387
1922	3,011	1929	71,073
1923	23,142		

而シテ壓延サルル鋼鐵ノ殆ント全部ハ鋼鐵棒類ニ製造サル。

### 大阪製鐵株式會社

當會社ハ資本金100萬圓ヲ以テ1915年12月ニ設立サレシモノナリ、好況時代ニソノ資本金ハ5,400,000圓ニ増額サレタリ。其後資本金ヲ530,000圓ニ減少シ收支關係ヲ調整シタル後現今ノ1,060,000圓トセリ。此ノ果斷ナル調整ハ會社ヲシテヨク今日ノ健全性ヲ具備セシメタルモノニシテ各製鐵會社間ニ特筆スヘキ話題ヲ提供セリ。

當會社ハ輕量製品72,000噸製造ノ能力アリ。然シ當會社ハ「ピレット」製造ノ裝置ヲ缺クヲ以テ不利ノ状態ニ置カル。所有セル爐ハ3噸乃至25噸ノ平爐ナリ。

最近ノ作業ハ時間ノ問題ニ制限セラル。當會社ハ資本主ニ乏シキタメ新裝置ヲ購入スルタメニ之ヲ増加セントノ話起レリ。當會社ハ大財團或ハ大資本案ヲ有セス、主タル株主ハ大阪ノ鋼鐵小賣商人ナリ。

大阪製鐵會社ノ鋼鐵棒類產出量次ノ如シ (單位噸)

1917年	5,512	1924	18,485
1918	8,030	1925	26,283
1919	7,952	1926	35,991
1920	10,720	1927	38,632
1921	10,145	1928	48,022
1922	12,690	1929	51,128
1923	15,304		

### 東京鋼材株式會社

東京鋼材株式會社ハ1917年4月創立サレ資本金400,000圓ニシテ全部拂込済ナリ。株數8,000ノ中三菱製鐵會社ハ6,400株ヲ所有セリ。三菱製鐵ハソノ資本主ト見ル事ヲ得レトモソノ條件ハ良好ナラスシテ2,600,000圓ノ未拂アリ。

當會社ハ2噸乃至10噸ノ平爐並ヒニ1—6噸及ヒ1—3噸ノ電氣爐ヲ有ス。

當會社ノ製鋼能力ハ中重量製品50,000噸、輕量製品20,000噸合計70,000噸ナリ。鋼鐵棒類ノ產額ハ次ノ如クソノ量少シ (單位噸)

1917年	—	1924	11,538
1918	—	1925	8,843
1919	—	1926	10,268
1920	—	1927	13,411
1921	3,829	1928	15,403
1922	7,967	1929	16,976
1923	10,240		

### 川崎車輛株式會社

川崎車輛株式會社ハ1928年5月ニ川崎船渠會社ノ廢跡ニ設立サレタルモノニシテ資本金12,000,000圓ニシテ全部拂込済ナリ。

當會社ハ1—25噸及2—10噸平爐並ヒニ2—3噸電氣爐ヲ所有ス。

當會社ハ中重量製品40,000噸、輕量製品25,000噸、合計65,000噸製造ノ能力アレトモ1927年以後鋼鐵棒類ヲ製造セス。產出高次ノ如シ (單位噸)

1917	11,492	1924	6,863
1918	12,359	1925	13,956
1919	10,310	1926	13,768
1920	11,080	1927	3,361
1921	4,212	1928	—
1922	6,514	1929	—
1923	10,837		

### 株式會社神戸製鋼所

神戸製鋼所ハ1911年ノ設立ニ係ル。資本金ハ今日20,000,000圓ニシテ全部返済セリ。1927年ノ恐慌以來經營困難ニ陥リシモノノ處置宜シキヲ得テ經營ヲ繼續セリ。

當製鋼所ハ次ノ平爐ヲ有ス。

40噸平爐	1基	10噸平爐	1基
30噸平爐	1基	12噸平爐	1基
25噸平爐	2基	10噸平爐	1基

製鋼能力ハ輕量製品60,000噸ナリ。

製鋼高 (棒類) 次ノ如シ (單位噸)



1924年	8,242	1927	47,625
1925	29,193	1928	63,902
1926	32,657	1929	72,952

當會社ハ尙1—0噸及1—1.7噸ノ電氣爐ヲ有ス

### 東海鋼業株式會社

當會社ハ1916年12月戰爭中ニ創立サレシモノナリ。大戰ノ終末ト共ニ他ノ製鐵會社ノ蒙レルト同様ノ打撃ヲ受ケタリ。戰爭以來當會社ハ製造費ヲ低下シ裝置ヲ改良スルヲ得タリ。

當會社ノ主製品ハ中型ノ鐵板及鐵葉ナリ。

資本金ハ現在3,000,000圓ニシテソノ中2,250,000圓拂込済ナリ。小川一田中系ノ會社ニシテ未拂ノ負債2,000,000圓以上アリ。

當會社ハ「ビレット」製造ノ裝置ヲ有セス。コノ裝置ノ据付ハ經濟界ノ景氣回復ヲ待チテ成サルモノト稱セラル。製鋼能力ハ中型製品54,000噸ナリ。

鋼鐵棒類ノ製造ハ1927年ニ之ヲ中止セリ。

### 株式會社淺野小倉製鋼所

當會社ハ1918年12月ニ創立サレシ淺野系ノ會社ナリ。今日ノ資本金15,000,000圓ニシテソノ中6,299,066圓ハ拂込済ナリ。株數30萬アリテソノ大部分ハ淺野同族會社ニ依リテ所有セラル。

當會社ハ3—25噸平爐ヲ有シテ年製鋼能力56,250噸ナリ。(輕量製品)

1920年以來ノ棒類產出高次ノ如シ(單位噸)

1920年	2,911	1925	21,242
1921	2,368	1926	32,152
1922	7,253	1927	33,803
1923	7,174	1928	44,714
1924	16,804	1929	57,372

### 富士製鐵株式會社

當會社ハ1917年12月ニ創立サレ資本金3,100,000圓ニシテ全部拂込済ナリ。株數63,000ノ中10,199株ハ舘澤系ニ所有サル。當會社ハ經濟的ニハ安田系ニ依リテ支持セラル。

當會社ハ15噸平爐4基ヲ有シテ年製鋼能力45,000噸ナリ。

壓延機ノ能力ハ年50,000噸ニシテ輕量製品ヲ製造ス。棒類製造ハ1925年以來開始サレシモノニシテソノ產額次ノ如シ(單位噸)

1925年	8,525	1927	24,652
1926	21,324	1928	34,041

1929 37,992

### 株式會社日本製鋼所

當會社ノ詳細ニ關シテハ前述セリ。

次ノ平爐ヲ有ス。

50噸平爐	3基
25 ”	4 ”
10 ”	3 ”

年平均製鋼能力 228,750噸

廣島工場ニハ3噸電氣爐1基ヲ有ス。

室蘭工場ニハ2噸坩堝2基ヲ有ス。

壓延機ノ壓延能力ハ中重量製品年50,000噸ナリ。

鋼鐵棒類ノ製造ハ1927年ニ中止サレソレ以前ノ產額ハ年1,500噸以下ナリ。

### 住友伸銅鋼管株式會社

當會社ハ尼崎工場ニ於テ鋼棒及鋼管ヲ製造ス。

當會社ハ1916年7月ニ創立サレシモノニシテ現今ノ資本金15,000,000圓ニシテソノ中12,000,000圓ハ拂込済ナリ。

3—25噸ノ平爐ヲ有シテ年製鋼能力ハ年56,250噸ナリ。壓延能力ハ中重量製品40,000噸ナリ。

1921年以來ノ棒類製造高次ノ如シ(單位噸)

1921	7,313	1926	8,094
1922	1,323	1927	10,708
1923	6,442	1928	13,948
1924	266	1929	14,877
1925	—		

### 株式會社九州製鋼所

當會社ハ1917年ニ設立サレシ古キ會社ナレトモ經濟上ノ困難ノタメ數年間營業ヲ中止セリ。

1928年再興サレ少量ノ「ビレット」及鐵板ヲ製造ス。

1929年ニ98,612噸ノ平爐鋼ヲ製鍊シ1,595噸ノ棒類、15,828噸ノ建築材、17,352噸ノ鋼板及鋼葉並ヒニ3,034噸ノ「レール」ヲ壓延セリ。ソノ合計37,809噸トナリ、残りノ「ビレット」ハ手許ニ殘サレタカ或ハ市場ニ出サレタカニツノ中ノ一ニシテソノ詳細不明ナリ。

當會社ノ公稱資本金ハ10,000,000圓ニシテソノ中5,000,000圓ハ拂込済ナリ。重役中ニ三井ノ人々多數アリテ當會社ハ三井系ニ依リテ支配サルモノノ如ク認メラル。上述セル各會社ハ鋼鐵棒



類製造者ノ主タルモノナリ。尙コノ他ニ主トシテ鋼鐵屑ヲ再熔シテ棒類ヲ製造スル所ノ小規模製造者多數ニアリ。

然シテノ産額ハ結局重要ナルモノニ非スシテ1923年ヨリ1929年ニ至ル間ノ全製造高ハ68,350噸ニシテ年平均10,000噸ニ達セス。

別項ニ記ス所ノ他ノ製造者ハ總テ特殊鋼製造者ニシテ之ニ關シテハ後ニ述フル所アルヘシ。

### 鋼鐵棒類ノ輸入

日本ノ輸入スル鋼鐵棒類ノ量ハ現今國內製造高ノ約5%ニ過キス。1930年ニ於ケル輸入高次ノ如シ。

丸棒	22,524 噸
角棒	2,556 ”
平棒	10,714 ”
計	35,794 ”

八幡製鐵所販賣旬報ニ依レハ1930年ノ棒類輸入高ハ37,097噸トナレリ。コノ數字ハ各種ノ棒類ヲ全部含メルモノニシテ上記ノ數字ヨリハ正シキモノト考ヘラル。

1929年ニ於テハ棒類輸入高ハ93,663噸ニシテ國內製造高ノ15.7%ニ當ル。1928年ニ於テハ68,851噸ニシテ17.9%ナリ。

1927年ヨリ1929年ニ至ル3年間ノ日本ノ棒類輸入高ヲソノ輸入元ノ國別ニテ示セハ次ノ如シ(單位噸)

	1929	1928	1927
英國	7,026	5,211	9,795
佛國	11,828	5,478	1,082
獨逸	42,796	23,010	43,789
白耳義	16,140	10,843	21,055
奧太利	3,562	2,291	2,515
和蘭	1,421	1,028	1,940
瑞典	1,506	1,543	1,930
米國	2,111	907	1,193
關東州	21	496	23
其他	220	305	37
計	85,631	62,546	83,359

次表ハ日本ニ於テ1928年ニ使用サレタル鋼鐵棒類ノ量ヲソノ用途別トシテ示セルモノニシテ製鐵業參考資料(1930年6月30日)ニ依ル(單位噸)

	丸棒	角棒	平棒	其他	計
鐵道工業	12,341	7,578	5,407	6,998	32,324
建築工業	234,603	9,872	19,460	1,478	265,413
造船工業	16,088	3,017	6,265	2,180	27,550
機械製造	47,333	13,535	26,858	59,261	146,987
石油瓦斯ノ水道工業	3,905	96	556	10	4,567
鑛業	8,604	2,682	3,563	50	14,899
雜工業	33,790	7,116	19,155	4,983	65,044
計	356,664	43,896	81,264	74,960	556,784

1927年ニ於ケル消費次ノ如シ。

	丸棒	角棒	平棒	其他	計
鐵道鑛業	9,794	4,102	4,990	166	19,052
建築工業	127,892	9,326	20,562	944	158,724
造船工業	10,327	1,505	9,574	4,828	26,234
機械製造	36,582	12,394	27,758	927	77,661
石油瓦斯ノ水道工業	1,482	100	377	9	1,968
鑛業	7,198	2,061	5,228	315	14,802
雜工業	24,111	4,212	10,711	571	39,605
計	217,386	33,700	79,200	7,760	338,046

1930年ニ於ケル八幡製鐵所ノ棒鋼ノ總産額次ノ如シ(單位噸)

丸鋼	83,384
角鋼	23,988
平鋼	45,308
其他	231
計	152,933

### 民間製鐵會社ニ於ケル棒鋼ノ製造

八幡製鐵所ニ於ケル棒鋼ノ總産額ハ上記ノ如ク多量ナルモ民間製鐵會社ノ總産額ハ遙カニ之ヲ凌駕シ1930年ニ於テハ277,924噸ヲ産出セリ。但シ此ノ數字ハ八幡製鐵所研究所ニヨツテ月別ニ公表サレタル産額ヨリ算出セルモノニシテ又同研究所ハ年産額ヲ272,301噸ト計算セリ。而シテ此ノ産出額ニ對スル各種棒鋼ノ内譯次ノ如シ。(單位噸)

丸鋼	259,951
角鋼	5,143
平鋼	12,830
計	277,924



最近3ケ年間ニ於ケル民間製鐵會社ノ各種棒鋼ノ總產額下ノ如シ (單位噸)

1930年	278,019
1929	387,679
1928	345,755

山形鋼

1930年ニ於ケル内國產山形鋼ハ日本全國ノ需要ヲ殆ンド充スルニ足リ僅カニ總產額182,484噸ノ8.1%ヲ輸入セルニ過キス。又總需要額ノ7%、即チ14,918噸ヲ輸入ニ仰グニ止マレリ。現在日本ニ於ケル製鐵會社ノ製造能力ノ著シキ増進ヨリ推察スレバ輸入品ノ全ク驅逐サルル日モ遠カラザルベシ。

山形鋼ノ輸入百分比率ハ棒鋼ノ夫レトヨク一致シ棒鋼ノ輸入ハ總產額ノ8%、總需要額ノ7%ニ該當セリ。

1930年ニ於ケル山形鋼ノ總產額ハ182,484噸ニ達シ其ノ内八幡製鐵所ハ89,263噸、民間製鐵會社ハ93,221噸ヲ產出セリ。

山形鋼ヲ製造セル主要ナル製鐵會社ハ下記ノ如シ

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1 八幡製鐵所      | 5 東京鋼材株式會社  |
| 2 日本鋼管株式會社   | 6 株式會社神戸製鋼所 |
| 3 東海鋼業株式會社   | 7 釜石鑛山株式會社  |
| 4 住友伸鋼鋼管株式會社 |             |

就中八幡製鐵所ハ最モ主要ナルモノニシテ大型山形鋼ハすべて此處ニテ製造サル。最近ニ至リテ日本鋼管會社モ3×4吋、3×5吋及3 $\frac{1}{2}$ ×5吋型ノモノヲ製作スルニ至レリ。製鐵協會ハ小型鋼及中型鋼ニ付テハ販賣製造及價格ヲ1931年3月ニ協定セルモ大型鋼ニ付テハ何等ノ規定ヲモ設ケズ。

八幡製鐵所

1929及1930年ニ於ケル八幡製鐵所ノ製造ニカカル各種等邊山形鋼ノ產額ハ夫々53,479及60,695噸ニシテ不等邊山形鋼ノ產額ハ夫々95,177及88,597噸ナリ。

1930年6月發行ノ「鋼材年報」ヨリ引用シタル1928—1929年間ノ民間製鐵會社ニ於ケル各種山形鋼ノ產額次ノ如シ。

日本鋼管株式會社

1927—1929年間ノ各種山形鋼ノ產額 (單位噸)

	50m.m及ソレ以下	100m.m及ソレ以下	100m.m及ソレ以上
1929年	—	67,431	281
1928年	—	54,862	7,719
1927年	525	30,600	8,177

東海鋼業株式會社

1927—1929年間ノ山形鋼ノ產額 (單位噸)

	100m.m及ソレ以下
1929年	25,438
1928年	29,464
1927年	21,064

住友伸鋼鋼管株式會社

1928及1929年ノ山形鋼ノ產額 (單位噸)

	50m.m及ソレ以下	100m.m及ソレ以下
1929年	—	557
1928年	9	183

株式會社神戸製鋼所

神戸製鋼所ハ1929年ヨリ山形鋼ヲ製造ヲ始メ同年度ニ於テ50m.m以下ノモノ232噸ヲ產出セリ。

釜石鑛山株式會社

1927—1928年間ニハ山形鋼ヲ製造セス、1929年ニ於テ僅カニ50m.m以下ノモノ141噸ヲ產出セリ。

山形鋼ノ輸入

各種山形鋼ノ輸入額ハ1930年ニ於テハ14,918噸ニ及ベリ。

溝形鋼及工形鋼

日本鋼管會社ハ民間ニ於ケル唯一ノ溝形鋼及工形鋼ヲ製造スルモノナレドモ其ノ產額ハ公表サレタルモノナキヲ以テ其ノ總產額ハ八幡製鐵所ノミニ限ラル。1930年ノ產額次ノ如シ (單位噸)

溝形鋼	38,913
工形鋼	27,998

而シテ1930年ニ於ケル工形鋼及溝形鋼ノ總需要額ハ夫々33,537及48,934噸ニ達セリ。此ノ八幡製鐵所ノ產額ト需要トノ差額ハ輸入ニ仰クモノト見做スベキモノナリ。

溝形鋼ノ輸入ハ輸入元ノ國別ニテ示シ難キモ1928—1930年間ニ於ケル輸入總額次ノ如シ (單位噸)

1930年	10,021
1929	10,751
1928	9,447

前述セル如ク工形鋼ノ製造ハ八幡製鐵所ノミニ限ラレ1930年ニ27,998噸、1929年ニ25,225噸、



1928年=27,332吨ヲ製造セリ。而シテ其ノ需要ハ確固タルモノノ如シ。輸入ハ1929年=ハ26,056吨ナルモ1930年=ハ5,539吨=激減セリ。又總需要ハ1930年ハ33,537吨、1929年ハ51,281吨、1928年ハ41,701吨=達セリ。

工形鋼ノ輸入ハ1930年=於テハ總需要ノ16.5%、1929年ハ50%、1928年ハ34.4%=該當セリ。

工形鋼ハ輸入元ノ國別ニヨツテ分類シ能ハザレドモ其ノ總額次ノ如シ (單位吨)

1930年	5,539
1929	26,056
1928	14,369

## 鋼 管

日本=於ケル鋼管ノ製造ハ日本鋼管及住友伸銅管ノ兩社ニ限ラレ1929年=ハ88,338吨、1928年=ハ64,460吨ヲ産出セリ。1924年以前迄ハ主要ナル輸入品タリシ鋼管モ最近=於テハ總需要ノ $\frac{1}{4}$ =激減セリ。鋼管ヲ製造スルコロノ前記兩社ノ内容ヲ言ヘバ日本鋼管會社ハ製造能力ノ點=於テ優リ、住友伸銅管會社ハ財政的ニ強固ナル地歩ヲ占ムル特徴アリ。

## スケルツブ

1929年=ハ八幡製鐵所=於テハ他ノ「ミル」=銀接スル「スケルツブ」ノ製造ヲ始メタルモ其ノ産額ノ詳細ハ知リ難シ。1931年2月ヨリ日本鋼管會社ハ直徑1吋或ハ夫レ以下ノ鋼管ノ「スケルツブ」製造ヲ始メ同月=於テ既=1,000吨ヲ産出セリ。同社ノ製造能力ハ毎月2,000吨=達ス。「スケルツブ」ノ展鐵及銀接ハ日本鋼管及住友伸銅管會社ニヨツテ殆ンド獨占的ニ製造セラレ其他ノ製鐵會社ニハ壓延機ヲ所有スルモノナシ。横濱造船所ハ此ノ目的ノ爲メニ設立サレタルモノト稱セラレ。

## 日本鋼管株式會社

該會社ノ鋼管製造能力ハ1ヶ年66,000吨ナリ。1930年前半期ノ産額ハ41,004吨ニシテ1925年以降ノ産額ヲ年別ニテ示セバ次ノ如シ (單位吨)

1925年	27,433
1926	32,699
1927	37,025
1928	53,321
1929	62,310
1930 (前半期)	41,004

## 住友伸銅管株式會社

該社ハ毎年25,000吨ノ鋼管ヲ製造スル能力ヲ有シ1930年度前半期ノ産額ハ6,701吨=達セリ。同社ハ2工場ヲ有ス。大阪ノ所謂鋼管工場ハ1927年以降ハ鋼管ノ製造ヲ休止シ鋼管壓延機ヲ尼ヶ崎工

場=移置セリ。1925年以降ノ産額ヲ次ニ表示ス (單位吨)

	尼ヶ崎工場	大阪工場	計
1925年	6,020	2,807	8,827
1926	6,708	3,102	9,810
1927	9,362	4,104	13,466
1928	11,139	—	11,139
1929	16,183	—	16,183

日本=於ケル鋼管ノ總産額ハ1925年以降ヲ年別ニテ示セバ次ノ如シ (單位吨)

1925年	36,240
1926	42,509
1927	50,491
1928	74,460
1929	78,492
1930	88,338

## 鋼管ノ輸入

1928—1930年間=於ケル鋼管ノ供給總額ト輸入額トノ割合ヲ示セバ下ノ如シ (單位吨)

	供給總額	輸入額	百分比率
1930年	116,539	28,201	24.2%
1929	139,318	63,049	45.2
1928	119,319	53,859	45.5

上表ヲ一瞥スレバ鋼管ノ輸入ハ將來日本=於ケル製鐵工業ノ設備ト能率ヲ増進スルニ準シテ激減スベキハ瞭カナリ。

## 軌條及附屬品

日本=於テ軌條及附屬品ヲ製造スル製鐵會社ハ僅カニ次ノ3社ヲ算スルニ過ギズ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 日本鋼管株式會社
- 3 東海鋼業株式會社

1929年=於ケル軌條ノ總産額ハ259,335吨ニシテ之ヲ内譯スレバ八幡製鐵所ハ254,734吨、日本鋼管會社ハ1,255吨、東海鋼業會社ハ323吨ヲ産出セリ。日本政府ハ鐵道省ノ所管ニカカル鐵道=ハスベテ自國産ノ軌條ノミヲ使用スルコトヲ決議シ1926年以降ノ日本=於ケル軌條製造ノ發達ニ驚クベキ刺戟ヲ與ヘタリ。

日本=於ケル1923年以降ノ軌條産額次ノ如シ (單位吨)

1923年	92,927	1927	169,032
-------	--------	------	---------



1924	77,880	1928	199,252
1925	131,977	1929	259,455
1926	166,597	1930	286,226

輸入ノ減少ハ近年ニ於テ著シク輕軌條及重軌條ノ輸入モ亦遠カラズシテ全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至ルベシ。

### 八幡製鐵所

八幡製鐵所ハ日本唯一ノ添板及軌條附屬品ヲ製造シ民間製造會社ハ軌條ノミヲ製作ス。

#### 日本鋼管株式會社

此ノ會社ニ於ケル軌條ノ製造ハ最近著シク減少セリ。其ノ産額次ノ如シ (單位噸)

1923年	9,438	1927	3,924
1924	10,273	1928	3,564
1925	12,122	1929	1,255
1926	6,446		

#### 東海鋼業株式會社

此ノ會社ニ於テハ軌條ノ製造ハ重要ナル業務ニ非ス。

#### 株式會社九州製鋼所

此ノ會社ハ1929年ニ軌條3,034噸ヲ製造セリ。設備ノ詳細ハ公表サレザレドモ同社ノ製造能力ハ年産鑄鐵90,000噸、棒鋼90,000噸、鋼板60,000噸ヲ有スルモノノ如シ。

1930年ニ於ケル軌條ノ輸入次ノ如シ (單位噸)

重軌條	5,421
輕軌條	6,835
計	12,266

上表ノ數字ハ總供給額 259,776 噸ニ對シ重軌條ハ僅カニ 2%ニ過ギズ。輕軌條ハ其ノ總供給額 38,607 噸ニ對シ 17.6%ヲ占ムモノナリ。而シテ兩者ノ供給額ハ合計 297,482 噸ニシテ輸入ハ其中 12,257 噸即チ 4.1%ニ該當セリ。

1927—1928年間ニ輸入サレタル軌條ヲ輸入元ノ國別ニテ示セバ下ノ如シ (單位噸)

國別	1929年	1928年	1927年
英國	62	372	6,049
佛國	1,324	7,701	15,731
獨逸	17,080	26,359	40,589
白耳義	—	429	3,600
埃太利	—	—	—
和蘭	463	304	4,434
瑞典	—	—	2,768

米國	14,424	10,219	15,666
其他	132	68	19
計	33,485	45,452	88,856

### 線材

日本ニ於テ線材ヲ製造スルハ次ノ 3 製鐵會社ニ過ギズ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 株式會社淺野小倉製鋼所
- 3 株式會社神戸製鋼所

最近 3 箇年間ニ於ケル總産額次ノ如シ (單位噸)

1930年	122,431
1929	67,789
1928	57,589

同 3 箇年間ニ於ケル輸入額次ノ如シ (單位噸)

1930年	69,684
1929	157,474
1928	172,644

又同 3 箇年間ニ於ケル供給額次ノ如シ (單位噸)

1930年	191,115
1929	225,263
1928	230,233

線材ノ輸入狀況ヲ見ルニ 1929年ニハ輸入額ハ總供給ノ 69.4%ナリシモ 1930年ニハ 36.4%トナレリ此ノ兩年間ニ於ケル輸入ノ減少ハ 52.3%ニ達シ總供給額ノ減少 17.8%ヨリモ遙カニ大ナリ。

上述ノ如ク 1929—1930年ニ於ケル輸入ノ減少ハ 52%ニシテ各種鋼鐵ノ供給額ノ 14.8%ニ該當シ如何ニ線材ノ輸入ノ減少ノ甚大ナリシカラ察知シ得ベシ。極言スレハ日本ハ壓延機ヲ旺ニ自國內ニテ回轉シ多量ノ線材ヲ製造シ輸入品ヲ全ク驅逐スルニ至ルハ瞭カナル事實ト謂ヒ得ベシ。

### 八幡製鐵所

八幡製鐵所ハ年産 60,000 噸ノ線材ヲ製造スル能力ヲ有シ 1930年ニハ 83,845 噸ヲ製造セリ。

#### 淺野小倉製鋼所

此ノ會社ニ於ケル 1918—1929年間ノ線材産額次ノ如シ (單位噸)

1918年	1,589	1924年	9,898
1919	1,526	1925	12,964
1920	6,969	1926	6,204
1921	15,631	1927	5,147



1922	12,902	1928	6,025
1923	18,007	1929	3,582

株式会社神戸製鋼所

1927年ヨリ線材ノ製造ヲ始メ其後ノ年産額次ノ如シ(單位噸)

1927年	248
1928	795
1929	2,445
1930(前半年)	3,851

線材ノ輸入ハ既ニ減少ノ傾向ヲ示シ、1930年前半年ニ於テハ38,612噸ニ止マレリ。最近3箇年間ニ於ケル輸入額次ノ如シ(單位噸)

1930年	59,485
1929	157,474
1928	230,233

次表ハ日本ニ於テ1924—1928年間ニ使用サレタル線材ヲ使途別トシテ示セルモノナリ(單位噸)

	1928年	1927年	1926年	1925年	1924年
鐵道工業	3	10	1	4	173
建築工業	2,111	1,407	834	9,122	383
造船工業	2	8	15	7	5
機械工業	77,769	38,105	38,169	29,806	29,834
瓦斯水道石油工業	103	50	—	72	—
鑛業	37	—	—	40	23
雜工業	22,148	19,277	24,186	18,787	6,226
計	102,170	58,857	63,205	57,844	36,644

最近日本ニ於ケル鋼板製造ハ顯著ナル發達ヲナシ1929年ニハ1926年ノ倍額ヲ産出スルニ至レリ。1930年ニ於ケル各種鋼板ノ産額ハ567,529噸、1929年ハ542,925噸、1928年ハ429,629噸ナリ。而シテ同3箇年間ニ於ケル鋼板輸入額ハ1928年ノ342,937噸ヨリ1930年ノ151,187噸ニ激減セリ。就中0.7耗以下ノ薄鋼板ノ輸入額ノ減退ハ著シク1928年ノ183,468噸ヨリ1930年ノ27,446噸ニ激減セリ。厚鋼板ノ輸入額ハ變化少キモ漸次國內ニテ製造シ輸入ヲ防遏シ得ル傾向アリ。日本ニ於ケル鉄力板製造ハ未ダ遅々タルモノニシテ八幡製鐵所ヨリ産出スルニ過ギズ。1928—1930年間ニ於ケル鉄力板ノ總需要額及總輸入額ハ次ノ如シ(單位噸)

	需要	輸入
1930年	91,342	68,912
1929	99,443	81,564
1928	88,503	72,113

現在日本ニ於テ鋼板ヲ製造スルモノハ次ノ8會社ナリ。

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1 八幡製鐵所         | 5 東海鋼業株式会社  |
| 2 株式会社川崎造船所葺合工場 | 6 株式会社九州製鋼所 |
| 3 株式会社淺野造船所鋼鐵部  | 7 中山薄鐵板株式会社 |
| 4 徳山鐵板株式会社      | 8 日本鋼業株式会社  |

是等ノ各會社ノ總製造能力ハ九州製鋼所及中山薄鐵板會社ヲ除ケバ下ノ如シ(單位噸)

會社名	厚鋼板	中鋼板	薄鋼板
八幡製鐵所	230,000	70,000	45,000
川崎造船所	120,000	—	200,000
淺野造船所	60,000	—	—
徳山鐵板	—	—	36,000
東海鋼業	20,000	15,000	—
日本鋼業	—	—	7,000
計	430,000	85,000	288,000
第二浦(三菱製鐵所)	80,000	—	—
合計	510,000	85,000	288,000

(各種鋼板ノ總計ハ883,000噸ニシテ但シ九州製鋼所及中山薄鐵板兩會社ノ概略産額30,000噸ヲ控除セリ)

八幡製鐵所

最近3箇年間ニ於ケル八幡製鐵所ノ各種鋼板ノ産額次ノ如シ(單位噸)

品名	1930	1929	1928
厚サ0.7耗以上ノ鋼板	155,319	165,762	148,162
厚サ0.7耗以下ノ鋼板	28,605	27,934	25,997
珪素鋼板	5,348	3,287	3,376
綫鋼板	3,751	4,358	2,497
鉄力板	22,430	17,879	16,390
ユニバーサル平鋼	2,916	784	1,887
計	218,369	220,004	198,309

民間製鐵會社ニ於テハ厚サ0.7耗以上及以下ノ鋼板ヲ製造スルニ限ラル共産額次ノ如シ(單位噸)

	1930	1929	1928
厚サ0.7耗以上ノ鋼板	162,275	177,752	156,159
厚サ0.7耗以下ノ鋼板	186,885	145,169	75,161
計	349,160	322,921	231,320

此ノ如ク八幡製鐵所ノ産額ハ民間製鐵會社ノ産額ニ劣レリ。

珪素鋼板

八幡製鐵所ニ於テ製造サレルノミニシテ同所ニ於ケル1930年ノ産額ハ5,348噸ナリ。



鋼板壓延機ノ裝置

會社及ミル	型 式	台 數	ローラー			製 作 所
			直徑(耗)	長サ(耗)	毎分回轉數	
八幡製鐵所 第一號厚板ミル	3 rolls	1				
第二號厚板ミル	Top and Bottom		864	2,794	87	モ ル ガ ン
	Middle		508	2,794	87	”
	Rough	1	1,245	4,572	64	モ ル ガ ン
	2 rolls Finishing					
第三號厚板ミル	2 rolls	1	1,118	3,684	64	メ ス タ ー
	3 rolls	1				
	Top and Bottom		762	2,134	80	モ ル ガ ン
第一號中板ミル	Middle		456	2,134	80	”
	2 rolls					
第二號中板ミル	Rough	1	760	1,800	75	八 幡
	Finishing	1	750	1,800	75	”
第三號中板ミル	3 rolls	1				
	Top and Bottom		650	2,000	122	八 幡
厚板ミル	Middle		510	2,000	122	”
	3 rolls					
	Top and Bottom		600	1,800	104	ケ ル ツ ー プ
第一號薄板ミル	Middle		480	1,800	104	”
	Rigid roll		460	1,800	104	”
	2 rolls					
	Pullover Type					
第二號薄板ミル	Rough	1	710	1,170	35	”
	Finishing	1	710	1,170	35	”
	Cold Roll	1	710	1,170	35	”
	2 rolls					
第三號薄板ミル	Pullover Type					
	Rough	4	760	1,170	34	獨 逸 製
	Finishing	4	760	1,170	34	”
	Cold Roll	6	760	1,170	45	住 友
鋳力板ミル	2 rolls					
	Pullover Type	5				
	Hot Roll	5	600	730	40	大 阪 住 友
	Hot Roll	1	710	865	40	ケ ル ツ ン
	Cold Roll	11	660	850	50	國 際 ロ ー ル 會 社

會社及ミル	型 式	台 數	ローラー			製 作 所
			直徑(耗)	長サ(耗)	毎分回轉數	
川崎造船所 第一號厚板ミル	3 rolls	1				
第二號厚板ミル	Top and Bottom		864	2,794	90	川 崎
	Middle		508	2,794	90	”
	2 rolls					
	Pullover Type					
淺野造船所 第一號厚板ミル	Rough	14	760	1,117	30	
	Finishing	25	760	1,117	30	
	Cold Roll	13	660	1,117	45	
第二號厚板ミル	3 rolls	1				
	Top and Bottom		864	2,794	70	日 本 製 鋼 所
三菱製鐵所 第一號中板ミル	Middle		508	2,794	70	久 保 田
	3 rolls	1				
第二號中板ミル	Top and Bottom		864	2,794		三 菱 造 船 所
	Middle		508	2,794		”
東海鋼業會社 第一號薄板ミル	3 rolls	1				
	Top and Bottom		680	1,800	80	池 袋 工 作 物
第二號薄板ミル	Middle		480	1,800	80	”
	2 rolls					
德山鐵板會社 第一號薄板ミル	Pullover Type					
	Rough	3	710	1,117	30	住 友
	Finishing	5	710	1,117	30	”
	Cold Roll	2	660	1,117	30	”
大阪中山鐵板會社 第一號薄板ミル	2 rolls					
	Pullover Type					
	Rough	1	760	1,117		住 友
	Finishing	1	760	1,117		”
第二號薄板ミル	Cold Roll	1	760	1,117		”
	2 rolls					
日本鋼業會社 第一號薄板ミル	Pullover Type					
	Rough	1	710	1,170	35	住 友
	Finishing	1	710	1,170	35	”
	Cold Roll	1	710	1,170	35	”



内譯次ノ如シ(單位噸)

35耗ノモノ	4,015
43耗ノモノ	1,333
計	5,348

稿鋼板

八幡産稿鋼板ノ1930年ニ於ケル産額ハ3,745噸ニシテ主ナル型ハ次ノ如シ(單位噸)

4.5耗ノモノ	1,364
6耗ノモノ	1,869

此外494噸ノ疵物稿鋼板ト80噸ノ4.5耗耳付稿鋼板ヲ産出ス。

ユニバーサル平鋼

1930年ノ八幡製鐵所ニ於ケル「ユニバーサル平鋼」ノ産額ハ2,905噸ニシテ主ナル型ハ次ノ如シ(單位噸)

9耗ノモノ	710
11耗ノモノ	456
19耗ノモノ	905
25耗ノモノ	264

耳付鋼板

1930年ノ八幡製鐵所ニ於ケル耳付鋼板ノ産額ハ5,914噸ニシテ主ナル型ハ次ノ如シ(單位噸)

5.4耗ノモノ	1,841
6耗ノモノ	2,075

此外2,888噸ノ疵物鋼板ヲ産シ(主ナル型ハ9耗ナリ)又529噸ノ防楯鋼板及166噸ノ2級品ヲ産ス。

株式會社川崎造船所

川崎造船所ハ幾多ノ財政的苦惱ヲ有スル老朽會社ナレドモ併合工場ハ現在恐ラク同會社中最モ重要ナル財産ナリト考ヘラル。同會社ノ資本金ハ90,000,000圓ニシテ其内74,250,000圓ハ拂込済ナリ。

1927年ヨリノ損失ハ53,000,000圓ト概算サレ、未済ノ社債59,000,000圓、公債25,600,000圓。支拂フベキ證券50,000,000圓ヲ有ス。同社ハ現在財政的ノ有力ナル支持者ナキモ三井ノ手ニ歸セントスル傾向アリ。

併合工場ハ日本ニ於ケル最モ重要ナル黒鉄製造工場ニシテ年産厚鋼板120,000噸、薄鋼板200,000噸ノ製産能力ヲ有ス、同工場ハ1924年ニ設立セラレ其後ノ産額ヲ年別ニ示セバ次ノ如シ。(單位噸)

1924年	39,374	1927	77,435
1925	37,092	1928	125,982
1926	40,836		

1929 180,146

1930(前半期)110,467	厚鋼板	35,505
	中鋼板	4,200
	薄鋼板	70,762

株式會社淺野造船所

同社ハ厚鋼板ノミヲ製造シ其産額下ノ如シ(單位噸)

1918	4,000	1921	11,120
1919	25,115	1922	13,315
1920	8,309	1923	8,480
1924	11,859	1928	52,616
1925	20,584	1929	64,379
1926	32,329	1930(前半期)	33,230
1927	42,924		

同社ノ製産能力ハ年産60,000噸ナリ。

徳山鐵板株式會社

同社ハ1928年2月ノ設立ニカカリ現ニ電氣鐵板ヲ製造セル大阪鐵板株式會社所有ノ徳山工場ヲ譲リ受ケタルモノナリ。其法定資本金ハ5,000,000圓ニシテ2,500,000圓ハ拂込済ナリ。同社ノ年産能力ハ黒鉄36,000噸ニシテ1930年前半期ノ産額ハ4,057噸ニ過ギズ。他ノ製鐵會社ト同様財政的苦境ニ沈湮シツツアリ。年産額次ノ如シ(單位噸)

1927	24,408
1928	26,723
1929	31,110
1930(前半期)	4,057

東海鑛業株式會社

同社ハ製産能力年産厚鋼板20,000噸、薄鋼板15,000噸、計35,000噸ヲ有ス、年産額次ノ如シ(單位噸)

1918年	3,195	1925	14,106
1919	5,203	1926	16,717
1920	5,186	1927	17,866
1921	2,294	1928	19,419
1922	7,537	1929	24,426
1923	9,702		
1924	12,461	1930(前半期)	18,794

厚鋼板	7,630	
	中鋼板	136
	薄鋼板	11,028

株式會社九州製鋼所



同社ノ年産能力ハ薄鋼板60,000噸ト想定サレルモ公表サレタルモノニアラズ。1929年ニ於ケル産額17,352噸ノミ判明セルニ過ギズ。

### 中山薄鐵工場

同社ハ個人ノ資本ニカカリ財政ノ状態ハ明カナラズ、且製産能力モ知リ難シ。1929年ヨリ黒鐵ノ製造ヲ開始シ、同年度ニ10,020噸ヲ産出セリ。

### 日本鐵業株式會社

同社ハ1919年5月ニ設立セラレ資本金200,000圓ハ皆済ナリ。同社ニ於ケル製産能力ハ年産黒鐵7,000噸ナリ。年別ニテ示セル産額下ノ如シ(單位噸)

1925年	3,055	1928	6,580
1926	5,842	1929	7,917
1927	6,088	1930(前半期)	1,565

### 三菱製鐵株式會社兼二浦工場

同社ハ厚鐵板ヲ毎年80,000噸ノ製産能力ヲ有スルモ現在ハ全ク鋼鐵製造ノ操業ヲ停止セリ。

### 鋼板共販組合

日本ニ於テ鋼板類ノ販價及製産ヲ協定シ或ハ取締ヲナス目的ヲ以テ設立セラレタル下記ノ如キ4組合アリ。

- 1 日本栗田薄物共販組合
- 2 日本栗田厚物共販組合
- 3 中板共販組合
- 4 日本厚板共販組合

### 電氣鐵板

電氣鐵板ノ製造ハ大工場ヨリ或ハ輸入ニヨル黒鐵ヲ購入シテ製作セル小工場ニ限ラル。産額ヲ表スベキ數字ヲ缺如スルモ下記ノ主ナル製造會社ノ製産能力ハ毎月約120,000噸ト推定サル。尙此ノ外市況ノ如何ニヨツテ操業常ナキ群小ノ製作所アリ。

主要ナル電氣鋼板ノ製造會社下ノ如シ

- 1 東京亞鉛鍍金株式會社  
事務所 東京府南葛飾郡龜戸町砂町  
設立 1918年7月  
法定資本金 1,000,000圓、650,000圓拂込済
- 2 大阪鐵板製造株式會社

事務所 大阪市此花區櫻島町

設立 1911年5月

法定資本金 1,500,000圓皆済

#### 3 大正鐵板鍍金合資會社

事務所 東京府南葛飾郡龜戸町7丁目2番地

#### 4 東邦亞鉛鍍金合資會社

事務所 東京府南葛飾郡大島町8丁目322番地

設立 1927年1月

法定資本金 70,000圓

#### 5 公共亞鉛鍍金會社

#### 6 中山亞鉛鍍金合名會社

事務所 横濱市神奈川區北幸町3496番

設立 1924年5月

#### 7 昭和鍍金會社

#### 8 東亞鍍金合資會社

事務所 東京府南葛飾郡龜戸町8丁目45番地

設立 1920年1月

資本金 250,000圓

#### 9 東鍍金會社

#### 10 中山亞鉛鍍金合資會社

事務所 東京市日本橋區龜井町

上記ノモノハ電氣鋼板ノ主要ナル製造會社ニシテ其中昭和、大正鐵板、東亞及東ノ諸會社ハ現在其工場ヲ閉鎖セリ。

電氣鐵板ノ輸入

日本ニ於ケル電氣鐵板ノ輸入ハ實際的ニハ殆ド其跡ヲ絶テリ。

### 鐵合金ト特殊鋼

日本ニ於ケル特殊鋼ノ製造ニ關シテハ今尙總テノ點ニ於テ改良サルベキ多クノ缺陷ヲ有シ、從ツテソノ發達モ洵ニ遅マタルモノナリ。

茲ニ公表サレタル僅少ナル資料ニヨリソノ概況ヲ紹介セン。

日本ニ於ケル鐵合金ノ製造會社ハ下記ノ7會社ナルモノ多クハ財界不況ノ影響ヲ蒙リ操業ヲ停止セリ(但シ電氣爐ヲ有シ一時鏡鐵、滿庵鐵及珪素鐵ヲ製造セル多數ノ電力會社ハコレヲ除外セリ)



- 1 八幡製鐵所
- 2 釜石鐵山株式會社
- 3 日本曹達株式會社 (3工場)
- 4 鐵鋼株式會社 (2工場)
- 5 日本鋼管株式會社
- 6 株式會社大同電氣製鋼所
- 7 大垣電氣冶金工業所

需要=應ジテ製造セララル主ナル合金鐵ハ滿俺鐵、珪素鐵、鏡鐵、クローム鐵及珪素鏡鐵ニシテソノ總產額ヲ年別ニ示セバ次ノ如シ (單位噸)

	1929	1928	1927	1926	1925
滿俺鐵	19,047	11,036	11,193	7,053	6,068
鏡鐵	1,210	2,011	2,138	1,811	2,066
珪素鐵	5,145	3,257	2,241	2,852	2,280
珪素鏡鐵	68	53	46	—	—
クローム鐵	705	576	196	201	42
其ノ他	160	158	198	286	86
計	26,335	17,091	16,012	12,208	10,542

### 八幡製鐵所

八幡製鐵所ヨリ産スル合金鐵ハ滿俺鐵及珪素鐵ナリ。1930年ノ産額ハ

滿俺鐵	458噸
珪素鐵	273噸

ニシテ1928年及1929年ニ比シ多少増産ヲ示セリ。コノ外1925年迄ハ「クローム」鐵、1928年迄ハ僅量ノ「タンダステン」鐵、1926年及1927年ニハ年産約1噸ノ「モリブデン」鐵ヲ製造セリ。

### 日本鋼管株式會社

日本鋼管ハ合金鐵ノ主要ナル製造會社ニシテソノ産額次ノ如シ (單位噸)

	滿俺鐵	鏡鐵	珪素鐵
1929	11,555	950	1,700
1928	8,214	1,857	1,587
1927	7,819	2,060	428
1926	5,296	1,588	639
1925	5,964	1,619	227

本表ニ列舉セザルモノソノ他ノ合金鐵ノ年産額約100噸アリ。

### 日本曹達株式會社

コノ會社ハ1920年ニ創設サレシモノニシテ日本ニ於ケル主要ナル苛性曹達及漂白粉ノ製造者ノ1ナリ。合金鐵ヲ製造シ得ル電氣爐ノ設置サレタル8工場ヲ有ス。ソノ資本金ハ3,600,000圓ニシテソノ内1,950,000圓ハ拂込済ニシテ三井系ニ屬ス。年産額ヲ3工場別ニテ表示スレバ下記ノ如シ。(單位噸)

	1929	1928	1927	1926	1925
1 會津工場					
滿俺鐵	1,364	902	1,300	845	492
鏡鐵	97	—	—	—	197
珪素鐵	359	172	147	307	378
計	1,820	1,074	1,447	1,212	1,067
2 二本木工場					
滿俺鐵	1,236				
3 富山工場					
滿俺鐵	427	374			
珪素鐵	190	206			
計	617	580			

### 鐵鋼株式會社

コノ會社ハ1928年10月ニ創設セラレ合金鐵ノ製造界ニ於テ比較的嶄新ナル設備ヲ有スルモノナリ。ソノ資本金150,000圓ハ皆済ニシテ福島縣下ニ3工場ヲ有ス。小野新町工場ニ於ケル産額次ノ如シ。(單位噸)

品別	1929	1928	1927	1926	1925
滿俺鐵	1,937	1,246	1,320	663	22
鏡鐵	163	143	73	170	155
珪素鐵	1,582	954	856	645	432
珪素鏡鐵	68	53	46	—	—
ソノ他	21	14	20	—	—
計	3,771	2,410	2,315	1,478	609

尙三春工場ハ新タニ設立サレタル小工場ニシテ1929年ニ96噸ノ合金鐵ヲ産出セリ。

### 株式會社大同電氣製鋼所

コノ會社ハ1916年8月ニ創設サレタル古キ會社ニシテ電氣爐ヲ用ヒテ合金鐵及特殊鋼ヲ製造ス。ソノ資本金2,800,000圓ハ皆済ナリ。工場ハ名古屋市熱田ニアリ、1箇ノ10噸電氣爐及1箇ノ5噸電氣爐ヲ有シ合金鐵、鑄物等ノ製造ニ使用サル。又築地工場(名古屋市南區)ハ特殊鋼ノ製造ニミ使用サル。熱田工場ニ於ケル合金鐵ノ産額次ノ如シ。(單位噸)



品別	1929	1928	1927	1926
滿 俺 鐵	659	152	230	89
鏡 鐵	—	11	5	53
珪 素 鐵	—	113	133	244
クローム鐵	305	576	196	145
計	964	852	564	531

### 大垣電氣冶金工業所

コノ會社ハ合金鐵ヲ製スルタメニ1929年ヨリ操業ヲ開始サレタル新會社ニシテ同年度ニ於ケル産額次ノ如シ(單位噸)

滿 俺 鐵	1,500
鏡 鐵	1,050
クローム鐵	400
計	2,950

茲ニ注意スベキハ400噸ノ「クローム鐵」ニシテソノ産額ハ日本ニ於テ首位ヲ占ムル點ナリ。

### 釜石鑛山株式會社

コノ會社ニ於テモ合金鐵ヲ製造スレドモソノ量ハ僅少ナリ。1927年及1926年ニ數回「タングステン鐵」及「モリブデン鐵」ヲ産出セシモノノ後製造ヲ停止セリ。蓋シ日本ニ於ケル民間業者ハ未ダコレ等ノ特殊鋼ヲ製造シ特別ノ用途ニ充ツルコトニ充分留意セザルモノノ如シ。

最近ニ於テハ一般ニ鏡鐵ノ需要ハ減少ノ傾向アリ。業者ハ新ラシキ合金鐵(クローム鐵)ノ代リニ滿俺鐵及珪素鐵ヲ重視スルニ至リタルハ見通スベカラザル1現象ナリ。

釜石鑛山ノ産額下記ノ如シ(單位噸)

品別	1929	1928	1927	1926
滿 俺 鐵	369	7	60	8
珪 素 鐵	264	49	351	602
タングステン鐵	—	11	7	14
モリブデン鐵	—	—	1	1
其ノ他	—	54	—	—
計	633	121	419	625

(日本刀ニハ微量ノ「モリブデン」ヲ含有シ、異常ナル良質ノ鋼タルハ驚歎ニ値スベキモノナリ)

### 藤田鑛業株式會社

コノ會社ハ合金鐵ノ製造者トシテ商工省ヨリ公表セラレザルモ逕信省ハ電氣爐ニテ「クローム鐵」ヲ製造スル電氣工業會社ノ表中ニ掲載セリ。ソノ資本金ハ30,000,000圓ニシテソノ内15,000,000圓ハ拂込済ナリ。

### 合金鐵ノ輸入

1928—1930年ニ於ケル合金鐵ノ輸入ハ次ノ如シ(單位噸)

品別	1930	1929	1928
滿 俺 鐵	2,131	2,468	2,122
珪素鐵及珪素鏡鐵	60	396	1,275
ソノ他	559	344	291
計	2,750	3,208	3,688

日本ニ於ケル特殊鋼ノ製造業ハ未ダ創設期ヲ脱セズシテ日本ニ於テ製造シ能ハザル合金鐵ノ輸入ハ今後數年間ハ増加シ得ベキモノト豫想サル。

コノ事實ハ少クトモ日本ノ製鐵業者ガ需要者ニ充分ナル満足ヲ與ヘ得ル良質ノ製品ヲ産出スルニ至ルマデハ眞ナリト信ズ。

### 特 殊 鋼

晩近ニ於ケル日本ノ特殊鋼製造ハ顯著ナル發達ヲナセリ。而シテ現在ハ各種ノ高速鋼、鋸ヲ作ル特殊鋼、球入軸受、齒車等ヲモ製造シ得ルニ至レリ。殊ニ優良品ノ製造ニ於テ進歩ノ著シキハ國產獎勵ヲ唱道セル政府ノ政策ニ與ルトコロ大ナリト想ハル。特殊鋼ヲ製造セル主ナル會社ハ下記ノ如シ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 株式會社日本製鋼所
- 3 東京鋼材株式會社
- 4 日本特殊鋼合資會社
- 5 株式會社大同電氣製鋼所
- 6 株式會社小松製作所
- 7 昭和特殊鋼合資會社
- 8 日本鑄造株式會社
- 9 株式會社住友製鋼所
- 10 金子鑄造所
- 11 大阪製鋼所
- 12 株式會社神戸製鋼所
- 13 川崎車輛株式會社
- 14 株式會社三菱造船所(神戸及長崎工場)
- 15 株式會社米子製鋼所
- 16 株式會社安來製鋼所



## 17 株式會社唐津製鋼所 (之=株式會社日本製鋼所(廣島工場)ヲ加フ)

各種ノ特殊鋼ノ年産額ハ次ノ如シ (單位噸)

1929年	18,529	1926	18,905
1928	15,929	1925	8,877
1927	10,942	1924	7,415

## 八幡製鐵所

八幡産ノ特殊鋼ノ産額次ノ如シ (單位噸)

1929	3,722	1922	358
1928	2,759	1921	638
1927	1,517	1920	987
1926	1,145	1919	1,853
1925	216	1918	4,185
1924	107	1917	3,632
1923	71		

## 株式會社日本製鋼所

コノ會社モ亦特殊鋼ヲ製造シ、室蘭工場ト吳造兵廠近クノ廣島工場トヲ所有ス。

室蘭工場ニ於ケル産額次ノ如シ (單位噸)

1929	7,112	1923	5,097
1928	5,055	1922	3,807
1927	3,494	1921	10,462
1926	4,065	1920	63
1925	13,751	1919	5,281
1924	5,830		

廣島工場ハ1929年ニ於テハ僅ニ58噸ヲ産出セルニ過ギズ。元來コノ工場ハ「ニツケル」鋼ノ如キ兵器用鋼ノ製造ノ目的ヲ以テ設置サレタルモノニシテソノ内容ハ民間會社ニ於テ知ルモノナシ。

## 東京鋼材株式會社

コノ會社ハ僅少ノ特殊鋼ヲ産スルノミニシテ1929年ニハ82噸ヲ産出セルニスギズ。

## 日本特殊鋼合資會社

1915年11月ノ設立ニカカリ資本金ハ1,160,000圓ナリ。炭素鋼、高速鋼、錐、齒車、球入軸受、鋸ノ原料タル特殊鋼ヲ産出ス。又特殊鋼ヨリ上記ノ製品ヲモ自ラ製造ス。各種ノ特殊鋼ノ産額下記ノ如シ。(單位噸)

1929年	1,282	1927	1,357
1928	1,804	1926	1,263

1926	1,263	1923	423
1925	1,157	1922	955
1924	554	1921	989

## 株式會社大同電氣製鋼所

コノ會社ハ各種ノ高速鋼ヲ製造ス。年産ハ次ノ如シ。(單位噸)

	熱田工場	築地工場
1929	1,391	83
1928	863	553
1927	873	540
1926	608	415
1925	331	96
1824	158	—
1923	75	—

## 株式會社小松製作所

コノ會社ハ少量ノ特殊鋼ヲ製造ス。1921年5月ニ創設セラレ資本金ハ1,000,000圓ニシテソノ内625,000圓ハ拂込済ナリ。産額次ノ如シ (單位噸)

1929年	59	1926	83
1928	166	1925	8
1927	98		

## 昭和特殊鋼合資會社

コノ會社ハ京都ニアリテ創設新ラシク産額ノ詳細ハ知り難シ。サレド殆ンド各種ノ特殊鋼ヲ製作シ又コレヲ製ルコトヲ試ミツツアリ。「クロム鋼」ソノ他ヲ産ス。産額ハ下記ノ如シ。(單位噸)

1929年	206	1927	56
1928	250	1926	243

## 日本鑄造株式會社

コノ會社ハ1920年5月ニ設立セラレ資本金1,000,000圓中400,000圓ハ拂込済ナリ。該社ノ特徴ハ鑄造鐵製造ニアレドモ自家用ノタメ少量ノ特殊鋼ヲ製造ス。1929年ニハ30噸ヲ産出セリ。

## 株式會社住友製鋼所

住友製鋼所ハ1901年6月設立セラレタルモノニシテ日本ニ於ケル斯業會社中最モ古キ歴史ヲ有スルモノナリ。資本金ハ12,000,000圓ニシテソノ内9,000,000圓ハ拂込済ナリ。車輪、車軸、鑄物、火造物等ヲ専門ニ製作ス。又自家用ノタメ特殊鋼ヲモ産出ス。産額次ノ如シ。(單位噸)

1929年	1,081	1924	376
-------	-------	------	-----



1928	554	1923	752
1927	153	1922	233
1926	290	1921	682
1925	868		

同社ハ日本ニ於ケル滿鐵ノ主要ナル製造者ノ1ナルコトヲ附言ス。

### 金子鑄造所

大阪ニ於テ個人資本ニヨル製造所ニシテ1917年5月ニ設立セラレ資本金ハ175,000圓ナリ。滿鐵及酸性鑄鐵ヲ産ス。産額(單位應)

1929年	726	1927	915
1928	696	1926	815

### 株式會社大阪製鐵所

該社ハ自家用ノ僅少量ノ特殊鋼ヲ産ス。1916年11月ノ創設ニカカリ資本金ハ3,000,000圓ニシテ1,500,000圓ハ拂込済ナリ。産額(單位應)

1929年	19
1928	—
1927	129

### 株式會社神戸製鐵所

神戸製鐵所ハ高速鋼及錐用ノ高級品ヲ産出ス。産額ハ次ノ如シ。(單位應)

1929年	2,291	1925	1,125
1928	1,353	1924	1,302
1927	1,103	1923	482
1926	818	1921	273

### 川崎車輛株式會社

自家用ノ少量ノ特殊鋼ヲ産シ1929年ニ169應ヲ製造セリ。日本ニ於ケル鑄ザル鋼ノ最初ノ特許者ナリ。

### 神戸三菱造船所

三菱造船所ノ資本金ハ50,000,000圓ニシテソノ内30,000,000圓ハ拂込済ナリ。神戸工場ニ於テ少量ノ特殊鋼ヲ産ス。1929年ノ産額ハ64應ナリ。

### 株式會社米子製鐵所

米子製鐵所ハ鑄印「ルツボ鋼」、高速鋼等ヲ産ス。1903年3月ニ創設セラレ現在ノ資本金ハ1,250,000圓ニシテソノ内1,091,475圓ハ拂込済ナリ。産額次ノ如シ。(單位應)

1929年	158
-------	-----

1928	129
1927	85

### 株式會社安來製鐵所

コノ會社ハ1899年2月ニ設立サレ資本金1,000,000圓中650,000圓ハ拂込済ナリ。高速鋼、鋸、合金鐵、「パネ」ヲ製造ス。但シ産額ハ僅量ナリ。(單位應)

1929年	51
1928	160
1927	40

### 株式會社唐津製鐵所

コノ會社ハ1917年10月ノ創設ニカカリ、資本金1,000,000圓中625,000圓ハ拂込済ナリ。鐵物、火造物及僅量ノ特殊鋼ヲ産ス。産額(單位應)

1929年	43
1928	86
1927	40

上記ノ諸會社ノ産出スル各種ノ特殊鋼ヲ強ヒテ詳細ニ分類シテ表示セザルヲ妥當ナリトス。何トナレバ多數ノ製造會社ハスコブル小規模ノモノニシテ相互ニ激シキ競争ヲナシ嫉妬深ク、ソノ産額ニ對スル確實ナル資料ヲ得難キニヨルヲ以テナリ。

## 雜 錄

### 1 火造物

粗製及精製ノ火造物ヲ産スル主要ナル製造會社ハ下記ノ如シ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 株式會社日本製鐵所
- 3 株式會社大島製鐵所
- 4 東京鋼材株式會社
- 5 日本特殊鋼合資會社
- 6 株式會社大同電氣製鐵所
- 7 株式會社住友製鐵所
- 8 株式會社神戸製鐵所
- 9 川崎車 株式會社
- 10 神戸三菱造船所
- 11 株式會社米子製鐵所



- 12 日本製鋼所廣島工場
- 13 株式會社唐津製鋼所
- 14 三菱造船所長崎電氣製鋼所
- 15 三菱造船所長崎工場

コレ等ノ諸會社ノ1929年ニ於ケル火造物ノ總産額ハ38,450吨ニシテ、ソノ以前ニ於ケル年産ヲ表示スレバ下記ノ如シ。(單位吨)

1928年	31,968	1925	24,743
1927	25,475	1924	29,586
1926	24,353	1923	21,840

多數ノ工場ニテハ粗製火造物ヲ精製シテ自家用ノ機械ヲ製造スルニ用フ。カカル作業ヲ行ヘル會社ハ日本製鋼所、住友製鋼所、川崎車輛、大島製鋼所、三菱造船所ナリトス。

## 2 鑄物

鑄鐵ヲ製造スル主ナル會社ハ下記ノ如シ。

- 1 八幡製鐵所
- 2 株式會社日本製鋼所
- 3 釜石鑄山株式會社
- 4 株式會社大島製鋼所
- 5 日本鑄鋼株式會社(東京)
- 6 日本鑄造株式會社
- 7 株式會社大同電氣製鋼所
- 8 株式會社小松製作所
- 9 昭和特殊鋼合資會社
- 10 株式會社住友製鋼所
- 11 日本鑄鋼株式會社(大阪)
- 12 株式合資會社羽室鑄鋼所
- 13 大阪製鐵株式會社
- 14 公共電氣鑄鋼所
- 15 株式會社神戸製鋼所
- 16 川崎車輛株式會社
- 17 三菱造船所(神戸)
- 18 株式會社米子製鋼所
- 19 日本製鋼所廣島工場
- 20 株式會社淺野小倉製鋼所

21 戸畑鑄物株式會社

22 株式會社唐津製鋼所

23 三菱造船所長崎工場及同電氣鋼工場

上記ノ各工場ヨリ産出セシ鑄物ノ總産額次ノ如シ。(單位吨)

1929年	49,224	1925	36,188
1928	48,675	1924	27,139
1927	43,145	1923	30,011
1926	41,652		

## 3 鋸及ボルト

鋸及「ボルト」ヲ製造スル群小ノ製作者アレトモ八幡製鐵所及東京鋼業ハ特ニソノ産額多ク重要ナルモノナリ。1930年ノ八幡産ハ次ノ如シ。(單位吨)

ボルト及ナツト	628
鋸	573
ナツト	39
ドーム、リング	13
リング	30

## 4 車輪及車軸

主要ナル製造會社ハ八幡製鐵所、住友製鋼所、川崎車輛、神戸三菱造船所ナリ。1930年ニ於ケル八幡産ハ次ノ如シ。

車輪	4,381吨
車軸	2,016”

## 5 窓枠

東京鋼鐵製作所及日本特殊鋼合資會社(兩者共東京府南葛飾郡大島町ニアリ)ニテ製造サル、又兩社ハ「バネ」ヲモ産ス。

## 6 導水管

日本ニ於テ導水管ヲ製スル唯一ノ會社ハ三菱造船所(神戸及長崎)ニシテ1930年神戸工場ニ於ケル産額ハ1,258吨ナリ。

## 7 鑄鐵管

主ナル製作者ハ大阪ニ於ケル栗本製鐵所ト尼ヶ崎ニ於ケル久保田鐵鋼所トス。特ニ後者ハ世界各國ノ同業者ト競争シ「スラバヤ」水道工事に使用スル鐵管ヲ供給スル契約ヲ行ヒテヨリ世界的ニ著名ナルモノトナレリ。



8 薄板抗打

八幡製鐵所ハ自力ニテ薄板抗打ノ市場ヲ1931年3月ニ完全ニ獨占スルニ至レリ。製造能力ハ毎月2,000噸ニ達シ全ク輸入品ヲ驅除シ、「ジイメンスシユケルト」及「ベツトレヘム」鐵鋼會社ハ甚大ナル影響ヲ蒙レリ。

釘 及 針 金

日本ハ1929年ニ於テ釘ノ輸入ヲ斷テリ。今ヤ民間業者ニ於テ國內ノ需要ヲ充シ近キ將來ニ於テハ輸出スルニ至ラン。次表ハ1924—1928年ノ釘及針金ノ原料供給ヲ示セルモノナリ (單位噸)

年別	八幡産	民間會社産	家庭産	輸入額	總計
1924	29,117	9,898	39,015	88,242	127,257
1925	36,232	12,964	49,169	51,319	100,515
1926	28,779	6,024	34,803	117,971	152,774
1927	49,032	5,395	54,427	109,090	163,517
1928	50,769	6,820	53,539	172,644	230,233

1926年3月ニハ針金原料ニ關スル關稅ハ15%ヨリ18%ニ改メラレタリ。1923年9月17日ヨリ翌年3月31日迄ハ地震及火災救済ノタメ一時關稅ハ課セラレサリキ。

釘及針金ノ輸入及需要ハ次表ノ如シ。(單位噸)

年別	釘	鍍金釘	計
1924	37,301	1,901	39,102
1925	591	1,409	2,000
1926	806	1,450	2,204
1927	590	1,797	2,207
1928	953	1,974	2,927

年別	針金	鍍金針金	計
1924	2,048	137,809	139,857
1925	672	22,066	22,733
1926	1,413	35,230	36,643
1927	1,337	10,712	12,049
1928	2,447	7,017	9,464

1924年ニ於ケル釘及針金ノ輸入ノ特ニ多量ナリシハ特別ナル需要ニヨルヨリモ寧ロ無關稅ナリシニヨルモノナリ。1926年3月ニハ釘ノ關稅ハ100斤ニツキ1.9圓ヨリ2.6圓ニ改メラレタリ。

1926年ニハ關稅ノ増率ト家庭産ノ増加ニヨリ輸入ハ減少ノ傾向ヲ示セリ。

針金及釘ノ消費額ハ次表ノ如シ。(單位噸)

1924	1925	1926	1927	1928
------	------	------	------	------

供給セシ針金	127,257	100,515	152,774	163,517	230,233
輸入セシ釘	178,959	24,738	38,902	14,346	12,624
計	306,216	125,253	191,676	177,863	242,857

増加率 (1924—1925年ヲ除ク) ハ毎年釘ハ14%、針金ハ10%ナリ。然シ將來ニ於ケル増加率ノ如何ハ關東震災復興計畫ノ完成ト現政府ノ節約政策ナル相背馳セル2原因ニヨツテ、豫想スルハ全ク不可能ナリ。釘ノ産額次ノ如シ

場 所	工 場 機 械 (箇數)	生産能力 (噸)	使用原料 (噸)
九 州	1	40,000	32,000
大 阪	80	150,000	121,500
廣島、名古屋其他	10	6,000	5,000
東 京	7	12,000	8,500

九州ニ於ケル安田商事株式會社ハ最大ナル設備ヲ有スル製釘工場ニシテソノ生産能力ハ斷然日本ノ首位ヲ占ム。同社ハ八幡製鐵所ノミヨリ原料ヲ購入ス。他ノ製作者ハ主トシテ大阪ニ於ケル輸入針金ヲ使用ス。針金ノ製造能力ハ次ノ如シ。

場 所	針 金 工 場 數	生産能力 (單位噸)
	鍍 金	鋼
大 阪	12	85,000
東 京	1	15,000
	鋼	鍍 金
	3	40,000
	15	35,000

總計工場數ハ40、生産能力ハ鍍金針金年産100,000噸鋼鐵針金75,000噸ナリ。

釘類ノ製造ハ大部分大阪附近ニ於テ行ハル。ソノ他補強「コンクリート」道路用「ネット」ニ使用スル針金ヲ製造スルモノナリ。

最近日本ニ於ケル針金ノ消費額ハ約210,000噸ト推定サレテ斯業ニ従事スル群小ノ會社ハ決シテ樂觀スヘキモノニアラスト考ヘラル。

日本ニ於ケル主ナル製釘會社ハ下記ノ如シ。

森 製 釘 所	尼ヶ崎市築地町
太 田 製 釘 所	同
昭 和 製 釘 所	同 初島
中 山 製 釘 所	同 大洲町
海 邊 製 釘 所	同 初島
丸 見 製 釘 所	同
尼ヶ崎製釘所	同 大洲町
上 田 製 釘 所	尼ヶ崎市初島
多 田 製 釘 所	兵庫縣武庫郡鳴尾町
大 原 製 釘 所	同 川邊郡小田町
上 野 製 釘 所	同
藤 内 製 釘 所	大阪市西成區千本通



大阪製線工場	同
小林製釘所	大阪市港區
大阪製釘所	同
田中製線	大阪市西成區南海町
山本製釘所	同 此花區大開町
石井製釘所	同 浪花區稻荷町
武石製釘所	同 浪花區
小田製釘所	同 東成區中道町
大和製釘所	大阪市西成區中開町
和氣製釘所	同 東成區中本町
坂野製釘所	大阪府南河內郡三日市
三日市製釘所	同
日ノ出製線會社	同
攝津鐵線	大阪市此花區大開町

大阪市及ソノ附近ニ存在セル製釘及製線機械ノ數ハ次ノ如シ。

所有セル機械總數	810	300
操業休止ノ”	52	20

東京市ニ於ケル工場ハ

大崎工場	芝區田町二丁目
山田製線所	西巢鴨町池袋867

コレ等ノ會社ハ毎月2,920噸ノ原料ヲ使用シ、全生産能力ハ毎月5,000噸ヲ有ス。

松本製釘所	廣島市
廣島金釘所	同
吉田製釘所	名古屋市
日本製釘所	同
安田製釘所	九州八幡市

420箇ノ製釘機ト250箇ノ製線機ヲ有ス。

鍍金針金ノ製造會社ハ下記ノ如シ。

乾鐵線	尼ヶ崎市
和氣鐵線	同
攝津鐵線	同
日本亞鉛鍍金	大阪市西淀川區傳法町
日ノ出亞鉛	同 港區鶴町
吉田京之助	大阪府下布施町

昭和亞鉛鍍金	大阪府河內郡
大阪亞鉛鍍金	大阪市港區泉尾町

鋼線ノ製造會社ハ下記ノ如シ。

東京亞鉛鍍金株式會社	東京府南葛飾郡砂町
株式會社廣田製線所	東京市深川區千田町359
杉田製線所	同 本村町130
大澤製線所	東京府南葛飾郡砂町
大井製線所	東京府西巢鴨町2940
安達製線所	同 池袋長崎町
市村製線所	同 深川區海邊町903
羽田コンクリート工業所	同 荏原郡羽田
伊藤製線所	同 南葛飾郡龜戶町
池袋製作所	同 池袋
富士製線所	橫濱市磯子區

橫濱鐵業株式會社

東京製鋼株式會社川崎工場

日本電線	尼ヶ崎市
關西製鋼株式會社	岸和田市
東亞製鋼株式會社	同

總生産能力ハ毎月約7,000噸ヲ有ス。

大阪鐵線	大阪市北區
慎岡鐵線	大阪市港區石田町
武石鐵線株式會社	同 浪花區

小工場ヲ包括シテ大阪ニ於ケル生産能力ハ約3,500噸ヲ有ス。

日本ニ於テ製鐵業ニ消費セラルル原料ハ下記ノ如シ。(單位噸)

1929年

原料	鐵	鋼	其他	計
鐵 鑛 石	1,618,384	174,668	—	1,793,052
瀆 俺 鑛 石	77,070	47,044	—	134,114
石 灰 石	411,508	249,006	275	660,789
蒸 燒 石 炭	—	—	1,907,861	1,907,861
其 他 石 炭	1,997	630,941	1,010,774	1,643,721
コ ー ク ス	1,204,582	46,400	24,397	1,275,397
鉄 鐵	—	1,087,413	29,742	1,117,155
合 金	191	22,904	617	24,712



廢り鐵、軋鐵、其他	180,621	—	—	180,621
屑鐵	28,928	1,183,445	19,788	1,132,159
鐵砂	165	156	18	339
木炭	4,073	515	699	5,557
1928年				
原料	鉄鐵	鋼	其他	計
鐵鑛石	1,650,499	180,150	14	1,830,659
滿俺鑛石	68,080	41,020	20	109,120
石灰石	433,526	201,460	474	640,460
蒸燒石炭	—	—	1,797,889	1,797,889
其他ノ石炭	2,144	568,239	1,029,268	1,599,621
コークス	1,153,541	36,904	29,606	1,220,051
鉄鐵	—	1,041,867	27,267	1,067,134
合金	73	19,079	122	19,274
廢り鐵、軋鐵、其他	126,716	—	—	126,716
屑鐵	24,251	1,030,047	15,113	1,069,411
鐵砂	1,439	268	136	1,843
木炭	1,046	715	978	2,739

世界ニ於ケル製鋼ノ産額次表ノ如シ (單位噸)

	1929	1928	1927
合衆國	56,992,000	52,368,000	44,653,000
カナダ	1,498,000	1,259,000	921,000
英吉利	9,977,000	8,661,000	9,244,000
佛蘭西	9,677,000	9,497,000	8,229,000
白耳義	4,170,000	3,933,000	3,703,000
ルクセンブルグ	2,707,000	2,566,000	2,469,000
伊太利	2,184,000	1,962,000	1,594,000
西班牙	965,000	800,000	670,000
瑞典	685,000	576,000	498,000
獨逸	16,459,000	14,513,000	16,306,000
埃太利	650,000	636,000	559,000
ポルトガル	543,000	485,000	471,000
チエツコ・スロバキヤ	2,184,000	2,082,000	1,874,000
ポーランド	1,442,000	1,436,000	1,245,000
露西亞	4,073,000	4,257,000	3,720,000
ザルト・ベージン	2,235,000	2,072,000	1,874,000
濠洲	657,000	469,000	455,000
英領印度	579,000	416,000	584,000
日本	2,293,000	1,906,000	1,685,000
其他各國	335,000	325,000	223,000
計	120,905,000	110,169,000	100,977,000

時事彙報

滿洲  
滿洲主要鑛山出産額統計表 (昭和8年)

例言

- 1 本統計ハ關東州及ビ滿洲國各省ノ主要鑛山ニツキ昭和8年(曆年)ノ出産額ヲ示セルモノナリ
- 2 滿洲ニ於ケル有用鑛物トシテ記載スベキモノハ金屬鑛物約6種非金屬鑛物約13種ニ達スルモ本表ニ於テハ主要鑛産物ノミニ止メソレニ直接關係アル生産物ヲモ加ヘタリ
- 3 會社關係並ニ整理セル社外鑛山ノ出産額ヲ除ク外ハ其ノ正確ナル數量ヲ知ルニ難ク從ツテ統計表ヲ作製スルニ當ツテモ其ノ現況ヨリ推定セリ
- 4 本表ニ掲ゲタル鑛山ノ外、尙土法採掘ニヨル數多ノ小鑛山アリ、又石炭及金ノ如キハ地方的ニ農閑ヲ利用シテ不定期ニ採掘スルモノアルヲ以テ總産額ハ若干増加スルモノト見ル可シ
- 5 鑛産地名ハ適宜其ノ鑛山名又ハ附近ノ主要地名ヲ掲ゲタリ
- 6 數量ノ單位ハ金ハ兩(我約10匁又ハ37.5瓦) 他ハ廳ヲ基準トセルモ、撫順、南昌、煙臺ノ各炭鑛ニテハ噸(1680斤)、復州炭鑛ニテハ英噸ヲ用ヒ居ル關係上本表ニ於テモ夫々ノ單位ヲソノママ使用トセリ  
本表中※印ヲ附セルハ容積ヨリ換算セルモノニシテ空際率ヲ40%ト見タリ、換算上用ヒタル比重ハ夫々石灰石2.5 矽石2.65 長石2.6 方解石2.715トシテ計算セリ
- 7 産額欄中ノ横線ハ稼行ヲ中止セルモノ又ハ出産額不明ノモノナレバ他日判明スルニ從ツテ補足スベシ
- 8 本統計表ハ本誌第80號記載滿洲鑛産統計表(昭和7年)ノ續編ナリ







省別	產地	出産額	省別	產地	出産額
奉天	鞍山	301,301	關東州	海城附近(管子峪)	62,430
	撫順	10,927		海城附近(宋家堡子)	
	西	—		海城附近(買家堡子)	
	杉	—		海城附近(青山寺)	
計	476,278	海城附近(山城子)			
10 油母頁岩			計		
奉天	撫順	2,683,440	15 苦灰石		
	計	2,683,440	關東州	大連管内	149,760
11 原油(頁岩粗油)			奉天	大石橋附近	16,057
奉天	撫順	87,076	合 計		
	計	87,076	16 石灰石(熔煉劑及セメント原料)		
12 菱苦土鑛			關東州	甘井子	422,204
奉天	大石橋附近(官馬山)	71,376	關東州	周水子	113,130
	海城附近(高麗城子)		關東州	旅順管内	2,304
	海城附近(平二房)		關東州	金州管内	* 3,300
	海城附近(青山杯)		關東州	普蘭店管内	—
	海城附近(聖水寺)		關東州	計	540,938
13 耐火粘土			奉天	火連寨	91,931
五煙本	湖嘴(復縣)	112,070	奉天	火連寨	58,171
	本溪湖	—	計	150,102	
計			合 計		
14 滑石			17 石 綿		
關東州	和尙屯	106	計		
關東州	計	106	18 硅 石(工業用原料)		
關東州	海城附近(大嶺)	—	計		
關東州	海城附近(楊家店)		—		

省別	產地	出産額	省別	產地	出産額	
關東州	大連管内	—	東州	普蘭店管内	* 3,400	
	金州管内	14,892		計	5,600	
	普蘭店管内	* 19,700	20 方解石			
計			35,592	關東州	大連管内	—
19 長 石			關東州	金州管内	* 900	
關東州	金州管内	* 2,200	計			
總 括						
鐵	鑛	1,176,643	石 炭	9,062,604	苦 灰 石	165,845
鉄	鑛	433,523	骸 炭	476,278	石灰石(熔煉劑及セメント原料)	691,040
硫 化 鐵	鑛	1,671	油 母 頁 岩	2,683,440	石 綿	106
鉛	鑛	—	原 油	87,076	硅 石(工業用原料)	35,592
銅	鑛	—	菱 苦 土 鑛	71,376	長 石	5,600
滿 銻	鑛	750	耐 火 粘 土	112,070	方 解 石	1,185
金	鑛(砂金)	17,811	滑 石	62,430		

### 濱北・齊北兩線沿線鑛產地概況

本文ハ當所哈爾濱在勤員内野技術員ノ蒐集セル鑛產地資料ヨリ摘記セルモノナリ(編輯者)

#### 1 鐵 鑛 縣

懷遠山、金牛山、馬鞍山一帶石炭產地

題記地方ニ於テ石炭ヲ産スルコトハ既ニ記載アリ、尙民國20年6月吉江兩省永業森林採木公司總統任鳳岐製作ノ圖及哈市「アミノフ」ノ報告等ニ依ルニ鉛、鐵、銅、石灰岩、金等ノ諸鑛産アリト稱セラレ「アーネルト」北滿鑛産誌ニ依レバ黑鉛ノ記載アリテ興味アル鑛產地帯ヲナセルモノノ如キモ未ダ具體的の記事ヲ見ズ。

本年黑龍江省實業廳ノ命ニヨリ鐵鑛縣公署ハ縣指導官、警務局長等ヲ現地ニ派シ豫備的調査ヲナサシメタリ。次ニ其ノ調査報告書ノ概要ヲ摘記ス。尙現地ハ交通極メテ不便ニシテ山中乘馬



ヲ許サズ、機械器具類ノ運搬亦不可能ニシテ僅ニ紙一挺ヲ携行シ得タルノミナリトイフ。

- 1 所在地 縣城東方約70支里ノ山中、懷犴山、金牛山、馬鞍山一帯
- 2 沿革 書類焼失セルヲ以テ主トシテ古老ノ記憶ニヨル。懷犴山ノ石炭ニ關シテハ光緒23年江省政府ニテ鐵礦ニ煤礦局ヲ設ケ金德純ナルモノヲ總辦トシテ派遣シ約400名ノ鑛夫ヲ用ヒテ採掘ヲ開始シ日採炭量約5噸ニシテ夏期ハ運搬不能ナルヲ以テ冬期大車ヲ用ヒ搬出セルモ運搬費多額ヲ要シ加フルニ經營宜シキヲ得ザリシ爲收支償ハズ光緒27年遂ニ採炭ヲ停止セリ。山中ニ採掘セルモ搬出セズ其ノ儘放置セルモノ430餘萬斤ニ上リ縣政府ノ保管ニ歸セリ。民國7年蘭西縣人德林泰ナル者經營許可ヲ得1斤ニツキ租稅600文ヲ納メ鑛夫約50名ヲ以テ採掘ヲ開始シ綏化、呼蘭方面ニ1斤1吊600文ニテ販賣セリ、然レドモ之亦運搬費多額ニ上リ開辦後2年ニ至ラズシテ採掘ヲ中止セリ。民國17年呼海鐵路局ニテ採炭ノ目的ニテ2回ニ亙リ鐵路敷設ノ爲測量ヲ採炭場迄行ヘルモ開鑛スルニ至ラズ。
- 3 採炭場附近ノ狀況 現場ニハ幅6米、縱約3米、深サ約3米ノ井戸跡ト覺シキモノ10餘箇アリ、以上一帯ハ既ニ直徑7.8寸ノ白樺、松及雜木密生シ居レリ、地表ヨリ平均5米ニテ炭層アルモノト思料サル。
- 4 炭質 一般ニハ無煙炭ナリト稱シ居ルモ確タルモノニ非ズ。今回縣調査員ノ持歸レルモノハ井戸中ヨリ掘リタルモノニテ昔時採掘セルモノヲ經營中止ニヨリ井戸ニ投ジタルモノノ一部ト思料サル。
- 5 炭層 懷犴山ハ1邦里ノ範圍ニ亙リ居リ炭層2層アリト稱セラル。他ノ山モ同様採掘サレ2層ヲナシ居ルト稱セラルルモ今回調査セズ、尙實業廳保管ノ試料ハ黑鉛ニ屬ス。

## 2 海 倫 縣

哈拉巴山石材產地

- 1 位置 海倫縣城東北約25軒海北鎮東方約23軒ノ地ニアル丘陵ニシテ一名馬鞍山ト稱ス
  - 2 石質 黑雲母花崗岩ニシテ中粒乃至粗粒質、淡紅褐色ハ赭色等ヲ呈シ海倫城內等ニ搬出セラレタルモノヲ觀ルニ尙比較的地表面近キ部分ヲ採取セルモノノ如ク鑄、疵等稍多クシテ外觀美ナラズ、主トシテ土木用材トシテ使用セラレ居ルモノノ如シ。
  - 3 石量 不詳ナルモ同岩石ノ分布範圍ハ延長約3—4軒ニ亙ルト稱セラルルヲ以テ相當量ノ埋藏アルモノト推測セラル。
- 尙、本縣内ニハ淳河、火青山、東山等砂金地トシテ報セラル。

## 3 通 北 縣

A 南北河河源地方饅頭山石炭產地

本石炭產地ニ關シテハ既ニ昭和6年4月支那鑛業時報上ニ黑龍江省海倫縣炭礦調査報告トシテ

當時江省農礦廳技師韓樹棠ノ報告抄録セラレタリ。今次ノ調査ニ於テ聞知スルところニ依レバ同地ハ通北縣内ニ屬スル如ク同人調査後ノ情況ト認メラルルモノ若干ヲ得タレバ茲ニ夫等ヲ綜合概記セバ次ノ如シ。

- 1 位置 通北縣城南東方約110軒、海倫縣城北東東約90軒、訥謨爾河上流南北河河源地域(易起松河河岸)ニシテ東大青山内俗ニ饅頭山ト稱セラルル地ニ在リ、但シ圖上ニ於ケル的確ナル位置ハ尙不詳ナリ。
  - 2 交通 濱北沿線海倫縣城ヨリスルヲ順路トシ黑泥河及海倫河ニ沿ヒテ富海店、莊家店、老道店(海倫ヨリ約150支里)ヲ經テ現地ニ至ルモノニシテ他ニ通北、海倫兩站中間タル宋家站ヨリ通背河ニ沿ヒテ對面店ニ至リ更ニ現地ニ至ル徑路アリ。何レモ夏季ハ道路泥濘深ク特ニ後者ハ濕地漲水多ク通過困難ニシテ何レヲトモ途中現地公共交通調査上秋期10、11兩月頃ヲ以テ最良ノ時期トナスモノノ如シ。之等通路ハ尙現在附近ニ散居スル小匪團ノ往來路ヲナシ治安未ダ充分ナラズ尙トモ2、30名程度ノ警備ヲ必要トス。
  - 3 沿革 舊記、書類等ノ確實ナルモノヲ得ラズ詳細ノ事情判然セザルモ本產炭地ノ知ラレタル既ニ民國14年頃ト稱セラレ17、18兩年既ニ原始的方法ニ依ツテ多少採炭サレ若干(馬車3、40臺内外)ハ海倫方面ニ向ケ輸送サレタル事アリトイフ。爾後一時放棄セラレ後民國19年ヨリ約3箇年間當時ノ實業廳手ニヨリテ試錐探鑛ヲ行ヒタルコトアリ。韓樹棠ノ調査ハ恐ラク本試錐ニ先チテ行ハレタルモノナルベク其ノ地質的結論ヲ觀ルニ炭層ハ饅頭山ノ北側、地表下3—4尺ニ在リテ砂層中ニ介シ厚サ5.6寸ニ過ギズ、走向東南西北ナルモ結局試錐ヲ施サザレバ其ノ價値ヲ判別シ難シト云ヘリ。
  - 4 炭層賦存狀態及現狀 畢竟上記韓樹棠ノ調査報告ヨリ推スルニ產炭地附近ハ夾炭層ノ外ニ石英粗面岩、粗面岩等ノ酸性火山岩ノ噴出セルモノアル如ク夾炭層ハ比較的低地ニ存シ地表ヨリ其ノ露頭ヲ認メ難キモノノ如ク炭層賦存狀態ニ關シテハ一ニ試錐結果ニ依ラザルベカラザルモノト看ラル。該試錐ニ關シテハ現在哈爾濱在住(傅家甸景陽街中學旅館)姜榮堂ナルモノ稍當時ノ事情ニ通セルヲ以テ同人ノ言ニヨルニ試錐ハ手動機ニヨリ試錐箇所數12、深度16丈内外ニシテ當時之ニ依ツテ認メラレタル炭層ハ大小計9枚ニシテ内7—8尺乃至1丈ノ厚層ヲナスモノ6層、2—3尺内外ノ薄層3層アリテ炭質何レモ良好ナリト稱ス。又恐ラク試錐以前ノ事ナラムト思料セラルル一説ニ依レバ炭層數2枚ニシテ上層2尺餘、下層4—5尺餘アリトイフ。之等數字ハ勿論確實ナル試錐記録ヲ缺クヲ以テ今遽ニ信ヲ置キ難キモ尙行可能程度ノ炭層ガ若干存在スベキコトハ期待シ得ベキコトナルベシ。該試錐中止後現在迄ハ全然放棄狀態ニアリテ當時試錐ニ關與セン工人馬子良ナルモノ(同人ハ試錐記録等ヲ所有セリトイフ)現地ニ居住スルノミナリ。
- 最近大同2年及康德元年通北縣ヨリ兩回警察隊員ヲ派シタルモ纔ニ試料若干ヲ採取セルニ止マリ炭層賦存狀態ニ關シテハ何等ノ報ヲ得ズ。



炭質ハ今次採取セル試料ノ通北縣公署ニ僅ニ殘レルモノニツキテ見ルニ可ナリ良質ノモノナルガ如シ。

現在舊採掘跡等ハ殆ド埋沒被覆セラレ居ルモノノ如ク將來精査ヲナスニ當リテハ試錐機等ノ準備ヲ要スルモノト思惟セラル。要スルニ本產炭地ノ價值ハ從來ノ情報ノ範圍ニテハ尙未知數ニ屬スルモノ今回調査地域内各地ノモノニ比シ稍興味ヲ有シ得ルモノニシテ充分ナル調査ヲ要スルモノト認メラル。

B 尙本產炭地隣接地ニハ金鑛(山金)產地アリト稱セラル。

#### 4 龍 鎮 縣

A 朝陽山砂金產地

北安鎮ノ北方約130軒從來30乃至40名ノ土匪等入りテ盜掘セリトイフ。

B 龍鎮附近石灰岩產地

北安鎮電報局員某氏ノ報ニヨル產狀其ノ他未詳

C 北安鎮附近石炭產地(?)

北安在住電報配達夫某、龍鎮、通北兩縣縣境附近(通北縣内、四架房附近、呼裕爾河河岸?)ニ於テ石炭様ノ物ノ成層セルヲ認メ持歸リテ點火セルニ燃焼シタリトイフ。

同地附近ノ地質ハ北安ニ於ケル鑿井其ノ他ノ資料ニヨルニ頁岩質岩石ヲ主トセル堆積岩累層ヨリ構成サルルモノノ如ク右ノ所謂石炭其ノモノノ價值ハ全ク不明ナルモ之等ノ地層ガ夾炭層タリ得ベキ材料トシテ看レバ多少注意ニ値スベキモノナルベシ。

#### 5 克 山 縣

A 奉天屯石炭產地

克山縣内泰安鎮北方約10軒奉天屯ニ於テ石炭ヲ産シタルコトアルモ現時全然放置状態ニアリ、本產地ハ既ニ1929年譚、王兩氏ニヨリ記載(地質彙報第13號)サレタル政字28號井煤田ノ西方ニ近接シ同系ニ屬スルモノナラムト考ヘラル。但シ該28號井煤田ニ關シテハ縣ニ於テハ全然資料ナシ。

#### 6 布 西 縣

布西附近石材產地

1 位 置 布西縣布西ノ西方約12軒嫩江ノ一支流ヲ隔ル約0.5軒餘ニシテ舟運ノ便アリ

2 石 質 花崗岩

3 石 量 不詳ナルモ賦存地域ハ方4軒ニ亙ルト稱セラル。

## 滿 洲 炭 礦 株 式 會 社 法

- 第1條 政府ハ國內ニ於ケル石炭礦業ノ開發統制ヲ爲ス爲滿洲炭礦株式會社ヲ設立スルモノトス
- 第2條 滿洲炭礦株式會社ハ石炭ノ採掘及販賣ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル股份有限公司トス  
滿洲炭礦株式會社ハ實業部總長ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ニ營ムコトヲ得
- 第3條 滿洲炭礦株式會社ハ本店ヲ新京ニ置ク
- 第4條 滿洲炭礦株式會社ノ資本ノ額ハ千六百萬圓トス
- 第5條 滿洲炭礦株式會社ノ株式ハ記名式トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス
- 第6條 滿洲炭礦株式會社ノ株式ハ會社ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ
- 第7條 政府ハ石炭ノ礦業權其ノ他石炭礦業ニ關スル財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
- 第8條 滿洲炭礦株式會社ノ株主ハ一株ニ付一個ノ議決權ヲ有ス
- 第9條 滿洲炭礦株式會社ニ理事長、副理事長、各一人理事六人以内及監事四人以内ヲ置ク
- 第10條 理事長ハ滿洲炭礦株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス  
副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ行フ  
理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ  
副理事長ハ理事長ヲ輔佐シ滿洲炭礦株式會社ノ業務ヲ掌理ス  
理事ハ理事長及副理事長ヲ輔佐シ滿洲炭礦株式會社ノ業務ヲ掌理ス  
監事ハ滿洲炭礦株式會社ノ業務ヲ監査ス
- 第11條 理事長、副理事長、理事及監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス  
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年監事ノ任期ハ二年トス
- 第12條 理事長、副理事長及理事ハ實業部總長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ何等ノ名稱ニ拘ラズ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ
- 第13條 實業部總長ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ滿洲炭礦株式會社ヲシテ其ノ業務若クハ財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ官吏ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトヲ得
- 第14條 實業部總長ハ滿洲炭礦株式會社ノ業務ニ關シ監査上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第15條 實業部總長ハ滿洲炭礦株式會社ノ業務ニ關シ公益ノ増進又ハ石炭事業ノ統制ヲ圖ルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第16條 滿洲炭礦株式會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ豫メ之ヲ實業部總長ニ提出シ認可ヲ受クベシ
- 第17條 理事長、副理事長、理事、監事ノ選任及解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、



- 合併並ニ解散ノ決議ハ實業部總長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ
- 第18條 滿洲炭礦株式會社ハ實業部總長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ石炭礦業ヲ讓受ケ又ハ其ノ經營ヲ委託ヲ受クルコトヲ得ズ
- 第19條 滿洲炭礦株式會社ハ實業部總長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ所有スル重要財産ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ
- 第20條 滿洲炭礦株式會社ハ實業部總長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止若クハ休止シ又ハ其ノ經營ヲ委託スルコトヲ得ズ
- 第21條 實業部總長ハ滿洲炭礦株式會社ノ決議法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得  
實業部總長ハ滿洲炭礦株式會社ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ノ行為法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得、理事長、副理事長、理事又ハ監事實業部總長ノ命令ニ違反シタルトキ亦同ジ

附 則

- 第22條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第23條 政府ハ設立委員ヲ命ジ滿洲炭礦株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
- 第24條 設立委員ハ定款ヲ作成シ實業部總長ノ認可ヲ受クベシ
- 第25條 株式總數ノ引受アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク株金ノ拂込ヲ爲サシムベシ  
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ
- 第26條 設立委員ハ滿洲炭礦株式會社ノ設立登記ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ事務ヲ理事長ニ引渡スベシ

滿 洲 採 金 株 式 會 社 法

- 第1條 政府ハ採金事業ノ開發經營ニ當ラシムル爲滿洲採金株式會社ヲ設立スルモノトス
- 第2條 滿洲採金株式會社ハ別ニ定ムル地域ニ於テ金礦ノ探掘及製鍊ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル股份有限公司トス  
滿洲採金株式會社ハ實業部大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得
- 第3條 滿洲採金株式會社ハ本店ヲ新京ニ置ク
- 第4條 滿洲採金株式會社ノ資本ノ額ハ千二百萬圓トス
- 第5條 滿洲採金株式會社ノ株式ハ記名式トシ一株ノ金額ハ五十圓トス
- 第6條 滿洲採金株式會社ノ株式ハ會社ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

- 第7條 政府ハ其ノ有スル金礦ノ鑛業權ヲ以テ出資ニ充ツルコトヲ得
- 第8條 滿洲採金株式會社ノ株金ノ第一回拂込ノ額ハ之ヲ株金ノ四分ノ一迄ニ下スコトヲ得
- 第9條 滿洲採金株式會社ノ株主ハ一株ニ付一箇ノ議決權ヲ有ス
- 第10條 滿洲採金株式會社ニ理事長、副理事長各々一人、理事五人以内及監事三人以内ヲ置ク
- 第11條 理事長ハ滿洲採金株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス  
理事長事故アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ行フ  
副理事長ハ理事長ヲ輔佐シ滿洲採金株式會社ノ業務ヲ掌理ス  
理事ハ理事長及副理事長ヲ輔佐シ滿洲採金株式會社ノ業務ヲ掌理ス  
監事ハ滿洲採金株式會社ノ業務ヲ監査ス
- 第12條 理事長、副理事長、理事及監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス  
但シ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ就任スルコトヲ得ズ  
理事長、副理事長及理事ノ任期ハ三年監事ノ任期ハ二年トス
- 第13條 理事長、副理事長及常務ニ從事スル理事ハ實業部大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ
- 第14條 實業部大臣必要ト認ムルトキハ何時ニテモ滿洲採金株式會社ヲシテ其ノ業務若ハ財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ官吏ヲシテ之ヲ検査セシムルコトヲ得
- 第15條 實業部大臣ハ滿洲採金株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第16條 實業部大臣ハ滿洲採金株式會社ニ對シ公益ノ増進又ハ金礦資源ノ保護ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第17條 滿洲採金株式會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ豫メ之ヲ實業部大臣ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ
- 第18條 理事長、副理事長、理事、監事ノ解任、定款ノ變更、利益金ノ處分、社債ノ募集、合併並ニ解散ノ決議ハ實業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ
- 第19條 滿洲採金株式會社ハ實業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ有スル鑛業權若ハ重要ナル財産ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ
- 第20條 滿洲採金株式會社ハ實業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ採金事業ヲ讓受ケ又ハ其ノ經營ヲ委託シ若ハ受託スルコトヲ得ズ
- 第21條 滿洲採金株式會社ハ實業部大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ事業ヲ廢止又ハ休止スルコトヲ得ズ
- 第22條 實業部大臣ハ滿洲採金株式會社ノ決議法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得  
實業部大臣ハ滿洲採金株式會社ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ノ行為法令若ハ定款



=違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得。理事長、副理事長、理事又ハ監事實業部大臣ノ命令ニ違反シタルトキ亦同ジ

第23條 滿洲採金株式會社ハ營業年度毎ニ利益金ヨリ左ノ各號ニ掲グル金額ヲ控除シタル殘額ノ二分ノ一ヲ政府ニ納付スベシ

- 1. 利益金ノ百分ノ十五ニ相當スル金額
- 2. 拂込ミタル資本ノ額ノ百分ノ八ニ相當スル金額

前項ノ殘額ノ他ノ二分ノ一ガ拂込ミタル資本ノ額ノ百分ノ二ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタル額ノ四分ノ三ニ相當スル金額ハ更ニ之ヲ政府ニ納付スベシ

第24條 第7條ノ規定ニ依ル營業權ノ移轉ニ關スル登録稅及登録手数料ハ之ヲ免除ス

附 則

第25條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第26條 政府ハ設立委員ヲ命ジ滿洲採金株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第27條 設立委員ハ定款ヲ作成シ實業部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第28條 株式總數ノ引受アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク株金ノ拂込ヲ爲サシムベシ  
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第29條 設立委員滿洲採金株式會社ノ設立登記ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ事務ヲ理事長ニ引渡スベシ

滿洲採金株式會社ノ事業區域ニ關スル件(勅令第39號)

滿洲採金株式會社法第2條第1項ニ依ル區域左ノ通定ム

吉林省、黑龍江省、興安省	}	興安東分省
		興安北分省

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

滿 洲 石 油 株 式 會 社 法

第1條 政府ハ國內ニ於ケル石油資源ヲ確保シ需給ノ調整ヲ圖ル爲滿洲石油株式會社ヲ設立セシム

第2條 滿洲石油株式會社ハ石油ノ探掘精製及賣買ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル股份有限公司トス

滿洲石油株式會社ハ主管部總長ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得

第3條 滿洲石油株式會社ハ本店ヲ新京ニ置ク

第4條 滿洲石油株式會社ノ資本ノ額ハ金五百萬圓トシ内金百萬圓ハ政府ノ出資トス

第5條 滿洲石油株式會社ノ株式ハ記名式トシ一株ノ金額ヲ五十圓トス

第6條 滿洲石油株式會社ノ株式ハ會社ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ズ

第7條 滿洲石油株式會社ノ株金第一回拂込ノ額ハ之ヲ株金ノ四分ノ一マデニ下スコトヲ得

第8條 滿洲石油株式會社ノ株主ハ一株ニ付一箇ノ議決權ヲ有ス

第9條 滿洲石油株式會社ニ理事長副理事長各一人理事八人以内及監事三人以内ヲ置ク

第10條 理事長ハ滿洲石油株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ綜理ス

理事長事故アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ行フ

理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ

副理事長ハ理事長ヲ輔佐シ滿洲石油株式會社ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ理事長及副理事長ヲ輔佐シ滿洲石油株式會社ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ滿洲石油株式會社ノ業務ヲ監査ス

第11條 理事長副理事長理事及監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス

理事長副理事長及理事ノ任期ハ四年監事ノ任期ハ三年トス

第12條 滿洲石油株式會社ノ常務ニ從事スル理事ハ主管部總長ノ認可ヲ得ルニ非ザレバ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得ズ

第13條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ニ對シ石油資源ノ調査及石油ノ試掘ヲ命ズルコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ交付スルコトヲ得

第14條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ニ對シ政府ノ爲ニ石油類ノ買付ヲ命ズルコトアルベシ

第15條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ニ對シ價格ヲ指定シ所要ノ石油ヲ政府ニ納入スルコトヲ命ズルコトアルベシ

第16條 滿洲石油株式會社ハ主管部總長ノ指定スル所ニ從ヒ石油ノ貯藏ヲ爲スベシ

第17條 政府ハ滿洲石油株式會社監理官ヲ置キ滿洲石油株式會社ノ業務ヲ監察セシム

滿洲石油株式會社監理官ハ何時ニテモ滿洲石油株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

滿洲石油株式會社監理官ハ何時ニテモ滿洲石油株式會社ニ命ジテ營業上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

滿洲石油株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第18條 滿洲石油株式會社ハ營業年度毎ニ事業計畫ヲ定メ年度開始六十日前之ヲ主管部總長ニ提



出シ認可ヲ受クベシ

- 第19條 理事長副理事長理事監事ノ選任及解任定款ノ變更利益金ノ處分社債ノ募集合併並ニ解散ノ決議ハ主管部總長ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
- 第20條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
- 第21條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ノ業務ニ關シ軍事上又ハ公益上必要ナル命令ヲナスコトヲ得
- 第22條 主管部總長ハ滿洲石油株式會社ノ決議ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得  
主管部總長ハ滿洲石油株式會社ノ理事長副理事長理事又ハ監事ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認メタルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得理事長副理事長理事又ハ監事主管部總長ノ命令ニ違反シタルトキ亦同ジ
- 第23條 本法ニ於テ主管部總長トハ實業部總長及財政部總長ヲ謂フ

附 則

- 第24條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第25條 政府ハ設立委員ヲ命ジ滿洲石油株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
- 第26條 設立委員ハ定款ヲ作成シ主管部總長ノ認可ヲ受クベシ
- 第27條 株式總數ノ引受アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニツキ第1回ノ株金ノ拂込ヲ爲サシムベシ  
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ
- 第28條 設立委員ハ設立登記ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ事務ヲ理事長ニ引渡スベシ

滿洲國鑛業監督署ノ名稱、位置及管轄區域 (實業部令第11號 11月1日公布)

11月1日公布セラレタ鑛業監督署官制第12條ノ規定ニ依リ鑛業監督署ノ名稱、位置及管轄區域次ノ如ク定メラル。

奉天鑛業監督署(奉天市)

奉天市、瀋陽縣、遼陽縣、鐵嶺縣、營口縣、錦縣、安東縣、昌圖縣、海城縣、蓋平縣、新民縣、海龍縣、復縣、洮南縣、開原縣、東豐縣、西豐縣、西安縣、義縣、興城縣、綏中縣、鳳城縣、撫順縣、本溪縣、遼源縣、梨樹縣、懷德縣、黑山縣、北鎮縣、興京縣、莊河縣、法庫縣、遼中縣、臺安縣、彰武縣、盤山縣、錦西縣、通化縣、桓仁縣、輯安縣、輝南縣、柳河縣、清原縣、康平縣、

洮安縣、寬甸縣、通遼縣、岫巖縣、金川縣、安廣縣、開通縣、雙山縣、突泉縣、鎮東縣、瞻榆縣、阜新縣

新京鑛業監督署(新京特別市)

新京特別市、哈爾濱特別市、吉林、永吉縣、長春縣、扶餘縣、雙城縣、延吉縣、甯安縣、德惠縣、磐石縣、賓縣、榆樹縣、延壽縣、琿春縣、依蘭縣、汪清縣、伊通縣、農安縣、長嶺縣、舒蘭縣、雙陽縣、五常縣、阿常縣、珠河縣、葦河縣、和龍縣、敦化縣、樺川縣、富錦縣、方正縣、額穆縣、撫遠縣、東寧縣、穆稜縣、寶清縣、密山縣、樺甸縣、濛江縣、同江縣、鶴河縣、虎林縣、勃利縣、乾安縣、長白縣、臨江縣、安圖縣、撫松縣、北滿特別區區域中哈爾濱以東區域及以南區域

齊々哈爾鑛業監督署(齊々哈爾)

齊々哈爾、龍江縣、拜泉縣、克山縣、綏化縣、呼蘭縣、海倫縣、巴彥縣、肇東縣、肇州縣、訥河縣、泰來縣、蘭西縣、木蘭縣、望奎縣、瑯輝縣、青岡縣、安達縣、慶城縣、林甸縣、湯原縣、通河縣、通化縣、明水縣、依安縣、大賚縣、嫩江縣、蘿北縣、漠河縣、佛山縣、景星縣、龍鎮縣、綏稜縣、綏濱縣、烏雲縣、奇克縣、讷浦縣、呼瑪縣、甘南縣、泰康縣、克東縣、富裕縣、鐵嶺縣、東興縣、遜河縣、鳳山縣、德都縣、北滿特別區區域中哈爾濱以西區域

承德鑛業監督署(承德)

承德縣、灤平縣、豐寧縣、隆化縣、圍場縣、赤峰縣、建平縣、綏東縣、朝陽縣、凌源縣、凌南縣、平泉縣、寧城縣、青龍縣

備考 鑛業ノ區域ガ2以上ノ鑛業監督署ノ管轄區域ニ跨ガルトキ又ハ鑛業監督署ノ管轄區域ノ境界明確ナラザル爲管轄ニ付疑ヲ生ジタルトキハ實業部大臣管轄鑛業監督署ヲ指定スルモノトス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



支 那

山東省主要炭田年産統計表 (單位噸)

(山東省博山東和公司調べ)

炭坑名 年	博 山	淄 川	南 定	坊 子	章 邱	中 興	其 他	合 計
1902	110,000	—	—	9,178	—	—	—	119,178
1903	110,000	—	—	60,601	—	—	—	170,601
1904	160,000	—	—	100,631	—	—	—	260,631
1905	180,000	—	—	136,990	—	—	—	316,990
1906	200,000	14,646	—	164,437	—	66,768	—	445,851
1907	230,000	40,899	—	149,307	—	102,233	—	522,439
1908	190,000	72,467	—	250,214	—	97,732	—	610,413
1909	150,000	183,449	—	273,354	—	158,237	—	765,040
1910	250,000	237,544	—	193,497	—	139,727	—	820,768
1911	300,000	283,208	—	205,185	—	94,561	—	882,954
1912	310,000	299,652	—	126,215	—	101,230	—	837,097
1913	290,000	414,000	—	198,988	90,000	199,438	50,000	1,242,426
1914	300,000	397,253	—	139,024	50,000	236,046	50,000	1,172,323
1915	388,734	259,611	—	0	60,000	241,074	50,000	999,419
1916	365,288	458,368	—	0	70,000	349,399	100,000	1,343,055
1917	578,262	457,543	—	0	90,000	423,064	100,000	1,653,869
1918	636,159	402,814	—	43,004	130,000	518,593	100,000	1,830,570
1919	690,318	468,829	—	71,816	150,000	569,206	100,000	2,050,169
1920	779,970	485,990	—	133,436	140,000	695,353	100,000	2,334,749
1921	768,363	576,982	—	164,016	100,000	668,118	100,000	2,376,579
1922	921,950	619,552	—	93,000	80,000	780,488	150,000	2,644,990
1923	822,211	584,310	—	80,708	50,000	787,825	150,000	2,475,054
1924	1,003,431	706,959	—	123,407	20,000	865,608	150,000	2,869,405
1925	831,637	527,168	17,202	109,412	19,000	821,935	150,000	2,476,354
1926	810,246	528,745	84,926	88,541	21,000	603,439	150,000	2,286,897
1927	906,451	567,361	58,454	92,810	68,000	259,764	200,000	2,152,840
1928	1,542,160	531,622	66,490	71,266	56,581	0	200,000	2,468,119
1929	1,415,335	467,318	35,163	60,542	69,404	149,989	200,000	2,397,751
1930	1,103,845	352,988	31,083	62,238	93,070	355,501	200,000	2,198,725
1931	1,544,250	519,208	47,584	81,590	101,070	762,689	200,000	3,256,391
1932	1,388,430	542,194	15,400	108,048	115,600	800,000	200,000	3,169,672
1933	1,250,505	—	—	—	—	—	—	—

門 道 溝 炭 礦 近 況

門道溝無煙炭ノ産額ハ年々増加ノ傾向ヲ示シ、最近1箇年ノ産額ハ50餘萬噸ナリ。

1 埋 藏 量 約3千萬噸

2 炭 質

炭層ハ13層アリテコノ中採掘セルモノハ6層ナリ。即チ子兒線、黑煤大線、腰石線、明煤線、爆煤中線及青煤大線トス。小坑數多アレドモ明煤ヲ産スルモノハ多カラズ。明煤ハ分チテ塊煤(方5吋以上ノモノ) 碎煤(方3吋以上ノモノ) 碎煤(方1吋以上ノモノ) 末煤(方1吋以下ノモノ) トス。中英煤礦公司ニテハ5吋以上、3吋以上、1吋以上ノ3種ニ分ツモ其他ノ炭礦ニテハ塊、粉ノ兩種ニ分テリ。門道溝石炭ノ分析結果ヲ示セバ次ノ如シ。

種 類	水 分	揮 發 分	固 定 炭 素	灰 分	硫 黃	發 熱 量 (B.T.U)
明 煤 線	1.80	7.40	81.40	9.40	0.35	—
”	1.60	6.80	84.20	7.30	0.28	14,300
黑 煤 大 線	2.30	9.10	75.20	13.40	0.11	—
”	1.80	8.08	77.70	12.40	0.22	13,900
子 兒 線	3.10	7.60	76.00	13.30	0.20	—

3 産 額

本炭礦ハ機械採掘及土法採掘法ニヨル。機械採掘ノ規模最大ナルハ中英煤礦公司ニシテ1日約1,500噸出炭シ、通成公司ニテ販賣ス。廣福公司(即チ以前ノ治水公司ハ民國20年廣東人陳世華ノ引繼ニ係リ、資本金ハ當初14萬元ナリシモ、6萬元ヲ増資シテ20萬元トナレリ)ノ新坑ハ深サ540尺ニシテ明煤線ヲ採掘シ、現在1日150噸ヲ出スモ將來ハ500噸ノ出炭ヲ豫想シ得ベシ。平興公司(即チ以前ノ中興炭坑ニシテ、出水ノタメ水没シ、現在王子文等ノ經營ニ係ル。資本金45萬元ニシテ王家村ノ廣義炭礦ヲ合併セ經營ス)ハ現在1日約70餘噸ヲ出ス。コレ亦將來500噸ノ出炭ヲ豫想シ得ベシ。土法採掘ハ大部出水ノタメ水没シテ停止スルモ秋、冬ニ再開シ多キ時ハ200餘坑アルモ少ナキ時ハ3,4坑ニ過ギズ、平均約70坑ナリ。最近1日約1,300餘噸ヲ出ス。即チ門道溝全區ニテ現在1日ノ出炭約3,000噸ナリ。

4 原 價

門道溝各礦ハ互ニ競争ノ立場ニアル關係上、其ノ石炭原價ヲ知り難キモ推定セルモノヲ示セバ次ノ如シ。

	噸	元
中 興(現在平興公司ニ合併)	1	2.50
中 英	”	3.00
宏福及土窩	”	2.20

5 工 人

中英礦工ハ2,700人、土窩2,600餘人、平興120人、宏福300餘人、合計5,700餘人ナリ。勞銀ハ坑内夫1人4角—5角、坑外夫1人約5角ニシテ1日ノ作業ヲ3班ニ分チ1班ノ労働時間8時間ナリ。中英



ノ工人ハ多ク河南人ナルモ他ハ多ク河北人ナリ。

6 販 路

本炭ハ北平、天津ヲ主ナル市場トシ、平綏路沿線ニ出スモノハ多カラズ。又一部分ハ塘沽ヨリ上海、山東及日本ヘノ販路ヲ有ス。販賣價格次ノ如シ。

山 元 渡	シ	粉	炭	1 噸	元
"	"	碎	炭	"	2.80
"	"	塊	炭	"	3.50
北 平 渡	シ	粉	炭	"	5.50
天 津	"	粉	炭	"	5.60
					7.00

門道溝炭ハ塊3粉7ノ割合ナレド遠隔ノ地ニ搬出スルモノハ塊炭少シ。炭質良好ニシテ煉炭製造用及家庭用ニ適ス。平津市場ニ於テハ齊堂炭及南山炭(西山一帯ノ炭田ニシテ房山縣ニ在ルモノヲ南山ト稱シ平漢路ノ周口店及地里ヨリ移出ス。宛平門道溝ニアルハ北山ト稱ス)ト競争ノ立場ニアルモ、近年産額逐増シ販路擴張シツ、アリ。(續業週報302號)

湖 南 省 鑛 業 消 息

1 アンチモニー鑛

價格下落ノタメ往年1箇月ノ出産額1千餘噸ナリシモ本年ハ1箇月6百噸ニ減産セリ。省政府ハ該鑛業整理ノ見地ヨリ鑛ニ省令ヲ以テ本省1箇月ノ産額ヲ5百噸以內ニ制限セリ。

2 石 炭

本年ハ殊ニ斯業ノ發達ヲ見、南部、西部ノ各縣ハ採掘許可出願件數夥シク、省内ニ供給スル外尙ホ武漢方面ヘ搬出スルモノ尠カラズ。

3 タングステン鑛

各縣ニ産スルモ本年ハ價格下落ノタメ停工セルモノ多ク、1箇月ノ産額僅カニ數十噸ニ過ギザル状態ナリ。

4 鉛、亞鉛鑛

常寧縣ノ水口山ハ最モ大ナレド開採以來久シキニ互リ殘存鑛量少ナシ。本年1箇月平均産額ハ鉛約4百噸、亞鉛鑛7百噸ニシテ之ヲ以前ニ比較スレバ約3分ノ1ニ減少セリ。

5 亞鉛製練廠創設

省政府ハ本年亞鉛製練廠ノ創設ヲ計畫セリ。創設費21萬餘元ニシテ内10萬元ハ軍政部財源ヨリ流用シ製品ヲ以テ上半年内ニ償還スルコトトシ既ニ試験中ナリ。

6 金及鉛鑛ノ試掘

桃源縣ノ冷家溪、沅陵縣ノ金牛山、橫山灣等ノ金鑛及慈利縣ノ廖家山鉛鑛ハ調査ノ結果企業價値アリ、大規模ノ採掘ヲナスベシト。(續業週報274號)

廣 西 省 ノ 鑛 産

廣西省ニ於テ現在マデ發見サレタル鑛物ハ23種ニシテ67縣ニ分布シ、コノ中埋藏量判明セルモノ並ニ採行中ノモノ8種アリ、次ニ各縣別ニ概説スベシ。(廣西統計局「第一回廣西年鑑」ニ依ル)

各縣鑛産物埋藏量及公私鑛廠數

- 1 富 川 縣
  - 1 錫——白沙、廟塘子、水岩壩等ニ産シ、賀縣、鐘山兩縣ト相連ナル。合計埋藏量700萬噸ニシテ建設廳富賀鍾鑛務辦事處ノ採掘ニ係ル。
  - 2 銀——未詳。
  - 3 鉛——百沙ニ産ス。
  - 4 タングステン、モリブデン、ビスマス——黃板檢、茶冲、白石岩、平頭山等ニ産シ目下採掘中ナリ。
  - 5 石炭——未詳。
  - 6 砒——未詳。
- 2 賀 縣
  - 1 錫——賀街、半路墟、蓮塘、新村坪等ニ産ス埋藏量ハ富川縣ノ項參照ノコト。富賀鍾官鑛局及商鑛ニテ目下採掘中ナリ。
  - 2 金——車田、南鄉等ニ産ス。
  - 3 銀——照潭、崔木山、尖山頭ニ産ス。
  - 4 銅——南山ニ産ス。
  - 5 鐵——黃花崗ニ産ス。埋藏量6百萬噸、一商鑛ニヨリテ目下採行中ナリ。
  - 6 黃鐵鑛——六陵村ニ産ス。
  - 7 鉛——大南墟、開山ニ産ス。
  - 8 タングステン——龍山、天平山等ニ産ス。埋藏量ハ次項ノ鍾山縣ヲモ含ミ、合計30萬噸ナリ。一商鑛ニヨリテ目下採掘中ナリ。
  - 9 石炭——西灣ニ産ス。埋藏量200萬噸、官鑛局ニテ採掘中ナリ。
- 10 砒——地點未詳ナリ。一商鑛ニテ採掘中ナリト云フ。
- 3 鍾 山 縣
  - 1 錫——栗頭源、望高、松木寨等ニ産ス。埋藏量ハ富川縣ノ項ヲ參照ノコト。富賀鍾官鑛局及5商鑛ニテ目下採掘中ナリ。
  - 2 タングステン、モリブデン、ビスマス——爛嶺八卦田、金竹冲等ニ産ス。一商鑛ニヨリテ目下採掘中ナリ。
- 4 南 丹 縣
  - 1 錫——大廠、大山、灰羅、抗馬、長坡等ニ産ス。埋藏量ハ次項ノ河池縣ヲ含ミテ、合計23,100噸アリ。1官鑛局、及3商鑛ニテ目下採掘中ナリ。
  - 2 金——刁江上游ニ産ス。
  - 3 銀——未詳。
  - 4 鉛——太山、大廠、野車河等ニ産ス。
  - 5 タングステン——灰羅ニ産ス。
  - 6 アンチモニー——野車河ニ産ス。
- 5 河 池 縣
  - 1 錫——鹿洞、羅富、龍塘河、巴黎、龍頭等ニ産ス。埋藏量ハ前項南丹縣參照ノコト、南丹官鑛局ノ採掘ニ係ル。
  - 2 銀——未詳。
  - 3 アンチモニー——那背村、芙蓉村、八面山、寶石山、寶華山、牛尾山、平林里、天寶洞等ニ産ス。一商鑛ニテ目下採掘中ナリ。
  - 4 天然硝石——未詳。



6 博白縣

- 1 錫——周王堡、射廣障=産ス。二商鑛=テ探鑛中ナリ。
- 2 金——白沙江、金剛埔、竹埔、金村、新屋地、甲塘、黃池洞等=産ス。
- 3 黄鐵鑛——白沙江、水鴻溝、南面塘=産ス。
- 4 石綿——大旺堡、榕木鎮=産ス。
- 5 石炭——白沙江=産ス。

7 陸川縣

- 1 錫——地貢、洪馬埔、獨嶺等=産ス。二商鑛=テ探掘中ナリ。
- 2 鐵——順安、東堡等=産ス。

8 武宣縣

- 1 滿俺——三里區橫嶺、大長嶺、發財嶺、六朋、馬村灣、靈湖背、五官廟、老虎嶺等=産ス。埋藏量600萬噸、11箇所ノ商鑛アリ。
- 2 銅——平洞=産ス。
- 3 鐵——東鄉墟加尾=産ス。
- 4 鉛——江城村、樂梅=産ス。埋藏量100萬噸、一商鑛アリ。
- 5 アンチモニー——六保山=産ス。

9 桂平縣

- 1 滿俺——東區木貴埠、吉二里、大小尋村、小鄧村、周家村、靈石村、蟠田村、譚蓮塘、碧灘附近黃茅印、密屈埔、章祿山、鳳凰嶺、新村嶺等=産ス。商鑛區53處アリテコノ中稼行中ノモノハ18箇處ナリ。
- 2 銅——未詳。
- 3 鐵——官橋墟、金牌山=産ス。
- 4 磁土(陶土)——白土冲=産ス。一商鑛=ヨリ探掘中ナリ。

10 來賓縣

- 1 滿俺——酒谷嶺、牛欄山、六窮嶺、高椅、高坳、麟村等=産ス。商鑛區5箇處アリテ目下探掘中ナリ。

- 2 金——未詳。

- 3 石炭——鯉魚嶺=産ス。

11 柳州縣

- 1 滿俺——風門坳、吠夢嶺等=産ス。三鑛務公司=ヨリテ探掘中ナリ。

- 2 金——未詳。

- 3 銀——未詳。

- 4 鐵——白樂村附近=産ス。

- 5 石炭——新墟、古崗山=産ス。一鑛務公司=ヨリ探掘中ナリ。

12 宜山縣

- 1 滿俺——狗頭嶺、蛾眉嶺、喇墓嶺、橋巖山等=産ス。二鑛務公司=ヨリテ探掘中ナリ。

- 2 金——未詳。

- 3 銅——未詳。

- 4 アンチモニー——未詳。

- 5 水銀鑛——未詳。

- 6 石膏——洛西=産ス。

13 平南縣

- 1 滿俺——麥洞山=産ス。一鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 2 硫化鐵鑛——滑步坑=産ス。一鑛務公司=テ探掘中ナリ。

14 賓陽縣

- 1 ビスマス——高田、馬嶺、黎塘等=産ス。埋藏量60萬噸。13鑛務公司アリ。

- 2 タングステン——高田、馬嶺、黎塘等=産ス。埋藏量60萬噸。26鑛務公司アリ。

- 3 金——未詳。

- 4 銅——未詳。

- 5 滿俺——古板嶺=産ス。

- 6 アンチモニー——尖峯山=産ス。

- 7 電氣石——高田墟=産ス。

- 8 陶土——蘆墟附近=産ス。

15 奉議縣

- 1 金——中區隴光、隴浮、隴壽、隴桑、隴仰、隴馬、隴背、隴針、翁蘭、兵邦等=産ス。8鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 2 黄鐵鑛——隴週=産ス。

- 8 アンチモニー——中區隴光、隴浮、隴壽、嶺嶺、馱香村等=産ス。3鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 4 石炭——那波一帶=産ス。

16 武鳴縣

- 1 金——東區安金山、吧荒村、夏江、陶村等=産ス。10鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 2 銅——大明山=産ス。

- 3 鐵——未詳。

- 4 黄鐵鑛——北區=産ス。

- 5 鉛——六歸地方=産ス。

17 桂林縣

- 1 鉛——西關外鐵籠山、銀子山=産ス。2鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 2 亞鉛——鐵籠山、葛家塘=産ス。1鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 3 金——未詳。

- 4 銀——未詳。

- 5 銅——未詳。

- 6 鐵——未詳。

- 7 水銀鑛——未詳。

18 貴縣

- 1 鉛——三叉山、肖皇山、呈江、天平山等=産ス。

- 2 金——三叉山=産ス。

- 3 銀——三叉山、天平山=産ス。

- 4 銅——三叉山=産ス。

- 5 黄鐵鑛——六陵村=産ス。

- 6 タングステン、モリブデン、ビスマス——龍山、天平山=産ス。

- 7 アンチモニー——肖皇山=産ス。

- 8 砒——未詳。

- 9 石炭——三江口、六合口、樟木墟等=産ス。埋藏量3,500萬噸ナリ。

19 蒼梧縣

- 1 銅——東安鄉、漁塘村、金鷄山、石磨嶺、大密埔等=産ス。埋藏量360萬噸。1鑛務公司=テ探掘中ナリ。

- 2 金——祝洞、金星尾=産ス。

- 3 アンチモニー——未詳。

20 懷集縣

- 1 鐵——八甲堡、大小塘=産ス。埋藏量160萬噸ナリ。

- 2 金——東安司、安平司、金鷄山、黎老埔、北卡水=産ス。

- 3 石炭——未詳。

21 中渡縣

- 1 鐵——白寺、響水廠、六末、報貢、茄子弄、銅拐弄等=産ス。鑛務公司=テ探掘製鍊中ナリ。

22 羅城縣

- 1 鐵——龍岩公景村附近=産ス。埋藏量112萬5千噸ナリ。

- 2 黄鐵鑛——太平村=産ス。

- 3 石炭——寺門墟=産ス。埋藏量100萬噸ナリ。

- 4 石綿——三防=産ス。

23 義寧縣

- 1 アンチモニー——桐山、龍岩、大嶺、大嶺背、嶺背塘、蝦子嶺等=産ス。1鑛務公司=テ探掘中ナリ。



24 南 賓 縣(崑崙)

- 1 石炭—二塘、三塘等=産ス。
- 2 銀—佛砂嶺=産ス。
- 3 黄鐵鑛—蒲廟附近=産ス。
- 4 鉛—佛砂嶺、長塘=産ス。
- 5 タングステン、モリブデン、ビスマス—枯房山、石隈山等=産ス。
- 6 アンチモニー—未詳。

25 遷 江 縣

- 1 石炭—合山=産ス。埋藏量2,400萬噸ナリ。1礦務公司ニテ採掘中ナリ。
- 2 金—未詳。
- 3 天然硫黄—未詳。

26 全 縣

- 1 石炭—縣城附近=産ス。興安縣ヲ合スレバ埋藏量1億噸ナリ。
- 2 黄鐵鑛—縣城附近=産ス。
- 3 アンチモニー—東門波孟山=産ス。
- 4 鐵—高鄉火燒橋=産ス。

27 天 河 縣

- 1 石炭—勾山、九龍、白馬、新瑣廠、山地等=産ス。羅城縣界ヲ合スレバ埋藏量合計400萬噸ナリ。
- 2 アンチモニー—未詳。

28 興 安 縣

- 1 石炭—唐家市、井上田、界首墟等=産ス。
- 2 天然硫黄—烏雅嶺=産ス。1礦務公司ニテ採掘中ナリ。
- 3 黄鐵鑛—唐家市=産ス。

29 百 壽 縣

- 1 鉛—風門坳=産ス。1礦務公司ニテ採掘中ナリ。
- 2 黄鐵鑛—黃源村=産ス。

30 上 林 縣

- 1 金—南區汝關村瓊山=産ス。1礦務公司アリ。

- 2 鉛—未詳。

31 平 樂 縣

- 1 石炭—二塘象嶺=産ス。1礦務公司ニテ採掘中ナリ。
- 2 鐵—二塘象嶺=産ス。1礦務公司ニテ採掘中ナリ。

- 3 金—未詳。

- 4 錫—湧水塘=産ス。

- 5 鉛—未詳。

- 6 砒—未詳。

32 荔 浦 縣

- 1 金—未詳。
- 2 銀—桂山村=産ス。
- 3 黄鐵鑛—羅衣村、大塘墟=産ス。
- 4 石炭—寡婆嶺=産ス。

33 蒙 山 縣

- 1 金—未詳。
- 2 石炭—未詳。

34 容 縣

- 1 金—石圭=産ス。
- 2 鐵—靈山=産ス。

35 百 色 縣

- 1 金—未詳。
- 2 鐵—縣城附近、中渡、大寨口、橫總、恭城等=産ス。
- 3 石炭—那齊村=産ス。

36 融 縣

- 1 金—未詳。
- 2 鐵—四項=産ス。
- 3 石炭—米洞=産ス。

- 4 石綿—未詳。

37 橫 縣

- 1 金—未詳。

- 2 銀—未詳。

- 3 銅—全信村、鎮龍山=産ス。

- 4 鐵—高山塘、馬灣=産ス。

- 5 黄鐵鑛—未詳。

- 6 滿俺—小盧村、馬波橋=産ス。

- 7 鉛—未詳。

- 8 亞鉛—未詳。

- 9 アンチモニー—鎮龍山=産ス。

- 10 石炭—謝墟=産ス。

38 恩 陞 縣

- 1 金—停狂山=産ス。

- 2 銅—未詳。

- 3 アンチモニー—未詳。

39 崇 善 縣

- 1 金—未詳。

- 2 鐵—未詳。

- 3 アンチモニー—未詳。

40 永 淳 縣

- 1 銀—高山嶺=産ス。

- 2 鉛—高山嶺、六羅村附近=産ス。

- 3 アンチモニー—未詳。

41 鬱 林 縣

- 1 銀—未詳。

- 2 鐵—大寨山附近=産ス。

- 3 黄鐵鑛—犁咀地=産ス。

42 北 流 縣

- 1 銅—未詳。

- 2 陶土—大牛山=産ス。

43 思 恩 縣

- 1 銅—未詳。

- 2 鐵—未詳。

44 靈 川 縣

- 1 鐵—未詳。

45 灌 陽 縣

- 1 鐵—未詳。

- 2 鉛—桃花井、北江茶坪=産ス。

46 榴 江 縣

- 1 鐵—和尚嶺=産ス。

- 2 黄鐵鑛—教化墟、流仙村=産ス。

47 岑 溪 縣

- 1 鐵—未詳。

48 興 業 縣

- 1 鐵—山心、城隍=産ス。

49 龍 勝 縣

- 1 黄鐵鑛—未詳。

50 忻 城 縣

- 1 黄鐵鑛—未詳。

51 果 德 縣

- 1 黄鐵鑛—下區八堡内舊村附近大山=産ス。

52 龍 州 縣

- 1 黄鐵鑛—未詳。

- 2 硃砂—未詳。

53 昭 平 縣

- 1 鉛—未詳。

54 綏 綠 縣

- 1 鉛—東北二團逐戎村附近=産ス。

55 上 思 縣

- 1 鉛—未詳。

56 同 正 縣

- 1 鉛—綠井=産ス。

57 靖 綏 縣

- 1 鉛—未詳。

58 明 江 縣

- 1 鉛—未詳。

59 隆 安 縣

- 1 アンチモニー—未詳。

60 凌 雲 縣



1 アンチモニー—未詳、

61 思林縣

1 アンチモニー—未詳。

62 向都縣

1 アンチモニー—那齊村=産ス。

63 雒容縣

1 石炭—運江=産ス。

64 柳城縣

1 石炭—大埔、石橋=産ス。土法=テ採掘中ナリ。

65 思樂縣

1 石炭—未詳。

66 養利縣

1 硃砂—恩城區附近=産ス。

既知各種鑛物埋藏量統計

鑛物名	埋藏量(噸)	既探掘量(噸)	殘存量(噸)
錫	7,023,100	15,000	7,008,100
鐵	23,125,000	10,000	23,115,000
滿 俺	6,900,000	300,000	6,600,000
銅	360,000	(未探)	360,000
鉛	1,000,000	—	1,000,000
ビスマス	600,000	1,000	599,000
タンゲステン	900,000	2,500	897,500
石 炭	300,000,000	1,500,000	298,500,000

各鑛物年産額及價格 (民國21年12月調査)

鑛物名	産 額	單 價(元)	總 價 格
純 錫	6,500擔	120	780,000
鐵 鑛	1,000噸	3	3,000
生 鐵	400噸	40	16,000
滿 俺 鑛	50,000噸	13	650,000
アンチモニー鑛	10,000噸	60	612,000
純 鉛	298噸	320	95,360
ビスマス鑛	1,150擔	130	149,500
タンゲステン鑛	1,764擔	30	52,920
金	380兩	80	30,400
鉛 鑛	2,100擔	4.5	9,450
亞 鉛 鑛	4,310擔	1	4,310
硃 砂	147擔	12	1,764
石 炭	100,000擔	10	1,000,000
合 計	—	—	3,404,704

全省鑛務公司數及所有鑛區統計 (民國21年12月調査)

鑛物名	公司數	鑛區數	探 礦 噸	探 礦 噸	合 計 噸	百分比
滿 俺	57	77	1,332,557	29,809,885	34,428,987	57.24
ビスマス	11	11	562,949	1,152,962	1,652,902	2.69
タンゲステン	6	9	287,223	2,824,316	3,111,539	5.17
アンチモニー	3	3	930,000	259,600	1,189,600	1.98
石 炭	4	4	—	2,540,292	2,540,192	4.22
礫 化 鐵 鑛	1	1	—	77,988	77,988	0.13
銅	2	2	—	668,801	668,801	1.11
錫	12	12	3,905,789	1,703,145	9,608,934	15.98
鉛	4	4	—	434,397	434,397	0.72
金	16	22	509,533	1,770,645	6,280,178	10.44
礫 黃 土	1	1	—	134,406	134,406	0.23
陶 土	1	1	—	55,994	55,994	0.09
計	118	147	8,528,042	52,613,876	60,146,918	100.00

省營錫鑛産地面積表

縣	産 地	面積(畝)	縣	産 地	面積(畝)
富 川	白 沙	6,480	鍾 山	栗 頭 源	9,720
”	廟 灣	3,240	”	望 高	9,180
”	蓮 塘 子	2,700	”	松 木 寨	7,500
賀	水 岩 壩	7,560	南 丹	芒 場	11,880
”	牛 路 壩	6,480	河 池	大 山	
”	蓮 塘	4,320	”	周 疇	
”	新 村 坪	3,240	”	拉 苗	72,360
合 計					

(續業週報299號)

中國ニ於ケル石油賦存量ノ概要

中國地質調査所ノ調査ニ據レバ中國ニ於ケル石油賦存量ハ32億7千4百萬桶(バレル)ニシテ、陝西、山西、甘肅、貴州、四川、河北、遼寧ノ各省最モ多ク、既ニ採取セルモノハ陝西ノ延長、貴州ノ龍里、甘肅ノ玉門祁連山、新疆ノ塔里木河一帶、廣東ノ茂名、電白、奉天ノ撫順、熱河ノ呼源等ナリ。世界石油總賦存量ヲ449億3千6百萬桶トスレバ北部中國ニテソノ約7%ヲ占ム。中國ノ石油ハ民國18年(1929年)ヨリ産出セルモ甚ダシキ發達ヲ見ズ。1933年ノ産額ヲ見ルニ次ノ如シ。



陝西省	552桶	甘肅省	100桶
四川省	144	新疆省	300
河北省	1,592桶	奉天省	455,787桶

以上ノ中遼寧省ノモノハ中國ノ所有ニ非ズ。  
最近5年間ノ石油輸入量ヲ示セバ次ノ如シ。

民國18年	339,263,293ガロン(米國)
” 19 ”	185,608,596
” 20 ”	171,140,380
” 21 ”	145,918,794
” 22 ”	187,261,165

現在中國石油鑛ノ著名ナルハ陝西省延長石油鑛ヲ以テ最トナス。該鑛ハ光緒29年省人于彦彪ガ獨逸商人ト私的開採契約ヲ結ビタルモ、後ニ至リテ省當局ノ抗阻ニヨリ、32年官辦トナリ、資本金22萬7千兩ヲ以テ33年8月鑿井採取ヲ開始シ日産3,000斤ニ達セリ。其後産額減少シ民國3年ニ至ルマデ1日200—300斤ヲ産出セシモ同8年ニ至リ6,000—7,000斤ニ激増セリ。以來漸次減産セルタメ、同18年新タニ深サ53丈ノ鑿井ヲナシ1日20,000斤ヲ産出セリ。開坑ヨリ民國22年ニ至ルマデ合計産油量3,300餘噸ナリ。然レドモ此地方ハ交通不便ニシテ運賃高ク、原價高キタメ斯業餘リニ發達セズ。コノ外尙ホ甘肅、新疆、四川ニ石油鑛アルモ何レモ土法採取ニシテ記載スルニ足ラズ。  
(鑛業週報297號)

新刊紹介

題	著者	書名	發行年月
滿蒙ノ地質ト探鑛	岩崎重三	日本鑛業會誌	8.8
內蒙古ヨリ「カンブリア」紀化石	齊藤和夫	地質學雜誌	9.5
Manchuriophycusノ新産地	遠藤隆次	”	”
呼倫貝爾ノ經濟地域ニ關スル地理學的研究	村上節太郎	地學雜誌	9.5
北票炭鑛ノ概況	吉村萬治	燃料協會誌	9.5
本溪湖炭ニ就テ	荒木利恭 福久茂	”	”
開灤鑛務局ノ沿革		滿鐵調査月報	9.6
滿洲國ノ石油事情		石油時報	8.11
山西省炭業ノ經濟事情	黃伯遠	石炭時報	9.6
大冶鐵山ノ地質ト鑛床	植村癸巳男	岩石鑛物鑛床學	9.
奉天省ノ鑛業	小阪玄伍	探鑛冶金月報	8.10
滿洲國ノ金鑛及砂金	小山一郎	鑛業	8.1
熱河省新邱炭田概況	石川成章	”	9.4
滿洲國奉天省清原縣大金廠朱家溝金山調査概報	久原幹雄	”	9.7
滿洲國ノ鑛業	佐山總平	北海道石炭鑛業會々報	9.1
撫順炭ノ説明ト一般石炭ノ知識	岡新六	炭の光(67號)	8.9
吉林寧安縣地質及鏡泊湖與吊水樓瀑布之成因	伊贊勳	中國地質學會誌(第12卷第3期)	民國22.6
江西省鑛産狀況		海外經濟事情	8.45號
中華民國山東省ニ於ケル炭鑛事情		筑豐石炭鑛業會月報	9.9.
The Geology of Shanghai	Alexander Matheson	The Far Eastern Review	Oct. 1933



昭和10年4月10日印刷

昭和10年4月13日發行

大連市兒玉町4番地

發行所 南滿洲鐵道株式會社地質調査所

發行人 所長 木 村 六 郎

編輯人 近 藤 正 郎

大連市大山通63番地

印刷人 太 田 信 三

大連市石炭町33番地

印刷所 小林又七支店印刷部



# SHINA KOGYO JIHO

No. 32, December 1, 1934.

---

## CONTENTS

### Papers & Reports, etc.

- On the fluorite deposits of Kaiping and Haicheng prefectures, Mukden Province .....by S. Monden..... 1
- Report on geology of the Pei-lao-sung-ling tunnel along the Tumen-Ningan Railway, the boundary between Pinchiang and Chien-tao Provinces. by S. Monden.....14
- Report on geology of the Kang-tai-jen district, Shen-yang prefecture, Mukden Province, with special reference on the limestone beds. by S. Yamaguchi.....21
- On the Coal-beds of Santaokoutsu, Wuchang prefecture, Pinchiang Province.....by K. Sawa.....35
- On the building stones which are found near the City of Harbin, North Manchuria. .... by K. Sawa.....40
- The steel industry of Japan (abstract from an article by Harold Huggins in The Far Eastern Review, Oct., 1931.) .....43

### Current News.

- Manchuria. .... 111
- China..... 126

### New Books.

---

THE GEOLOGICAL INSTITUTE  
SOUTH MANCHURIA RAILWAY COMPANY  
DAIREN.

終